

男女共同参画に関する市民意識調査 報告書

2020年3月

春日市

目次

I 調査の概要

- 1. 調査の目的 1
- 2. 調査の内容 1
- 3. 調査の性格 1
- 4. 回答者の属性 2
- 5. 調査結果利用上の注意 5

II 調査結果

第1章 男女平等に関する意識について

- 1. 性別役割分担意識について 6
- 2. 男女の地位の平等感 8

第2章 子どもの育て方・教育について

- 1. 子どもの育て方 24
- 2. 男女共同参画を進めていくために学校教育の場で力を入れること 32

第3章 家庭生活について

- 1. 家庭内での役割分担の状況 34
- 2. パートナー（配偶者や恋人）にもっとしてほしいこと 52

第4章 職業や仕事について

- 1. 女性が職業をもつことについて 54
- 2. 女性が職業をずっともたない方がいい理由 56
- 3. 女性が職業をずっともっている場合の働き方 58
- 4. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 60
- 5. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと 62

第5章 パートナー（配偶者や恋人）からの暴力について

- 1. 暴力だと思うもの 64
- 2. パートナー（配偶者や恋人）からの暴力の有無 68
- 3. 暴力を受けた後の対応 71
- 4. 対応で「何もしていない」理由 72

第6章 地域活動について

1. 地域社会で参加している実践活動…………… 74
2. 役職、公職への就任や立候補への依頼への対応…………… 76
3. 役職、公職への就任や立候補への依頼を断る理由…………… 78
4. 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点…………… 80

第7章 男女共同参画に関する施策について

1. 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知…………… 82
2. 男女共同参画社会を実現するために力をいれるべきところ…………… 86

調査結果のまとめ…………… 88

参考資料

使用した調査票…………… 93

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は「第4次春日市男女共同参画プラン」の策定にあたり市民の男女平等に関する意識と実態を把握し、今後の施策検討の基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の内容

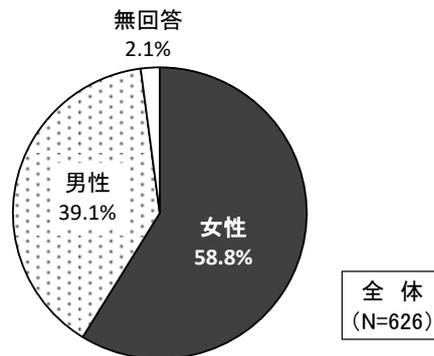
- (1) 男女平等に関する意識について
- (2) 子どもの育て方・教育について
- (3) 家庭生活について
- (4) 職業や仕事について
- (5) パートナー（配偶者や恋人）からの暴力について
- (6) 地域活動について
- (7) 男女共同参画に関する施策について

3. 調査の性格

- | | |
|--------------------|---------------------------------|
| (1) 調査地域 | 春日市内全域 |
| (2) 調査対象者 | 春日市内に居住する満18歳以上の男女
2,000サンプル |
| (3) 有効回収数 | 626サンプル（有効回収率31.3%） |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳による無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送法 |
| (6) 調査期間 | 令和元年8月29日（木）～9月20日（金） |
| (7) 調査企画・実施 | 春日市人権男女共同参画課 |
| (8) 調査結果の分析
と総括 | 阪井 俊文（北九州市立大学 非常勤講師） |

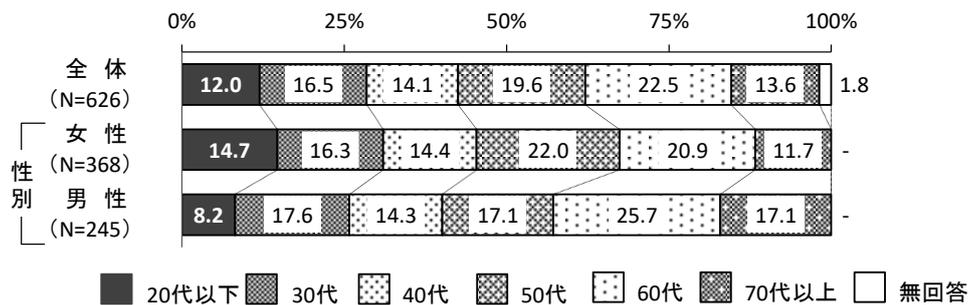
4. 回答者の属性

◎性別



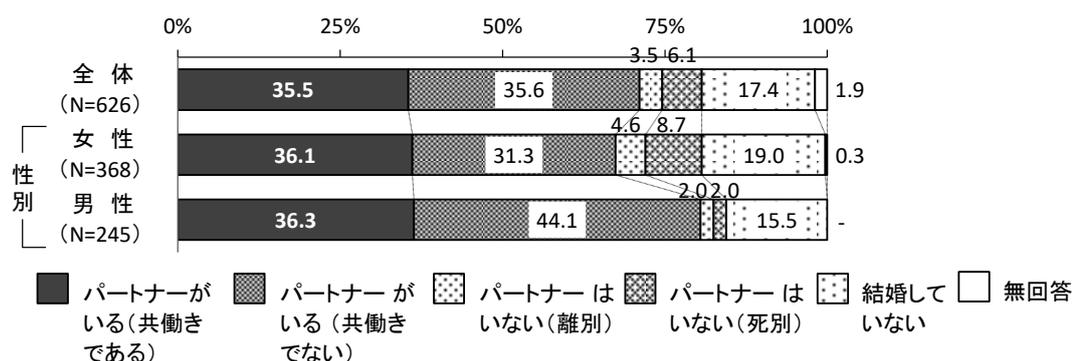
回答者の性別は「男性」が39.1%、「女性」が58.8%と女性の回答が2割ほど多い。従って、本調査における回答者全体の結果は、女性の意識や意見の方がやや強く反映されたものとなっている。

◎年齢



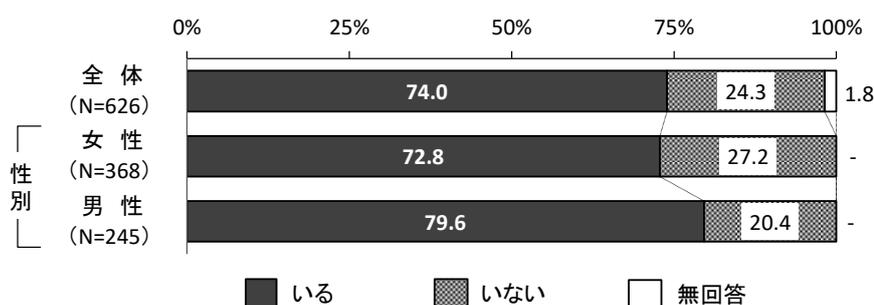
回答者の年齢は、「60代」(22.5%)、「50代」(19.6%)、「30代」(16.5%)の順で多くなっている。

◎婚姻状況



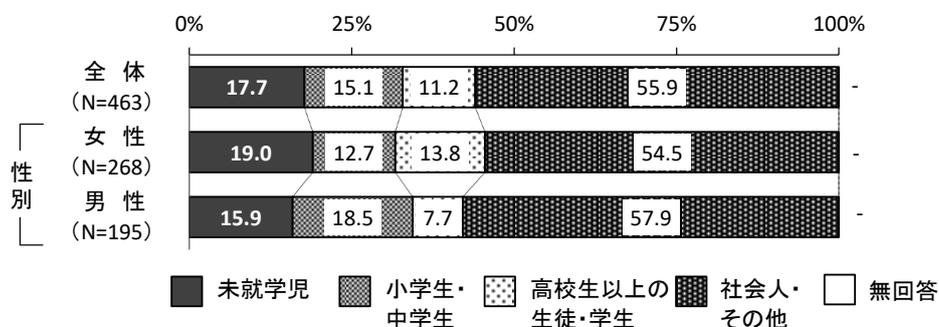
回答者の婚姻状況は、「パートナーがいる（共働きである）」と「パートナーがいる（共働きでない）」がそれぞれ約35%を占めている。

◎子どもの有無



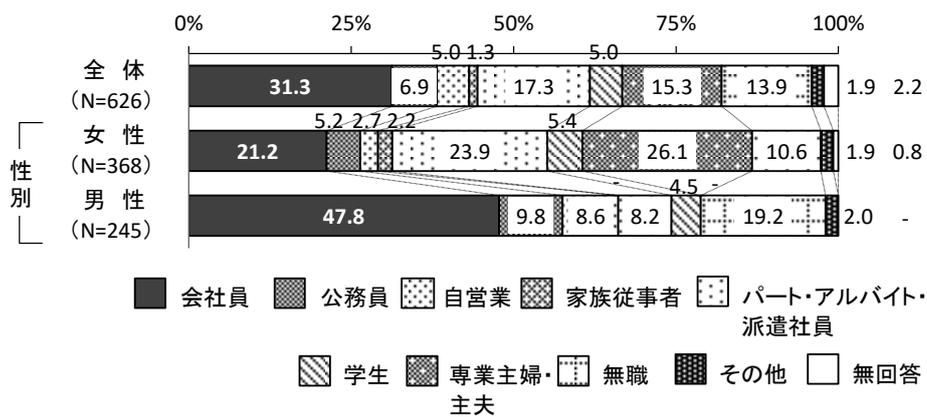
子どもがいる回答者の割合は74.0%となっている。

◎【子どもがいる人に】一番下の子どもの年齢



子どもがいる場合の一番下の子どもの年齢は、「社会人・その他」が55.9%で多くなっており、次いで「未就学児」が17.7%、「小学生・中学生」が15.1%となっている。

◎職種・職業



回答者の職業は、「会社員」が31.3%で最も多くなっている。

性別にみると、女性では「専業主婦」が26.1%で最も多いが、男性では「専業主夫」はゼロとなっている。

5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数表、図表に示すNは、比率算出上の基数（回答者数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の回答者数と合わないことがある。
- (2) 文中の数字は、百分比の小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%とはならない。
- (3) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- (4) 数表中の「-」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- (5) 付問○-○は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (7) 今回の調査は、次の調査結果と比較分析を行っている。

春日市 「男女共同参画社会に関する市民意識調査」平成26年8月実施

福岡県 「男女共同参画社会に向けての意識調査」平成26年12月実施

内閣府 「男女共同参画に関する世論調査」令和元年9月実施

内閣府 「男女間における暴力に関する調査」平成29年12月実施

II 調査結果

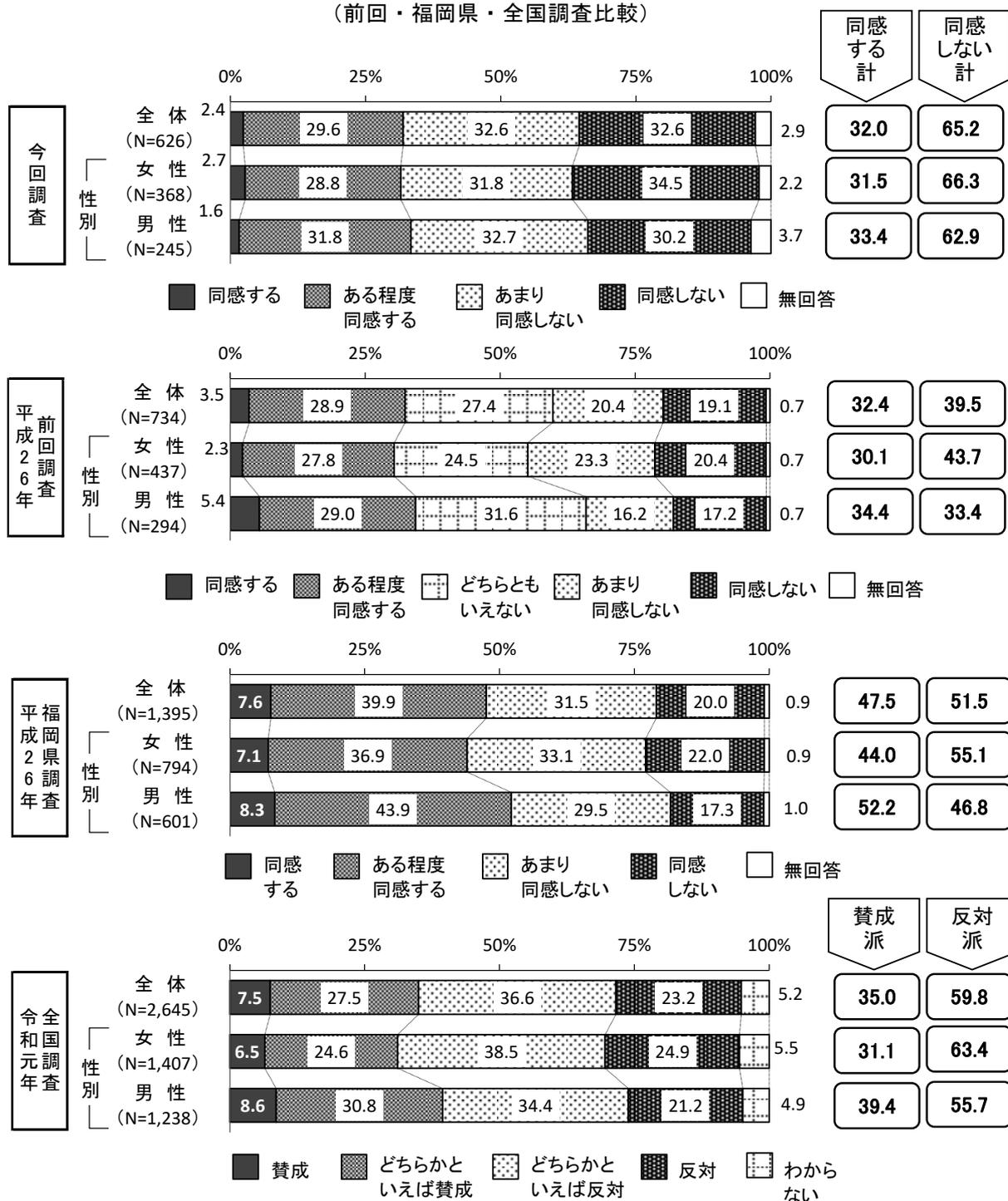
第1章 男女平等に関する意識について

1. 性別役割分担意識について

問1. 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなた自身の気持ちとして、この考え方にどの程度同感しますか。(○は1つだけ)

図表1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について [全体、性別]

(前回・福岡県・全国調査比較)



Ⅱ 調査結果 第1章 男女平等に関する意識について

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感しない」と「あまり同感しない」を合わせた『同感しない』は65.2%となっており、「同感する」と「ある程度同感する」を合わせた『同感する』の32.0%を33.2ポイントと大幅に上回っている。

性別にみても大きな違いはないが、「同感しない」は女性(34.5%)が男性を4.3ポイント上回っており、こうした考え方に強く反対する人の割合は女性の方が若干多くなっている。

平成26年8月実施された春日市「男女共同参画社会に関する市民意識調査」(以下、前回調査という)との比較では、本調査と選択肢が異なることに留意が必要であるが、『同感する』の割合は男女ともほぼ変化していない。

平成26年12月実施された福岡県「男女共同参画社会に向けての意識調査」(以下、福岡県調査という)と比較すると、『同感しない』が13.7ポイント高くなっており、県全体と比較して春日市では性別役割分担意識に否定的な人が多くなっている。

また、令和元年9月実施された内閣府「男女共同参画に関する世論調査」(以下、全国調査という)との比較では、選択肢の文言が異なることに留意が必要ではあるが、やはり春日市の方が否定的な人の割合が高くなっている。

年齢別にみると、女性では、年代が低い層で『同感しない』割合が高くなっており、特に20代以下では約8割と高くなっている。女性の70代以上と男性の40代で『同感する』が4割を超えて高い。

図表1-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について〔全体、年齢別〕

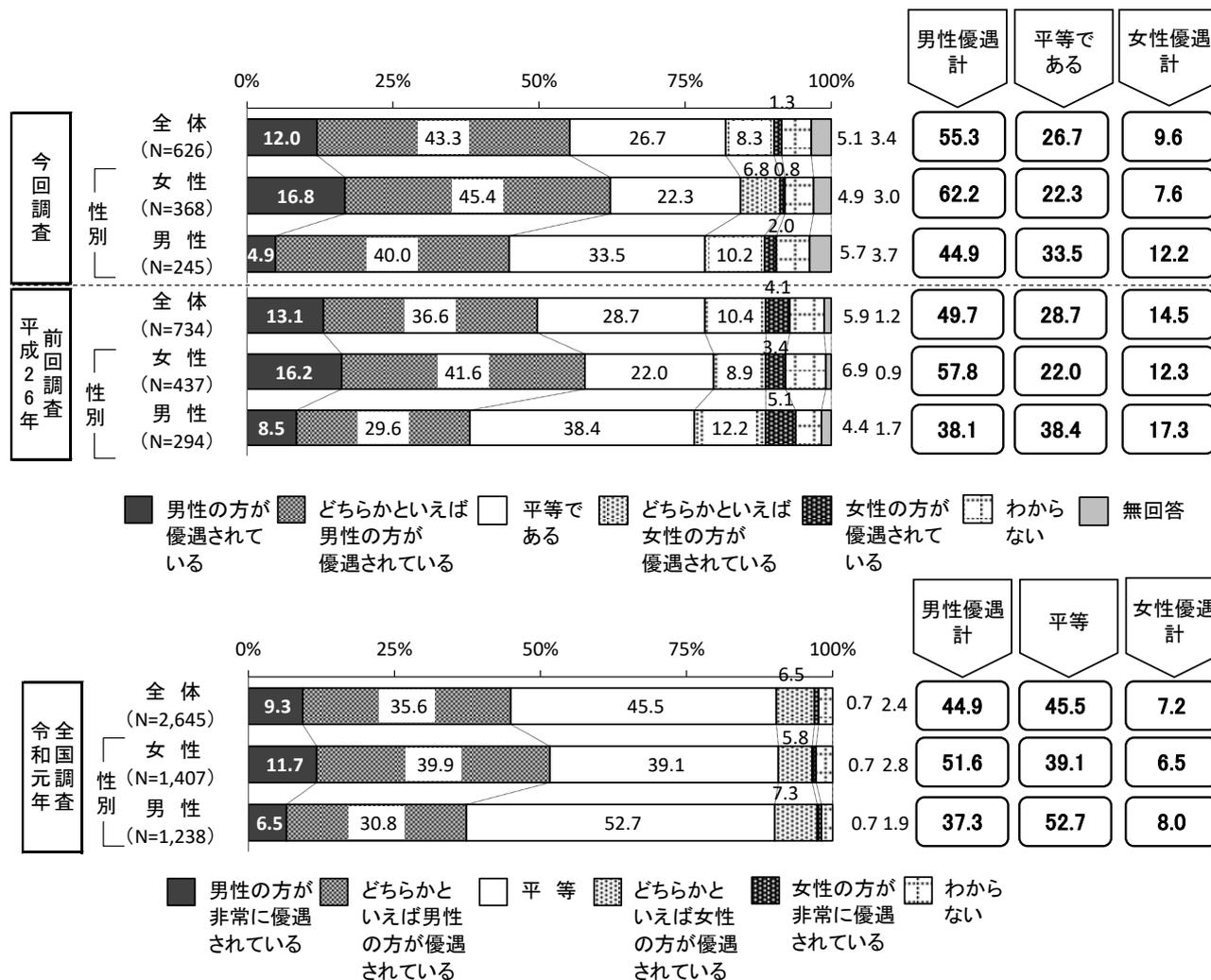
		(%)							
		標本数	同感する	同あ感るす程る度	感あしまなりい同	い同感しな	無回答	計同感する	い同計感しな
全体		626 100.0	15 2.4	185 29.6	204 32.6	204 32.6	18 2.9	200 32.0	408 65.2
年齢別	女性:20代以下	54	1.9	16.7	35.2	44.4	1.9	18.6	79.6
	女性:30代	60	5.0	28.3	33.3	31.7	1.7	33.3	65.0
	女性:40代	53	-	30.2	32.1	37.7	-	30.2	69.8
	女性:50代	81	1.2	29.6	25.9	40.7	2.5	30.8	66.6
	女性:60代	77	2.6	31.2	39.0	22.1	5.2	33.8	61.1
	女性:70代以上	43	7.0	37.2	23.3	32.6	-	44.2	55.9
	男性:20代以下	20	-	35.0	35.0	25.0	5.0	35.0	60.0
	男性:30代	43	-	25.6	32.6	39.5	2.3	25.6	72.1
	男性:40代	35	2.9	40.0	28.6	28.6	-	42.9	57.2
	男性:50代	42	2.4	28.6	28.6	35.7	4.8	31.0	64.3
	男性:60代	63	3.2	28.6	36.5	27.0	4.8	31.8	63.5
	男性:70代以上	42	-	38.1	33.3	23.8	4.8	38.1	57.1
	無回答		13	7.7	7.7	53.8	23.1	7.7	15.4

2. 男女の地位の平等感

問2. あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 次の(ア)から(ク)のそれぞれについて、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つだけ)

(ア) 家庭生活

図表1-3 家庭生活での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・全国調査比較)



様々な分野における男女の地位について平等になっていると思うかをたずねた。「家庭生活」については、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が43.3%と最も高く、「男性の方が優遇されている」(12.0%)を合わせた『男性優遇』は55.3%と半数を超えている。「平等である」は26.7%、「女性の方が優遇されている」(1.3%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(8.3%)を合わせた『女性優遇』は9.6%となっている。

性別で見ると、「平等である」は男性が33.5%、女性が22.3%となっており、男女の隔たりが大きい。女性では『男性優遇』(62.2%)が6割強を占めており、男性より17.3ポイント高くなっている。

Ⅱ 調査結果 第1章 男女平等に関する意識について

前回調査と比較すると、男女とも『女性優遇』が減少し、『男性優遇』が増加している。

全国調査との比較では、本調査の方が「平等」が18.8ポイント低く、『男性優遇』が10.4ポイント高くなっている。ただし、全国調査とは選択肢の文言が若干異なっている点に留意が必要である。

年齢別にみると、男女ともに年齢が低い層で「平等である」の割合が高くなり、『男性優遇』の割合が低くなる傾向が顕著である。

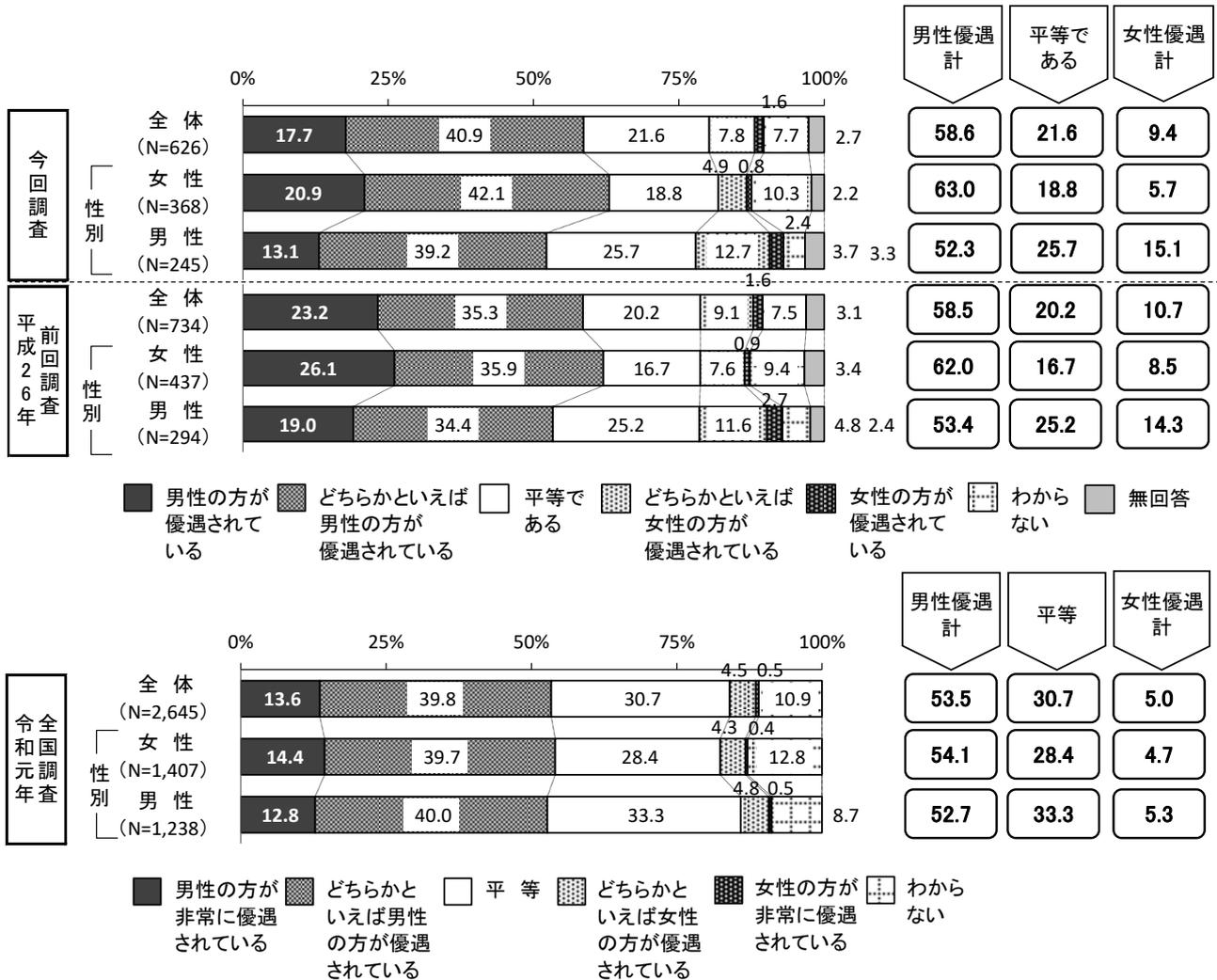
図表1-4 家庭生活での男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	男性の方が優遇	どちらかという方が優え	平等である	どちらかという方が優え	女性の方が優遇	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		626 100.0	75 12.0	271 43.3	167 26.7	52 8.3	8 1.3	32 5.1	21 3.4	346 55.3	60 9.6
年齢別	女性:20代以下	54	11.1	27.8	35.2	7.4	-	16.7	1.9	38.9	7.4
	女性:30代	60	16.7	41.7	30.0	8.3	1.7	-	1.7	58.4	10.0
	女性:40代	53	20.8	45.3	20.8	3.8	1.9	7.5	-	66.1	5.7
	女性:50代	81	23.5	39.5	18.5	9.9	1.2	2.5	4.9	63.0	11.1
	女性:60代	77	11.7	63.6	10.4	6.5	-	1.3	6.5	75.3	6.5
	女性:70代以上	43	16.3	51.2	25.6	2.3	-	4.7	-	67.5	2.3
	男性:20代以下	20	5.0	20.0	50.0	10.0	-	15.0	-	25.0	10.0
	男性:30代	43	4.7	34.9	41.9	4.7	4.7	4.7	4.7	39.6	9.4
	男性:40代	35	2.9	28.6	37.1	22.9	2.9	5.7	-	31.5	25.8
	男性:50代	42	-	47.6	28.6	11.9	-	7.1	4.8	47.6	11.9
	男性:60代	63	6.3	47.6	28.6	9.5	1.6	3.2	3.2	53.9	11.1
	男性:70代以上	42	9.5	45.2	26.2	4.8	2.4	4.8	7.1	54.7	7.2
無回答		13	7.7	46.2	23.1	15.4	-	-	7.7	53.9	15.4

(イ) 職場

図表 1-5 職場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・全国調査比較)



「職場」については、家庭生活と同様に『男性優遇』が 58.6%と高く、『女性優遇』(9.4%)と「平等である」(21.6%)は低くなっている。

性別で見ると、『男性優遇』は女性(63.0%)の方が10.7ポイント高くなっており、家庭生活の場合と同様に女性の不平等感が強い。

前回調査との比較では、大きな違いはみられない。

全国調査と比較すると、女性では『男性優遇』の割合が本調査の方が8.9ポイント高くなっている。

Ⅱ 調査結果 第1章 男女平等に関する意識について

年齢別にみると、家庭生活の場合と同様に男女ともに年齢が低い層で「平等である」の割合が高くなり、『男性優遇』の割合が低くなる傾向がみられる。男性では、30代と40代で『女性優遇』が2割半ばとやや高くなっている。

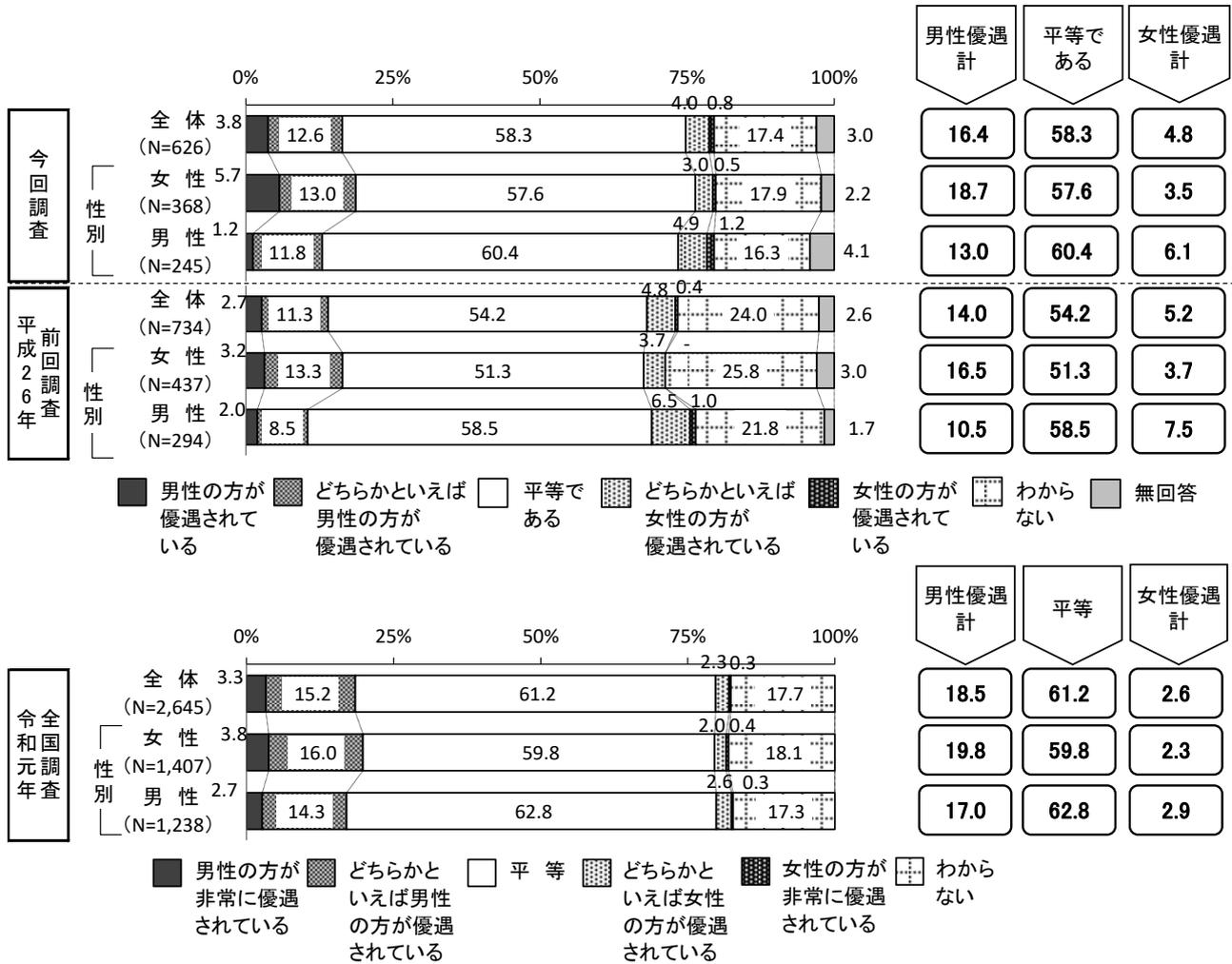
図表1-6 職場での男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	男性の方が優遇	どちらかという方が優え	平等である	どちらかという方が優え	女性の方が優遇	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		626 100.0	111 17.7	256 40.9	135 21.6	49 7.8	10 1.6	48 7.7	17 2.7	367 58.6	59 9.4
年齢別	女性:20代以下	54	14.8	27.8	31.5	5.6	-	20.4	-	42.6	5.6
	女性:30代	60	25.0	40.0	20.0	5.0	-	8.3	1.7	65.0	5.0
	女性:40代	53	18.9	37.7	17.0	9.4	5.7	11.3	-	56.6	15.1
	女性:50代	81	17.3	56.8	18.5	1.2	-	3.7	2.5	74.1	1.2
	女性:60代	77	27.3	35.1	14.3	6.5	-	10.4	6.5	62.4	6.5
	女性:70代以上	43	20.9	53.5	11.6	2.3	-	11.6	-	74.4	2.3
	男性:20代以下	20	5.0	20.0	45.0	10.0	-	20.0	-	25.0	10.0
	男性:30代	43	9.3	30.2	30.2	18.6	7.0	2.3	2.3	39.5	25.6
	男性:40代	35	5.7	34.3	31.4	22.9	5.7	-	-	40.0	28.6
	男性:50代	42	14.3	42.9	23.8	11.9	2.4	2.4	2.4	57.2	14.3
	男性:60代	63	12.7	50.8	19.0	11.1	-	3.2	3.2	63.5	11.1
	男性:70代以上	42	26.2	40.5	19.0	2.4	-	2.4	9.5	66.7	2.4
無回答		13	15.4	38.5	23.1	-	7.7	7.7	7.7	53.9	7.7

(ウ) 学校教育の場

図表 1-7 学校教育の場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・全国調査比較)



「学校教育の場」については、「平等である」が 58.3%となっており、他の分野と比べて平等感が高い。「わからない」とする割合が 17.4%で他の分野よりも高いが、これは回答者の年齢が高い場合に、最近の教育現場の状況は分からないということと考えられる。

性別にみると、女性では『男性優遇』が 18.7%で男性よりも 5.7ポイント高くなっている。

前回調査との比較では、「平等である」の割合が増加しており、特に女性では今回の方が 6.3ポイント高くなっている。

全国調査と比較すると、今回調査の方が平等とする割合が若干低い、『男性優遇』も若干低く傾向に大きな違いはない。

Ⅱ 調査結果 第1章 男女平等に関する意識について

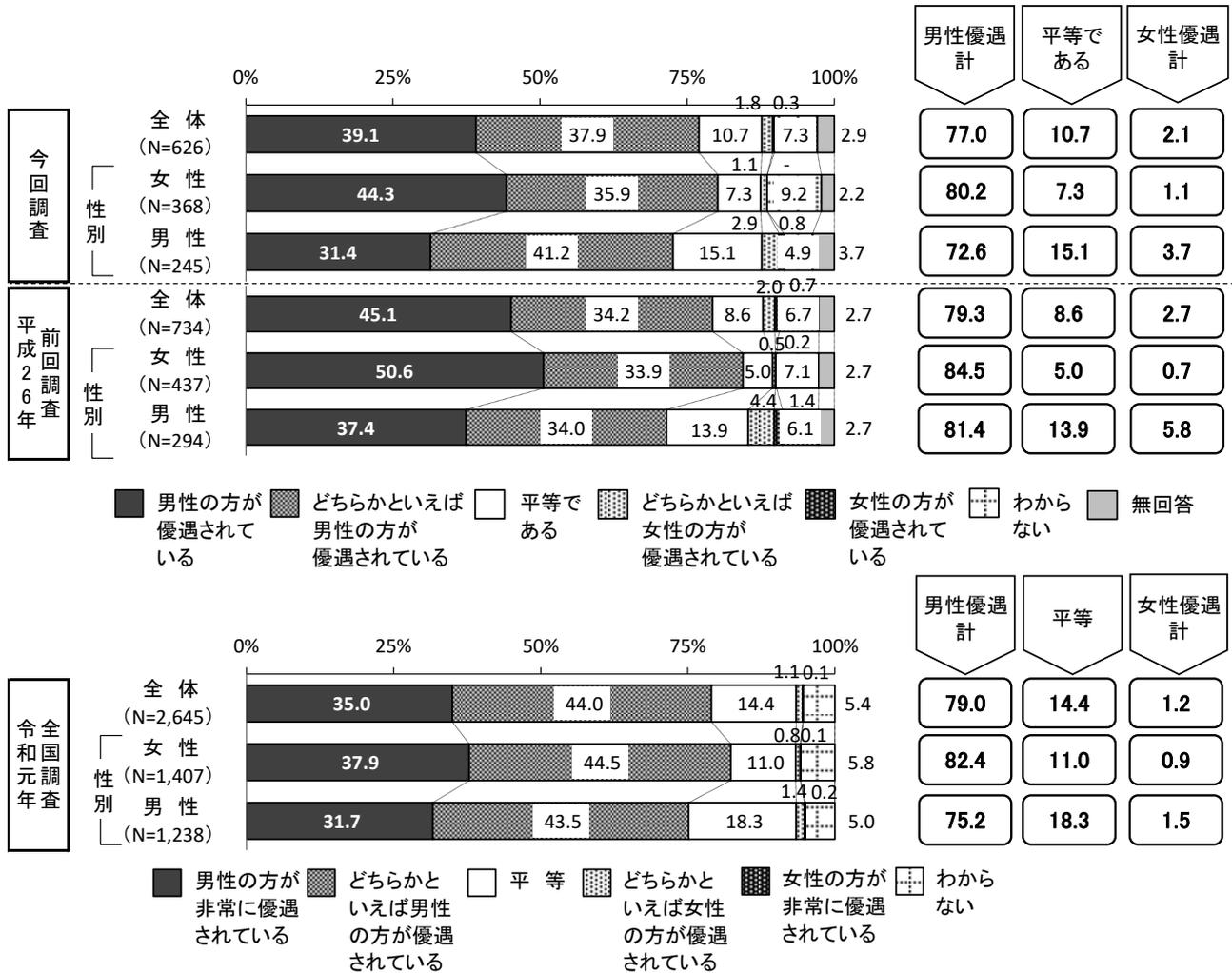
年齢別にみると、年齢が低い層で「平等である」の割合が高いという傾向がみられ、20代以下では男女とも約7割が「平等である」と回答している。

図表1-8 学校教育の場での男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

		標本数	さ男性 れての 方が優 遇	過ばど さ男ち れ性ら てのか い方が 優え	平 等 で あ る	過ばど さ女ち れ性ら てのか い方が 優え	さ女性 れての 方が優 遇	わ か ら な い	無 回 答	男性 優 遇 計	女性 優 遇 計
全体		626 100.0	24 3.8	79 12.6	365 58.3	25 4.0	5 0.8	109 17.4	19 3.0	103 16.4	30 4.8
年齢別	女性:20代以下	54	3.7	9.3	70.4	3.7	1.9	11.1	-	13.0	5.6
	女性:30代	60	5.0	6.7	60.0	5.0	-	21.7	1.7	11.7	5.0
	女性:40代	53	3.8	11.3	54.7	3.8	-	26.4	-	15.1	3.8
	女性:50代	81	6.2	19.8	53.1	3.7	1.2	12.3	3.7	26.0	4.9
	女性:60代	77	9.1	15.6	48.1	1.3	-	20.8	5.2	24.7	1.3
	女性:70代以上	43	4.7	11.6	67.4	-	-	16.3	-	16.3	-
	男性:20代以下	20	-	5.0	70.0	15.0	-	10.0	-	5.0	15.0
	男性:30代	43	2.3	4.7	58.1	9.3	4.7	18.6	2.3	7.0	14.0
	男性:40代	35	2.9	11.4	65.7	5.7	-	14.3	-	14.3	5.7
	男性:50代	42	-	9.5	54.8	-	2.4	28.6	4.8	9.5	2.4
	男性:60代	63	-	12.7	71.4	1.6	-	11.1	3.2	12.7	1.6
男性:70代以上	42	2.4	23.8	42.9	4.8	-	14.3	11.9	26.2	4.8	
無回答		13	-	15.4	38.5	15.4	-	23.1	7.7	15.4	15.4

(エ) 政治の場

図表 1-9 政治の場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・全国調査比較)



「政治の場」については、『男性優遇』(77.0%)が8割近くを占めており、「平等である」は10.7%と低い。『男性優遇』の内訳として「男性の方が優遇されている」(39.1%)が約4割を占めており、他の分野と比べてかなり不平等感が強くなっている。

性別にみると、『男性優遇』は女性で80.2%と高く、男性とは7.6ポイントの差がある。

全国調査と比較すると、今回調査の方が平等とする割合が若干低いが、全体的な傾向はそれほど変わらない。

Ⅱ 調査結果 第1章 男女平等に関する意識について

年齢別にみると、『男性優遇』の割合が女性は50代、男性は40代で約8割から9割と特に高くなっている。

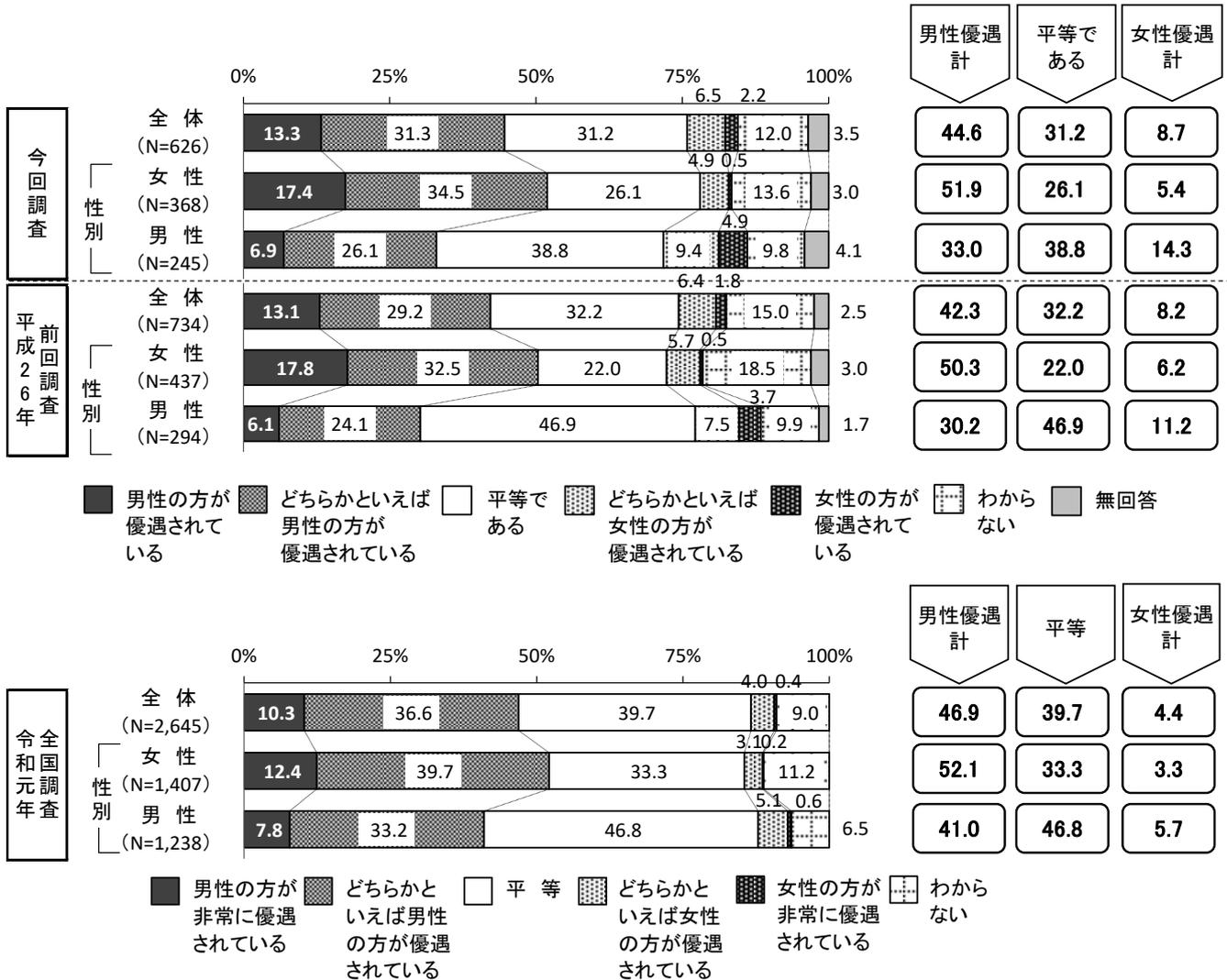
図表1-10 政治の場での男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	男性の方が優遇	どちらかという方が優え	平等である	どちらかという方が優え	女性の方が優遇	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		626 100.0	245 39.1	237 37.9	67 10.7	11 1.8	2 0.3	46 7.3	18 2.9	482 77.0	13 2.1
年齢別	女性:20代以下	54	37.0	33.3	7.4	-	-	22.2	-	70.3	-
	女性:30代	60	53.3	31.7	6.7	-	-	6.7	1.7	85.0	-
	女性:40代	53	41.5	35.8	3.8	5.7	-	13.2	-	77.3	5.7
	女性:50代	81	50.6	40.7	2.5	1.2	-	2.5	2.5	91.3	1.2
	女性:60代	77	41.6	36.4	10.4	-	-	5.2	6.5	78.0	-
	女性:70代以上	43	37.2	34.9	16.3	-	-	11.6	-	72.1	-
	男性:20代以下	20	25.0	45.0	15.0	-	-	15.0	-	70.0	-
	男性:30代	43	25.6	44.2	20.9	4.7	-	2.3	2.3	69.8	4.7
	男性:40代	35	22.9	57.1	8.6	5.7	2.9	2.9	-	80.0	8.6
	男性:50代	42	28.6	45.2	14.3	4.8	-	4.8	2.4	73.8	4.8
	男性:60代	63	38.1	34.9	15.9	1.6	-	3.2	6.3	73.0	1.6
男性:70代以上	42	40.5	28.6	14.3	-	2.4	7.1	7.1	69.1	2.4	
無回答		13	38.5	30.8	23.1	-	-	-	7.7	69.3	-

(オ) 法律や制度のうえ

図表 1-11 法律や制度のうえでの男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・全国調査比較)



「法律や制度のうえでは」、「平等である」が31.2%、『男性優遇』が44.6%となっている。性別にみると、男性よりも女性の方が「平等である」が12.7ポイント低く、『男性優遇』が18.9ポイント高くなっている。他の分野と比べて男女の認識の隔たりが大きい結果となっている。全国調査と比較すると、今回調査は平等とする割合が8.5ポイント低く、『女性優遇』や「わからない」の割合がやや高くなっている。

Ⅱ 調査結果 第1章 男女平等に関する意識について

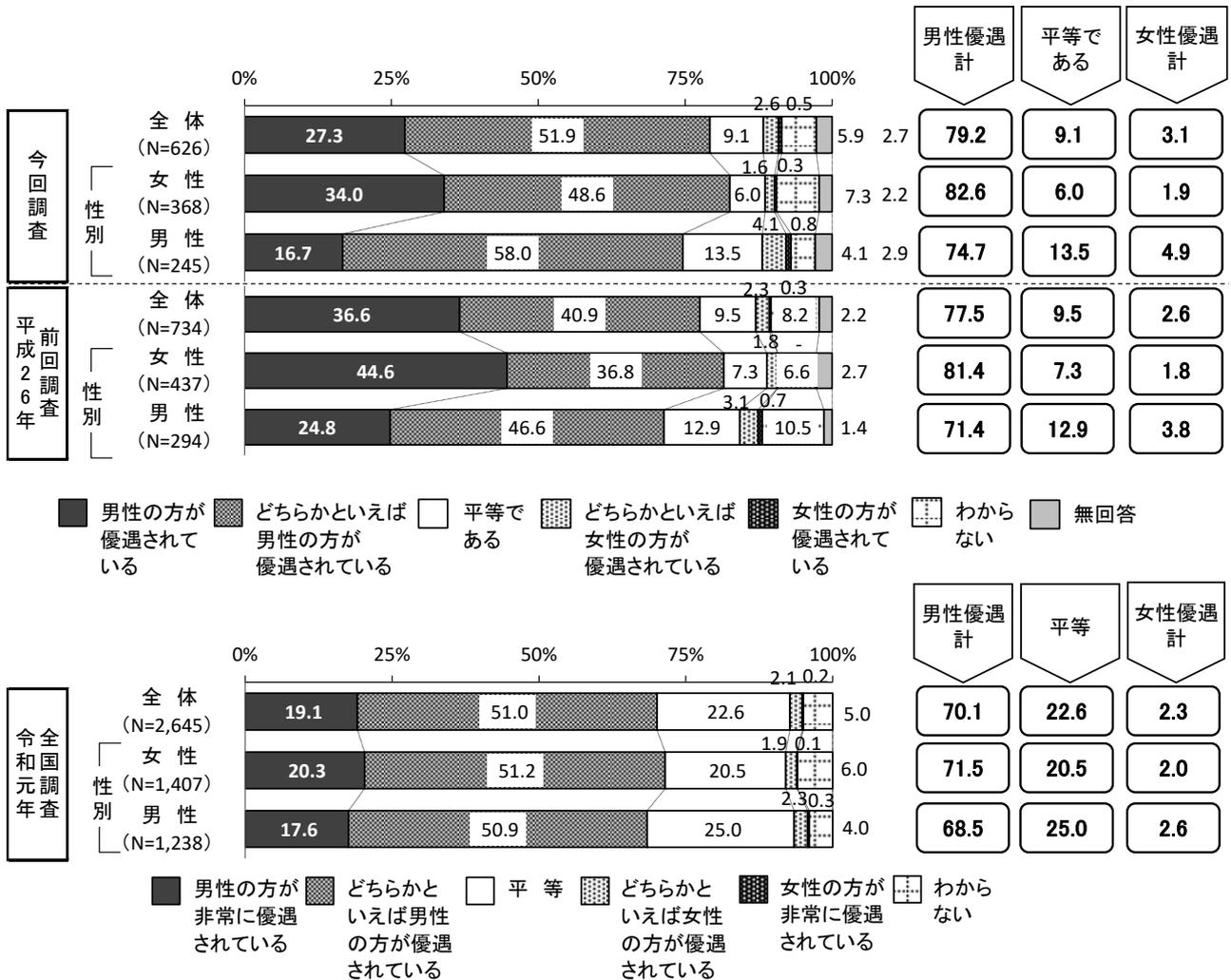
年齢別にみると、男性では年齢が高い層で『男性優遇』の割合が高くなる傾向がみられるが、女性では70代以上で『男性優遇』(32.6%)の割合が低く、約5割が「平等である」(48.8%)としている。

図表1-12 法律や制度のうえでの男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

		標本数	男性の方が優遇	どちらかという方が優え	平等である	どちらかという方が優え	女性の方が優遇	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		626 100.0	83 13.3	196 31.3	195 31.2	41 6.5	14 2.2	75 12.0	22 3.5	279 44.6	55 8.7
年齢別	女性:20代以下	54	11.1	22.2	37.0	5.6	1.9	22.2	-	33.3	7.5
	女性:30代	60	20.0	35.0	20.0	8.3	-	15.0	1.7	55.0	8.3
	女性:40代	53	22.6	26.4	20.8	9.4	-	20.8	-	49.0	9.4
	女性:50代	81	22.2	40.7	24.7	1.2	1.2	7.4	2.5	62.9	2.4
	女性:60代	77	15.6	48.1	15.6	3.9	-	7.8	9.1	63.7	3.9
	女性:70代以上	43	9.3	23.3	48.8	2.3	-	14.0	2.3	32.6	2.3
	男性:20代以下	20	5.0	15.0	30.0	15.0	-	30.0	5.0	20.0	15.0
	男性:30代	43	7.0	18.6	34.9	9.3	9.3	18.6	2.3	25.6	18.6
	男性:40代	35	-	20.0	48.6	14.3	8.6	5.7	2.9	20.0	22.9
	男性:50代	42	7.1	23.8	40.5	11.9	2.4	11.9	2.4	30.9	14.3
	男性:60代	63	6.3	31.7	39.7	9.5	6.3	3.2	3.2	38.0	15.8
	男性:70代以上	42	14.3	38.1	35.7	-	-	2.4	9.5	52.4	-
	無回答	13	15.4	38.5	30.8	-	-	7.7	7.7	53.9	-

(カ) 社会通念、慣習、しきたりなど

図表 1-13 社会通念、慣習、しきたりなどでの男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・全国調査比較)



「社会通念・慣習・しきたりなど」については、『男性優遇』が 79.2%を占めており、「平等である」(9.1%)は約 1 割と低い。他の分野と比べると際立って不平等感が強くなっている。

性別にみると、女性の方が不平等感はより強くなっており、『男性優遇』が 82.6%で男性(74.7%)よりも 7.9 ポイント高い。

全国調査と比較すると、今回調査の方が平等とする割合が 13.5 ポイント低く、『男性優遇』が 9.1 ポイント高くなっており、全国的な結果よりも不平等感が強くなっている。

Ⅱ 調査結果 第1章 男女平等に関する意識について

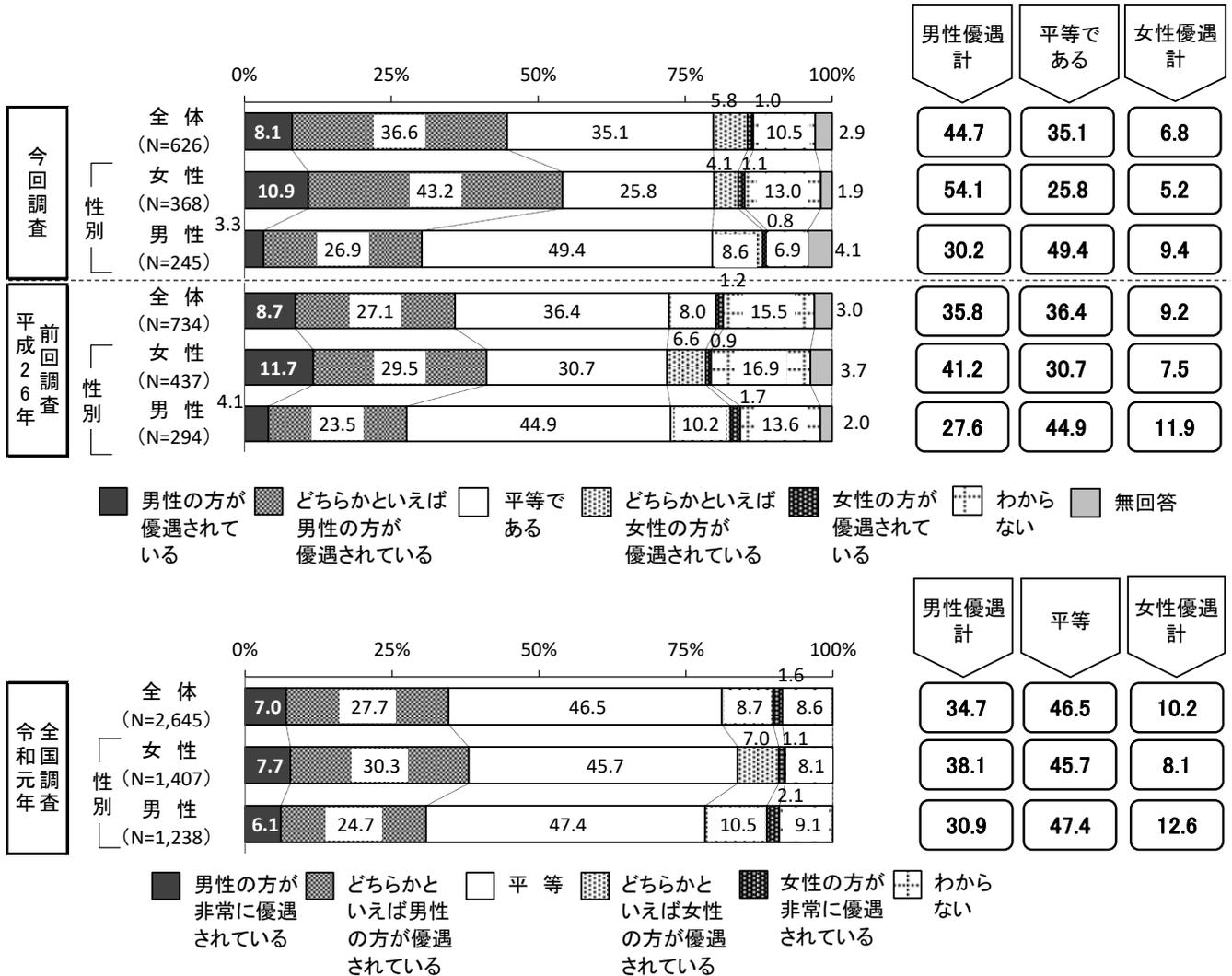
年齢別にみると、男女とも年齢によってまちまちであるが、女性の50代では『男性優遇』が97.5%と著しく高くなっている。

図表1-14 社会通念、慣習、しきたりなどでの男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

		(%)									
		標本数	さ男性 れ性の 方が 優遇	遇ばど さ男 れ性 ら の か と い 方 が い 優 え	平 等 で あ る	遇ばど さ女 れ性 ら の か と い 方 が い 優 え	さ女性 れ性の 方が 優遇	わ か ら な い	無 回 答	男 性 優 遇 計	女 性 優 遇 計
全 体		626 100.0	171 27.3	325 51.9	57 9.1	16 2.6	3 0.5	37 5.9	17 2.7	496 79.2	19 3.1
年 齢 別	女性:20代以下	54	22.2	44.4	5.6	1.9	-	25.9	-	66.6	1.9
	女性:30代	60	40.0	40.0	10.0	1.7	-	6.7	1.7	80.0	1.7
	女性:40代	53	35.8	50.9	7.5	1.9	-	3.8	-	86.7	1.9
	女性:50代	81	40.7	56.8	-	-	-	-	2.5	97.5	-
	女性:60代	77	31.2	50.6	2.6	2.6	1.3	6.5	5.2	81.8	3.9
	女性:70代以上	43	30.2	44.2	16.3	2.3	-	4.7	2.3	74.4	2.3
	男性:20代以下	20	10.0	50.0	10.0	10.0	5.0	15.0	-	60.0	15.0
	男性:30代	43	14.0	58.1	16.3	4.7	-	4.7	2.3	72.1	4.7
	男性:40代	35	11.4	54.3	22.9	5.7	2.9	2.9	-	65.7	8.6
	男性:50代	42	19.0	61.9	9.5	4.8	-	2.4	2.4	80.9	4.8
	男性:60代	63	14.3	61.9	14.3	3.2	-	3.2	3.2	76.2	3.2
男性:70代以上	42	28.6	54.8	7.1	-	-	2.4	7.1	83.4	-	
無回答		13	38.5	30.8	15.4	-	-	-	15.4	69.3	-

(キ) 地域活動・社会活動の場

図表 1-15 地域活動・社会活動の場などでの男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・全国調査比較)



「地域活動・社会活動の場」については、『男性優遇』が44.7%で「平等である」の35.1%よりも高く、この分野も男性が優遇されていると感じている人が多い。

性別にみると、女性では『男性優遇』が54.1%で男性(30.2%)よりも23.9ポイント高く、男女の隔たりが大きい。

前回調査と比較すると、『男性優遇』が男女ともに増加しており、特に女性では12.9ポイントと大幅に増加している。

全国調査と比較すると、女性で『男性優遇』が16ポイント高くなっており、この分野も全国的な結果より特に女性の不平等感が強い。

Ⅱ 調査結果 第1章 男女平等に関する意識について

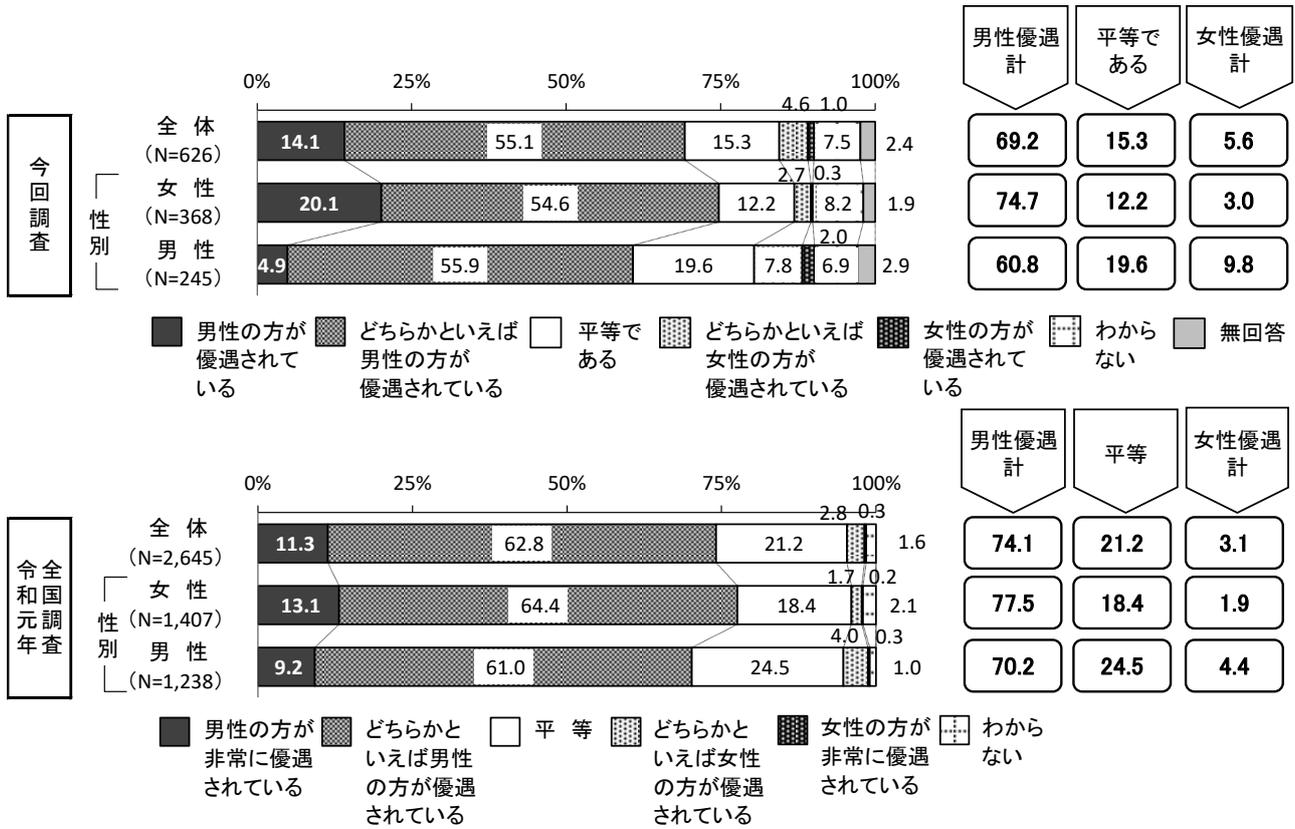
年齢別にみると、女性では50代、60代で『男性優遇』が6割前後と高くなっている。男性では、年齢が高い層で「平等である」の割合が低い傾向がみられる。

図表1-16 地域活動・社会活動の場などでの男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

		標本数	さ男性 れての い方が 優遇	過ばど さ男ち れ性ら てのか い方が 優え	平 等 で あ る	過ばど さ女ち れ性ら てのか い方が 優え	さ女性 れての い方が 優遇	わ か ら な い	無 回 答	男 性 優 遇 計	女 性 優 遇 計
全体		626 100.0	51 8.1	229 36.6	220 35.1	36 5.8	6 1.0	66 10.5	18 2.9	280 44.7	42 6.8
年 齢 別	女性:20代以下	54	9.3	29.6	31.5	-	1.9	27.8	-	38.9	1.9
	女性:30代	60	11.7	40.0	30.0	3.3	-	13.3	1.7	51.7	3.3
	女性:40代	53	7.5	41.5	24.5	7.5	1.9	17.0	-	49.0	9.4
	女性:50代	81	14.8	49.4	25.9	2.5	1.2	3.7	2.5	64.2	3.7
	女性:60代	77	10.4	48.1	18.2	6.5	1.3	10.4	5.2	58.5	7.8
	女性:70代以上	43	9.3	46.5	27.9	4.7	-	11.6	-	55.8	4.7
	男性:20代以下	20	-	20.0	65.0	5.0	-	5.0	5.0	20.0	5.0
	男性:30代	43	2.3	11.6	53.5	11.6	2.3	16.3	2.3	13.9	13.9
	男性:40代	35	2.9	8.6	57.1	20.0	2.9	8.6	-	11.5	22.9
	男性:50代	42	2.4	26.2	59.5	4.8	-	4.8	2.4	28.6	4.8
	男性:60代	63	1.6	39.7	39.7	7.9	-	4.8	6.3	41.3	7.9
	男性:70代以上	42	9.5	42.9	35.7	2.4	-	2.4	7.1	52.4	2.4
無回答	13	23.1	30.8	30.8	-	-	7.7	7.7	53.9	-	

(ク) 社会全体

図表 1-17 社会全体での男女の地位の平等感 [全体、性別] (全国調査比較)



「社会全体で」みた場合の男女の地位は、「平等である」は15.3%と低く、『男性優遇』(69.2%)が約7割を占めている。

性別にみると、『男性優遇』は女性が74.7%と男性(60.8%)よりも13.9ポイント高く、女性においてより不平等感が強くなっている。

全国調査との比較では、平等とする割合は今回調査の方が5.9ポイント低くなっているが、『男性優遇』の割合も今回調査の方が低く、今回調査では「わからない」とする割合が全国調査よりも高い。

Ⅱ 調査結果 第1章 男女平等に関する意識について

年齢別にみると、男女ともに「平等である」とする割合は年齢が低い層で高くなっている。男性では40代で『女性優遇』が25.7%と他の年代に比べて高くなっている。

図表1-18 社会全体での男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	さ男性 れての い方が 優遇	遇ばど さ男性 れての い方が 優え	平等 である	遇ばど さ女性 れての い方が 優え	さ女性 れての い方が 優遇	わ から ない	無 回 答	男性 優 遇 計	女性 優 遇 計
全 体		626 100.0	88 14.1	345 55.1	96 15.3	29 4.6	6 1.0	47 7.5	15 2.4	433 69.2	35 5.6
年 齢 別	女性:20代以下	54	16.7	44.4	22.2	1.9	1.9	13.0	-	61.1	3.8
	女性:30代	60	21.7	51.7	16.7	3.3	-	5.0	1.7	73.4	3.3
	女性:40代	53	17.0	52.8	9.4	3.8	-	17.0	-	69.8	3.8
	女性:50代	81	21.0	63.0	9.9	1.2	-	2.5	2.5	84.0	1.2
	女性:60代	77	22.1	54.5	5.2	5.2	-	7.8	5.2	76.6	5.2
	女性:70代以上	43	20.9	58.1	14.0	-	-	7.0	-	79.0	-
	男性:20代以下	20	5.0	30.0	40.0	5.0	-	20.0	-	35.0	5.0
	男性:30代	43	4.7	48.8	23.3	7.0	4.7	9.3	2.3	53.5	11.7
	男性:40代	35	2.9	40.0	20.0	20.0	5.7	11.4	-	42.9	25.7
	男性:50代	42	2.4	64.3	16.7	7.1	-	7.1	2.4	66.7	7.1
	男性:60代	63	6.3	63.5	17.5	6.3	1.6	1.6	3.2	69.8	7.9
男性:70代以上	42	7.1	69.0	11.9	2.4	-	2.4	7.1	76.1	2.4	
無回答		13	15.4	53.8	23.1	-	-	-	7.7	69.2	-

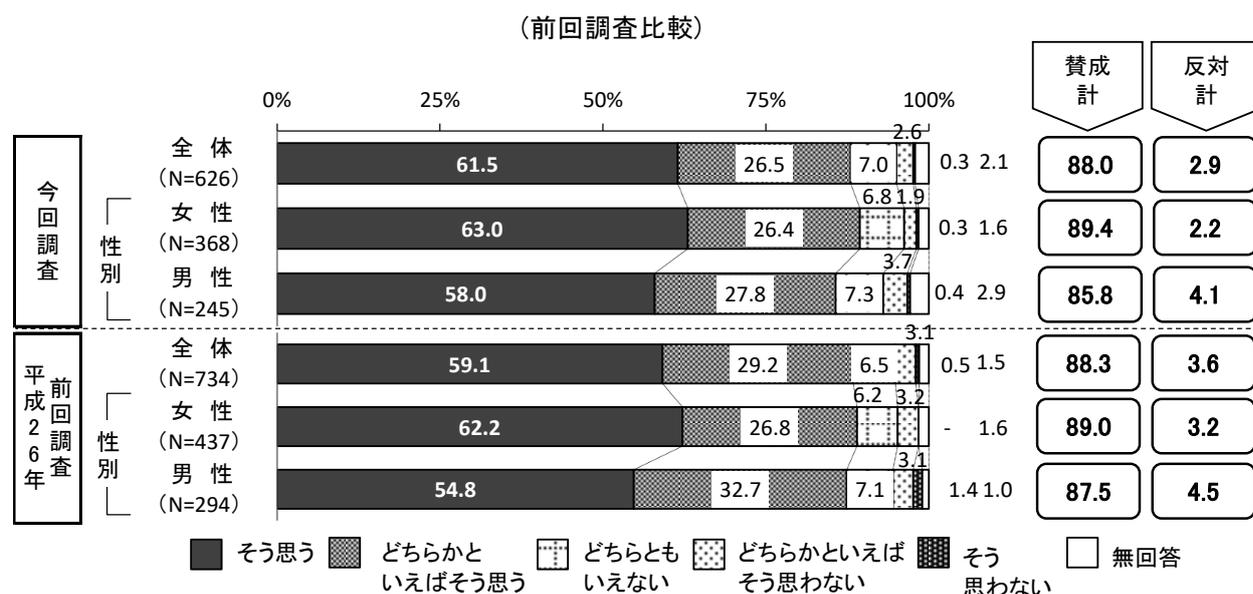
第2章 子どもの育て方・教育について

1. 子どもの育て方

問3. あなたは、子どもの育て方についてどのような考え方をお持ちですか。次の（ア）から（エ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。
 （○はそれぞれ1つだけ）

（ア）性別に関わらず、同等に仕事を持ち、経済的に自立できるよう育てる

図表2-1 性別に関わらず、同等に仕事を持ち、経済的に自立できるよう育てる [全体、性別]



子どもの育て方に関して、「性別に関わらず、同等に仕事を持ち、経済的に自立できるよう育てる」という考え方に、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『賛成』は 88.0% と高く、「思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『反対』は 2.9% と低い。

性別にみると、『賛成』の割合は女性の方が若干高くなっており、特に「そう思う」の割合が女性は 63.0% で男性よりも 5 ポイント高くなっている。よって、女性の方がより強く賛成する人の割合が高いと言える。

前回調査と比較すると、前回調査の時点で既に『賛成』の割合がかなり高かったこともあり、今回調査もほぼ同様の結果となっている。

Ⅱ 調査結果 第2章 子どもの育て方・教育について

年齢別にみると、男性の40代で『反対』が14.3%と高く、30代では「どちらともいえない」が16.3%と高くなっており、これらの年代で『賛成』の割合が低くなっている。

先述した問1の「男は仕事、女は家庭」という考え方、いわゆる性別役割分担意識別にみると、男女とも分担意識に『同感しない』場合の方が、『賛成』の割合が高くなっている。

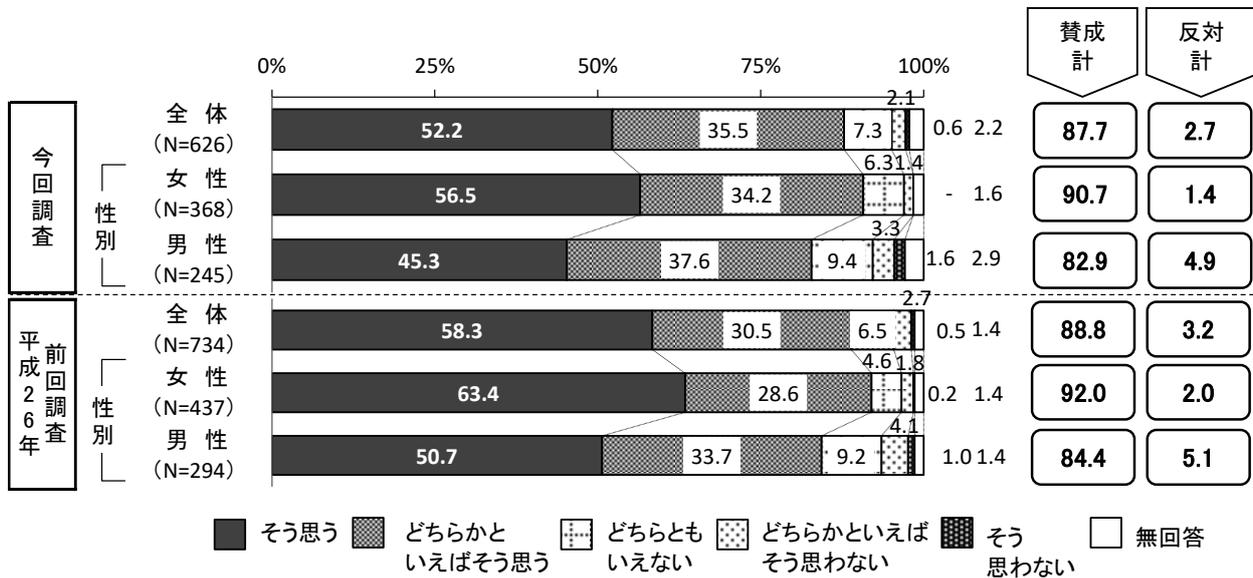
図表2-2 性別に関わらず、同等に仕事を持ち、経済的に自立できるよう育てる

[全体、年齢別、性別役割分担意識別]

									(%)	
		標本数	そう思う	えどち ばち そら うか 思と うい	えど ない ら と も い	な えど い ばち そら うか 思と わい	そう 思 わ な い	無 回 答	賛 成 計	反 対 計
全 体		626 100.0	385 61.5	166 26.5	44 7.0	16 2.6	2 0.3	13 2.1	551 88.0	18 2.9
年 齢 別	女性:20代以下	54	75.9	13.0	11.1	-	-	-	88.9	-
	女性:30代	60	66.7	25.0	5.0	1.7	-	1.7	91.7	1.7
	女性:40代	53	60.4	32.1	3.8	3.8	-	-	92.5	3.8
	女性:50代	81	64.2	27.2	4.9	1.2	1.2	1.2	91.4	2.4
	女性:60代	77	50.6	35.1	7.8	1.3	-	5.2	85.7	1.3
	女性:70代以上	43	65.1	20.9	9.3	4.7	-	-	86.0	4.7
	男性:20代以下	20	80.0	15.0	-	5.0	-	-	95.0	5.0
	男性:30代	43	67.4	14.0	16.3	2.3	-	-	81.4	2.3
	男性:40代	35	57.1	25.7	-	14.3	-	2.9	82.8	14.3
	男性:50代	42	47.6	38.1	7.1	4.8	-	2.4	85.7	4.8
	男性:60代	63	55.6	34.9	4.8	-	1.6	3.2	90.5	1.6
男性:70代以上	42	52.4	28.6	11.9	-	-	7.1	81.0	-	
	無回答	13	84.6	7.7	7.7	-	-	-	92.3	-
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	116	53.4	30.2	11.2	5.2	-	-	83.6	5.2
	女性:同感しない	244	69.3	25.0	4.9	0.4	0.4	-	94.3	0.8
	男性:同感する	82	47.6	31.7	11.0	8.5	-	1.2	79.3	8.5
	男性:同感しない	154	64.9	26.6	5.8	1.3	0.6	0.6	91.5	1.9
	無回答	30	50.0	10.0	3.3	-	-	36.7	60.0	-

(イ) 性別に関わらず、炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけるよう育てる

図表 2-3 性別に関わらず、炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけるよう育てる
 [全体、性別] (前回調査比較)



「性別に関わらず、炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけるよう育てる」という考え方については、『賛成』が 87.7%と高く、『反対』は 2.7%と低い。

性別にみると、男女でやや差がみられ、『賛成』が女性 (90.7%) よりも男性 (82.9%) の方が 7.8 ポイント低くなっている。「そう思う」の割合は女性 (56.5%) の方が 11.2 ポイント高くなっており、強く賛成する割合は女性の方が大幅に高くなっている。

前回調査との比較では、男女とも今回調査の方が「そう思う」の割合が低く、「どちらかといえはそう思う」が高くなっており、強く賛成する人が減少している。

Ⅱ 調査結果 第2章 子どもの育て方・教育について

年齢別にみると、この項目も男性の40代において『反対』が11.5%と高くなっている。また、男女ともに70代以上で『賛成』が7割台と他の年代よりも低い。

性別役割分担意識別にみると、この項目でも分担意識に『同感しない』場合の方が、『賛成』の割合が高い傾向がみられる。

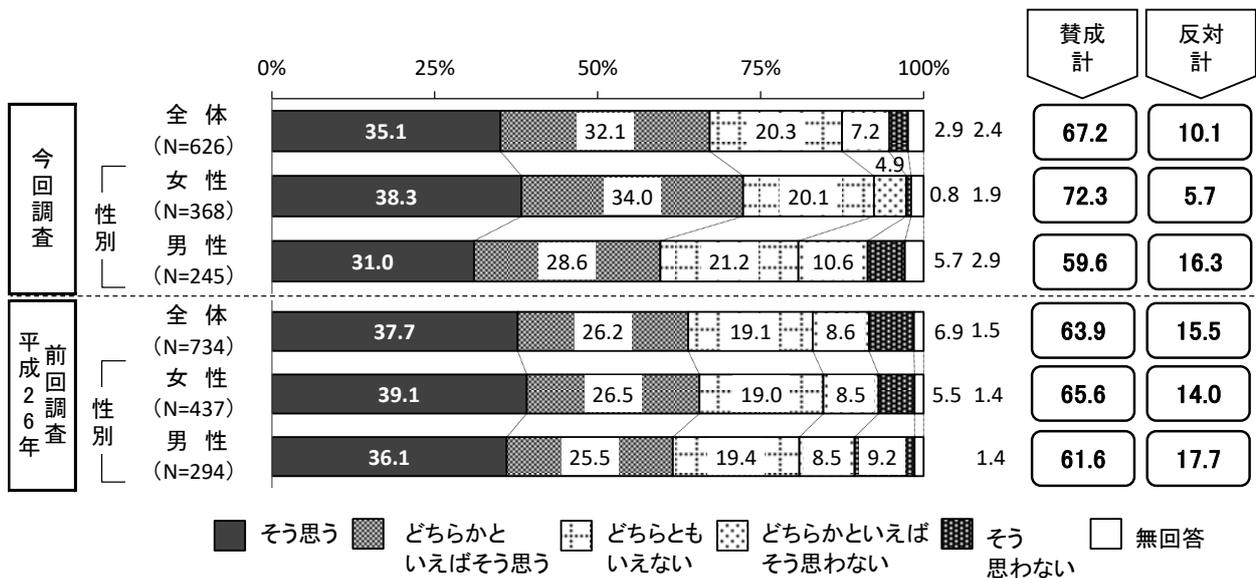
図表2-4 性別に関わらず、炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけるよう育てる
[全体、年齢別、性別役割分担意識別]

(%)

		標本数	そう思う	えどち ばち そら うか 思と うい	えどち ない らと もい	なえど いばち そら うか 思と わい	そう 思わ ない	無 回 答	賛 成 計	反 対 計
全 体		626 100.0	327 52.2	222 35.5	46 7.3	13 2.1	4 0.6	14 2.2	549 87.7	17 2.7
年 齢 別	女性:20代以下	54	74.1	22.2	3.7	-	-	-	96.3	-
	女性:30代	60	61.7	26.7	6.7	3.3	-	1.7	88.4	3.3
	女性:40代	53	66.0	30.2	3.8	-	-	-	96.2	-
	女性:50代	81	58.0	35.8	3.7	1.2	-	1.2	93.8	1.2
	女性:60代	77	39.0	50.6	5.2	-	-	5.2	89.6	-
	女性:70代以上	43	44.2	32.6	18.6	4.7	-	-	76.8	4.7
	男性:20代以下	20	60.0	25.0	10.0	-	5.0	-	85.0	5.0
	男性:30代	43	74.4	23.3	2.3	-	-	-	97.7	-
	男性:40代	35	57.1	22.9	5.7	8.6	2.9	2.9	80.0	11.5
	男性:50代	42	33.3	42.9	16.7	2.4	2.4	2.4	76.2	4.8
	男性:60代	63	36.5	46.0	9.5	4.8	-	3.2	82.5	4.8
男性:70代以上	42	23.8	52.4	11.9	2.4	2.4	7.1	76.2	4.8	
無回答		13	61.5	30.8	-	-	-	7.7	92.3	-
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	116	49.1	41.4	6.9	2.6	-	-	90.5	2.6
	女性:同感しない	244	61.9	31.1	6.1	0.8	-	-	93.0	0.8
	男性:同感する	82	37.8	34.1	14.6	7.3	4.9	1.2	71.9	12.2
	男性:同感しない	154	50.0	40.9	7.1	1.3	-	0.6	90.9	1.3
	無回答	30	50.0	10.0	3.3	-	-	36.7	60.0	-

(ウ) 幼い時から男女の区別をしないで同じように育てる

図表 2-5 幼い時から男女の区別をしないで同じように育てる [全体、性別] (前回調査比較)



「幼い時から男女の区別をしないで同じように育てる」という考え方については、『賛成』が 67.2%となっており、前の2つの項目に比べると低い。ただし、『反対』は 10.1%でそれほど高いわけではなく、「どちらともいえない」が 20.3%とやや高くなっている。

性別にみると、『賛成』は女性 (72.3%) の方が男性 (59.6%) よりも 12.7 ポイント高く、『反対』は男性 (16.3%) の方が 10.6 ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、男性は前回調査と今回調査で大差はないが、女性では『反対』が 8.3 ポイント減少し、『賛成』が 6.7 ポイント増加している。

Ⅱ 調査結果 第2章 子どもの育て方・教育について

年齢別にみると、女性は年齢による差はそれほど大きくないが、男性では年齢が低い層で『反対』の割合が高くなる傾向が顕著であり、20代以下と30代では『反対』が約25%を占めている。

性別役割分担意識別にみると、この項目でも分担意識に『同感しない』場合の方が、『賛成』の割合が高い傾向が顕著にみられる。

図表2-6 幼い時から男女の区別をしないで同じように育てる

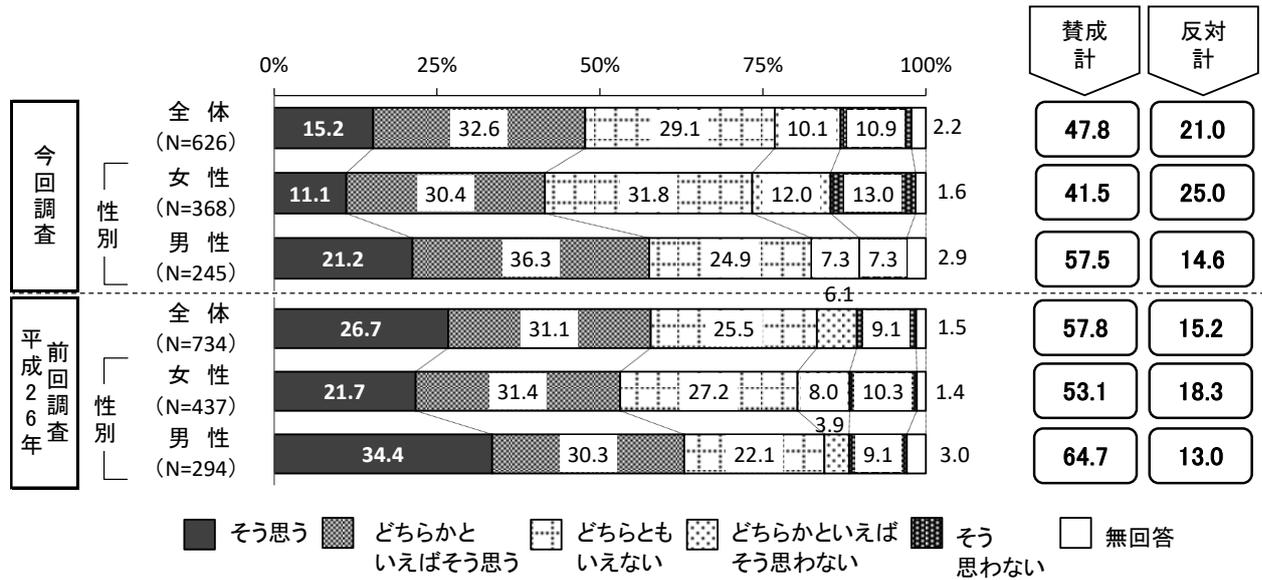
[全体、年齢別、性別役割分担意識別]

(%)

		標本数	そう思う	えどち ばち そら うか 思と うい	えど ない ら と も い	な えど い ばち そら うか 思と わい	そう 思わ ない	無 回 答	賛 成 計	反 対 計
全 体		626 100.0	220 35.1	201 32.1	127 20.3	45 7.2	18 2.9	15 2.4	421 67.2	63 10.1
年 齢 別	女性:20代以下	54	50.0	20.4	24.1	3.7	-	1.9	70.4	3.7
	女性:30代	60	43.3	31.7	16.7	6.7	-	1.7	75.0	6.7
	女性:40代	53	26.4	43.4	22.6	7.5	-	-	69.8	7.5
	女性:50代	81	37.0	34.6	21.0	4.9	1.2	1.2	71.6	6.1
	女性:60代	77	27.3	39.0	23.4	3.9	1.3	5.2	66.3	5.2
	女性:70代以上	43	53.5	32.6	9.3	2.3	2.3	-	86.1	4.6
	男性:20代以下	20	40.0	15.0	20.0	15.0	10.0	-	55.0	25.0
	男性:30代	43	30.2	20.9	23.3	16.3	9.3	-	51.1	25.6
	男性:40代	35	31.4	31.4	14.3	17.1	2.9	2.9	62.8	20.0
	男性:50代	42	21.4	35.7	23.8	9.5	7.1	2.4	57.1	16.6
男性:60代	63	27.0	33.3	25.4	6.3	4.8	3.2	60.3	11.1	
男性:70代以上	42	42.9	26.2	16.7	4.8	2.4	7.1	69.1	7.2	
	無回答	13	23.1	46.2	7.7	7.7	7.7	7.7	69.3	15.4
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	116	25.0	38.8	23.3	10.3	2.6	-	63.8	12.9
	女性:同感しない	244	45.9	32.4	18.9	2.5	-	0.4	78.3	2.5
	男性:同感する	82	24.4	25.6	22.0	14.6	12.2	1.2	50.0	26.8
	男性:同感しない	154	34.4	31.8	22.1	9.1	1.9	0.6	66.2	11.0
	無回答	30	50.0	10.0	3.3	-	-	36.7	60.0	-

(エ) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる

図表 2-7 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる [全体、性別] (前回調査比較)



「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」という考え方については、『賛成』が 47.8%と約半数を占めている。『反対』は 21.0%で、他の項目に比べると「どちらともいえない」が 29.1%と高くなっている。

性別にみると、『賛成』は男性 (57.5%) の方が女性 (41.5%) より 16 ポイント高く、『反対』は女性 (25.0%) の方が 10.4 ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、男女ともに『賛成』は減少しており、全体では今回調査の方が 10 ポイント低くなっている。

Ⅱ 調査結果 第2章 子どもの育て方・教育について

年齢別にみると、女性は年齢が低い層で『賛成』の割合が低いという傾向がみられ、男性は年齢によってまちまちであるが、最も『賛成』が低いのは50代（45.3%）となっている。

性別役割分担意識別にみると、男女とも分担意識に『同感する』場合に、この項目に『賛成』する割合が高い傾向が顕著である。

図表2-8 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる

[全体、年齢別、性別役割分担意識別]

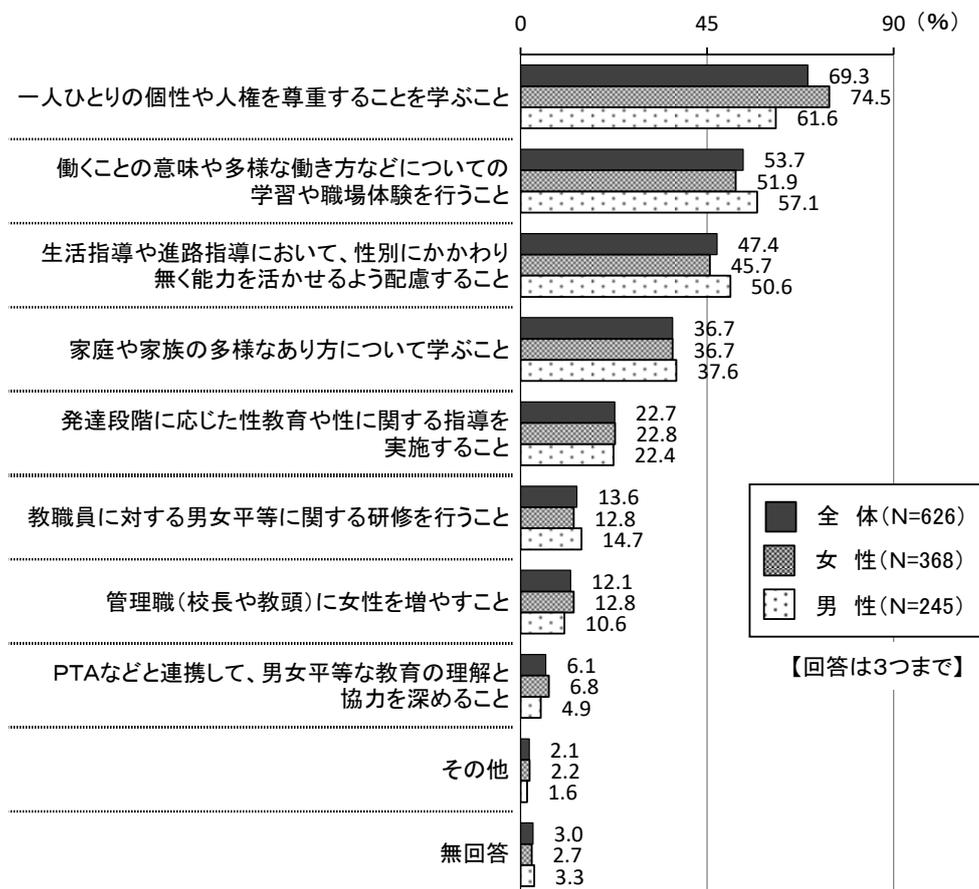
(%)

		標本数	そう思う	えど ばち そら うか 思と うい	えど ない ら と も い	な えど い ばち そら うか 思と わい	そう 思わ ない	無 回 答	賛 成 計	反 対 計
全 体		626 100.0	95 15.2	204 32.6	182 29.1	63 10.1	68 10.9	14 2.2	299 47.8	131 21.0
年 齢 別	女性:20代以下	54	3.7	18.5	38.9	14.8	24.1	-	22.2	38.9
	女性:30代	60	11.7	31.7	41.7	5.0	8.3	1.7	43.4	13.3
	女性:40代	53	5.7	32.1	22.6	22.6	17.0	-	37.8	39.6
	女性:50代	81	7.4	30.9	32.1	14.8	13.6	1.2	38.3	28.4
	女性:60代	77	16.9	35.1	29.9	6.5	6.5	5.2	52.0	13.0
	女性:70代以上	43	23.3	32.6	23.3	9.3	11.6	-	55.9	20.9
	男性:20代以下	20	15.0	50.0	15.0	15.0	5.0	-	65.0	20.0
	男性:30代	43	20.9	34.9	27.9	7.0	9.3	-	55.8	16.3
	男性:40代	35	22.9	42.9	25.7	5.7	-	2.9	65.8	5.7
	男性:50代	42	16.7	28.6	40.5	2.4	9.5	2.4	45.3	11.9
	男性:60代	63	20.6	33.3	20.6	11.1	11.1	3.2	53.9	22.2
男性:70代以上	42	28.6	38.1	16.7	4.8	4.8	7.1	66.7	9.6	
	無回答	13	15.4	23.1	30.8	7.7	15.4	7.7	38.5	23.1
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	116	19.0	43.1	31.0	5.2	1.7	-	62.1	6.9
	女性:同感しない	244	7.8	24.6	33.2	15.6	18.9	-	32.4	34.5
	男性:同感する	82	26.8	45.1	22.0	2.4	2.4	1.2	71.9	4.8
	男性:同感しない	154	18.8	32.5	27.9	10.4	9.7	0.6	51.3	20.1
	無回答	30	50.0	10.0	3.3	-	-	36.7	60.0	-

2. 男女共同参画を進めていくために学校教育の場で力を入れること

問4. これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(〇は3つまで)

図表2-9 男女共同参画を進めていくために学校教育の場で力を入れること [全体、性別]



男女共同参画を進めていくために学校教育で力を入れるべきことについて複数回答でたずねたところ、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が69.3%で最も高く、次いで「働くことの意味や多様な働き方についての学習や職場体験を行うこと」が53.7%、「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず無く能力を活かせるよう配慮すること」が47.4%、「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」が36.7%となっている。

性別にみると、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」(女性74.5%、男性61.6%)は女性の方が12.9ポイント高く、「働くことの意味や多様な働き方についての学習や職場体験を行うこと」(同51.9%、57.1%)と「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず無く能力を活かせるよう配慮すること」(同45.7%、50.6%)は男性の方が約5ポイント高くなっている。その他の項目は男女でほぼ同じ割合となっている。

Ⅱ 調査結果 第2章 子どもの育て方・教育について

年齢別にみると、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」は男女ともに20代以下で他の年齢よりも高い割合となっている。「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」は、男女ともに30代で約3割と高くなっている。

図表2-10 男女共同参画を進めていくために学校教育の場で力を入れること [全体、年齢別]

(%)

	標本数	一人ひとりの個性や人権を尊重すること	発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること	家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと	生活、性指導や進路指導においけること	PTAなどとの連携として、男女平等な教育の理解と協力を深めること	体験などを行うこと	働くことの意味や多様な働き方などについて学ぶこと	管理職（校長や教頭）に女性を増やすこと	教職員の研修を行うこと	その他	無回答
全体	626 100.0	434 69.3	142 22.7	230 36.7	297 47.4	38 6.1	336 53.7	76 12.1	85 13.6	13 2.1	19 3.0	
年齢別	女性:20代以下	54	83.3	22.2	42.6	40.7	7.4	40.7	18.5	11.1	-	-
	女性:30代	60	63.3	33.3	53.3	35.0	6.7	43.3	26.7	13.3	3.3	1.7
	女性:40代	53	73.6	24.5	41.5	45.3	7.5	45.3	5.7	9.4	3.8	5.7
	女性:50代	81	75.3	13.6	38.3	43.2	6.2	58.0	7.4	13.6	2.5	2.5
	女性:60代	77	76.6	23.4	27.3	49.4	5.2	61.0	7.8	13.0	1.3	5.2
	女性:70代以上	43	74.4	23.3	14.0	65.1	9.3	58.1	14.0	16.3	2.3	-
	男性:20代以下	20	70.0	25.0	50.0	55.0	10.0	30.0	5.0	25.0	-	-
	男性:30代	43	69.8	27.9	44.2	41.9	4.7	62.8	11.6	9.3	4.7	-
	男性:40代	35	48.6	20.0	51.4	40.0	2.9	48.6	17.1	11.4	2.9	2.9
	男性:50代	42	57.1	19.0	31.0	42.9	11.9	66.7	7.1	11.9	2.4	4.8
	男性:60代	63	63.5	22.2	31.7	61.9	-	58.7	12.7	15.9	-	3.2
	男性:70代以上	42	61.9	21.4	28.6	57.1	4.8	59.5	7.1	19.0	-	7.1
無回答	13	69.2	23.1	23.1	38.5	7.7	38.5	23.1	15.4	7.7	7.7	

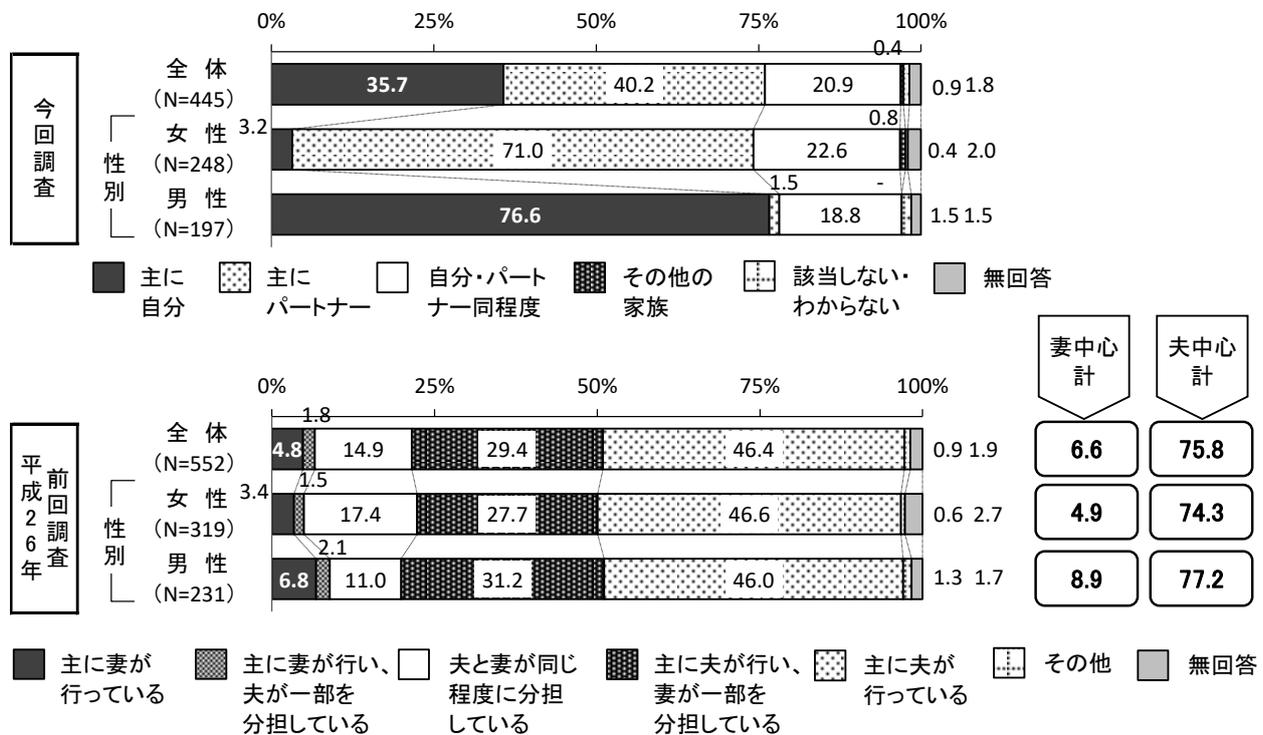
第3章 家庭生活について

1. 家庭内での役割分担の状況

【現在パートナー（配偶者や恋人）と同居している方におたずねします。】
 問5. あなたの家庭では、次のことを、主にどなたがされていますか。次の（ア）から（コ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。
 （〇はそれぞれ1つだけ）

（ア）家計を支える（生活費を稼ぐ）

図表3-1 家計を支える（生活費を稼ぐ）[全体、性別]（前回調査比較）



同居するパートナーがいる人に家庭内での役割分担をたずねたところ、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」については、女性は「主にパートナー」が71.0%で高く、男性は「主に自分」が76.6%で高くなっており、男性の役割となっている家庭が多いことが分かる。主に女性が担っている家庭は男女いずれの回答でも僅かである。「自分・パートナー同程度」は、男女いずれの回答でも約2割となっている。

前回調査との比較では、設問と選択肢の文言が異なることに留意が必要ではあるが、自分とパートナーが同程度に分担しているとする割合は、男女ともに今回調査の方が約5～8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男女ともに30代において「自分・パートナー同程度」の割合が他の年齢よりもやや高くなっている。

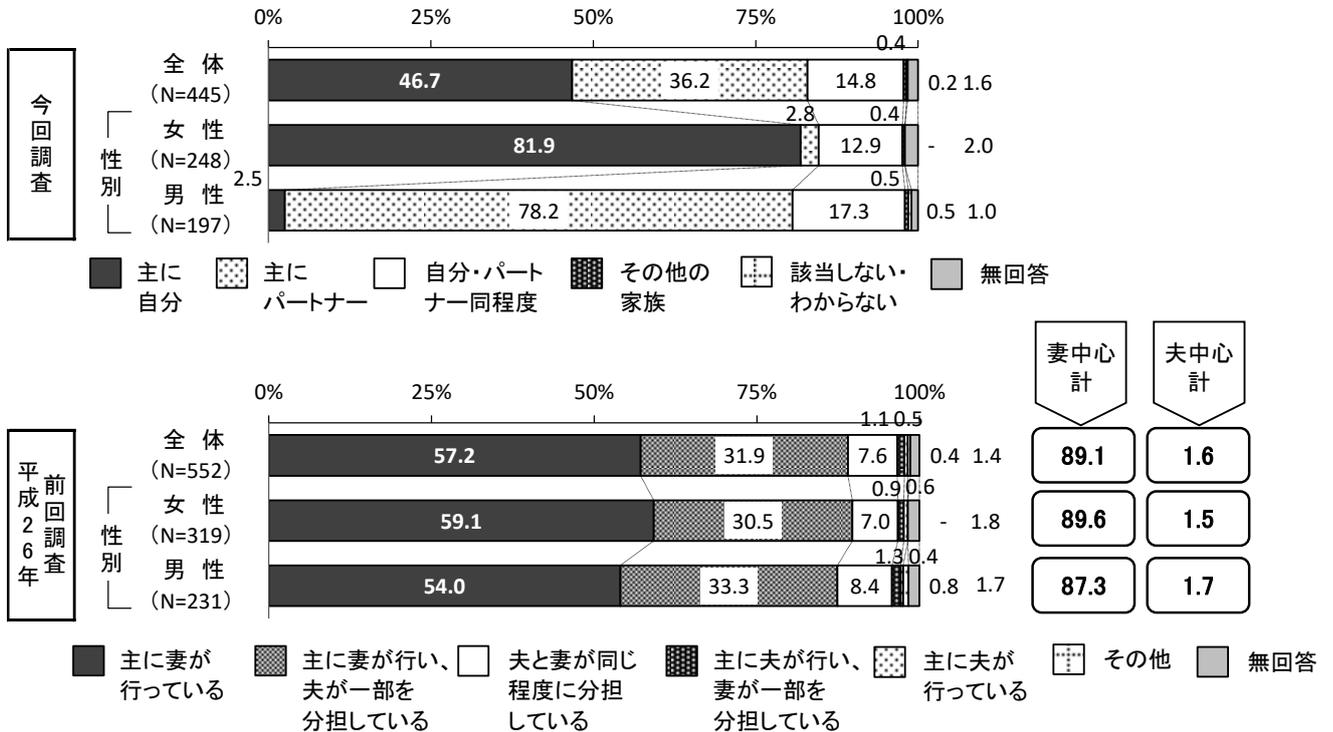
性別役割分担意識別にみると、男女と分担意識に『同感しない』場合に「自分・パートナー同程度」の割合が高くなる傾向がみられる。

図表3-2 家計を支える（生活費を稼ぐ）[全体、年齢別、性別役割分担意識別]
(%)

		標本数	主に自分	主にパートナー	自分・パートナー同程度	その他の家族	該当しない・わからない	無回答
全体		445 100.0	159 35.7	179 40.2	93 20.9	2 0.4	4 0.9	8 1.8
年齢別	女性:20代以下	12	8.3	66.7	25.0	-	-	-
	女性:30代	51	-	72.5	27.5	-	-	-
	女性:40代	44	2.3	72.7	22.7	-	-	2.3
	女性:50代	65	7.7	67.7	21.5	-	-	3.1
	女性:60代	52	-	73.1	19.2	3.8	-	3.8
	女性:70代以上	24	4.2	70.8	20.8	-	4.2	-
	男性:20代以下	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	34	70.6	-	26.5	-	-	2.9
	男性:40代	32	90.6	-	9.4	-	-	-
	男性:50代	37	78.4	2.7	16.2	-	-	2.7
	男性:60代	57	75.4	3.5	19.3	-	-	1.8
	男性:70代以上	37	70.3	-	21.6	-	8.1	-
無回答		-	-	-	-	-	-	-
性別役割分担意識別	女性:同感する	82	1.2	85.4	13.4	-	-	-
	女性:同感しない	159	4.4	64.2	27.0	0.6	0.6	3.1
	男性:同感する	65	86.2	1.5	9.2	-	3.1	-
	男性:同感しない	125	72.0	1.6	23.2	-	0.8	2.4
	無回答	14	35.7	28.6	28.6	7.1	-	-

(イ) 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする

図表 3-3 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする [全体、性別] (前回調査比較)



「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」については、女性は「主に自分」が81.9%で高く、男性は「主にパートナー」が78.2%で高くなっており、約8割の家庭で女性の役割となっている。主に男性が担っている家庭は男女いずれの回答でも3%程度に過ぎない。「自分・パートナー同程度」は、女性が12.9%、男性が17.3%となっている。

前回調査との比較では、自分とパートナーが同程度に分担しているとする割合は、男女ともに今回調査の方が約6～9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性は年齢が低い層で「自分・パートナー同程度」の割合が高い傾向がみられる。男性では50代で「自分・パートナー同程度」が8.1%と他の年代よりも低くなっている。

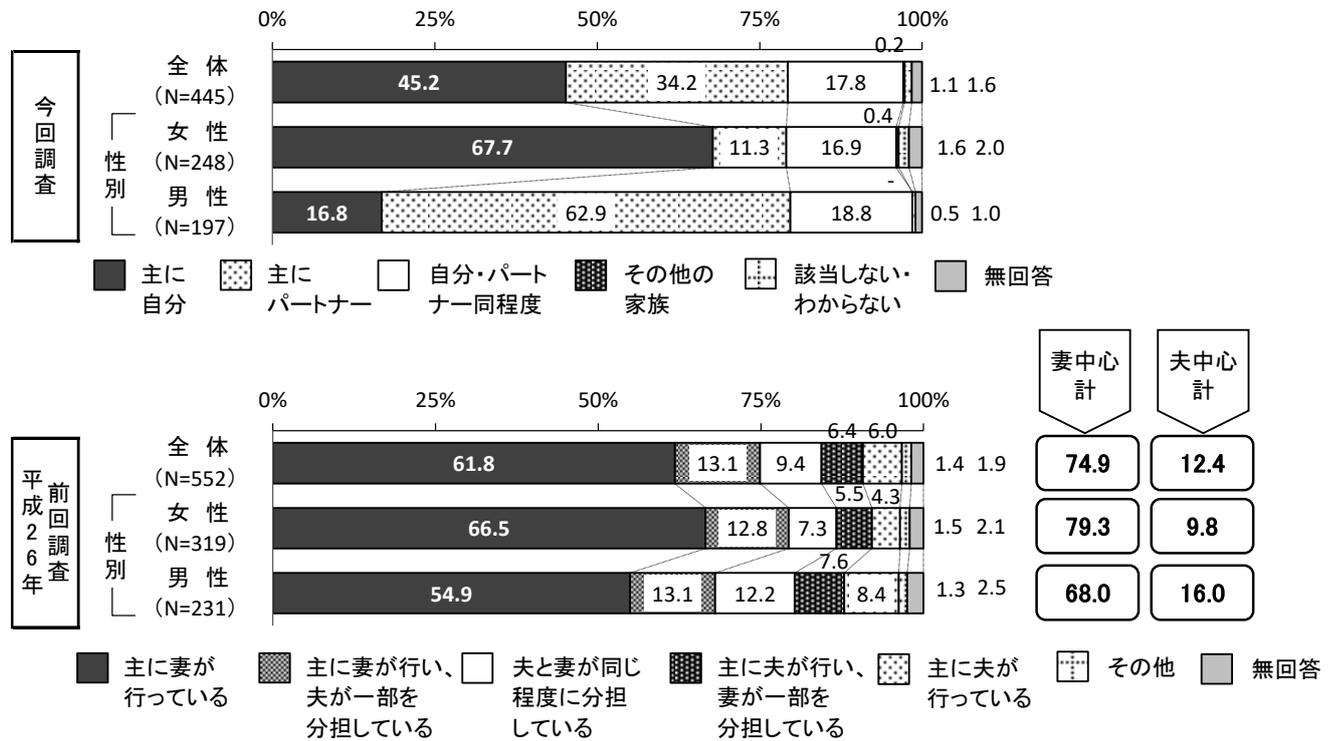
性別役割分担意識別にみると、男女ともに分担意識に『同感しない』場合に「自分・パートナー同程度」の割合が高くなる傾向がみられる。

図表3-4 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする〔全体、年齢別、性別役割分担意識別〕
(%)

		標本数	主に自分	主にパートナー	自分・パートナー同程度	その他の家族	該当しない・わからない	無回答
全体		445 100.0	208 46.7	161 36.2	66 14.8	2 0.4	1 0.2	7 1.6
年齢別	女性:20代以下	12	83.3	-	16.7	-	-	-
	女性:30代	51	84.3	-	15.7	-	-	-
	女性:40代	44	81.8	2.3	13.6	-	-	2.3
	女性:50代	65	81.5	3.1	10.8	1.5	-	3.1
	女性:60代	52	78.8	3.8	13.5	-	-	3.8
	女性:70代以上	24	83.3	8.3	8.3	-	-	-
	男性:20代以下	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	34	-	70.6	26.5	-	-	2.9
	男性:40代	32	3.1	78.1	18.8	-	-	-
	男性:50代	37	5.4	81.1	8.1	2.7	-	2.7
	男性:60代	57	1.8	80.7	17.5	-	-	-
	男性:70代以上	37	2.7	78.4	16.2	-	2.7	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-
性別役割分担意識別	女性:同感する	82	95.1	-	4.9	-	-	-
	女性:同感しない	159	74.2	4.4	17.6	0.6	-	3.1
	男性:同感する	65	1.5	83.1	15.4	-	-	-
	男性:同感しない	125	3.2	76.0	17.6	0.8	0.8	1.6
		無回答	14	50.0	35.7	14.3	-	-

(ウ) 日々の家計を管理する

図表3-5 日々の家計を管理する [全体、性別] (前回調査比較)



「日々の家計を管理する」は、女性は「主に自分」が67.7%で高く、男性は「主にパートナー」が62.9%で高くなっており、6割強の家庭で女性の役割となっている。主に男性が担っている家庭は女性の回答では11.3%、男性の回答では16.8%となっている。「自分・パートナー同程度」(女性16.9%、男性18.8%)は、男女ともに2割弱となっている。

前回調査との比較では、この項目でも自分とパートナーが同程度に分担しているとする割合は、男女ともに今回調査の方が約7~10ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性は30代で、男性は40代と60代で「自分・パートナー同程度」の割合が2割半ばと他の年代に比べて高くなっている。

性別役割分担意識別にみると、この項目でも、男女ともに分担意識に『同感しない』場合に「自分・パートナー同程度」の割合が高くなる傾向がみられる。

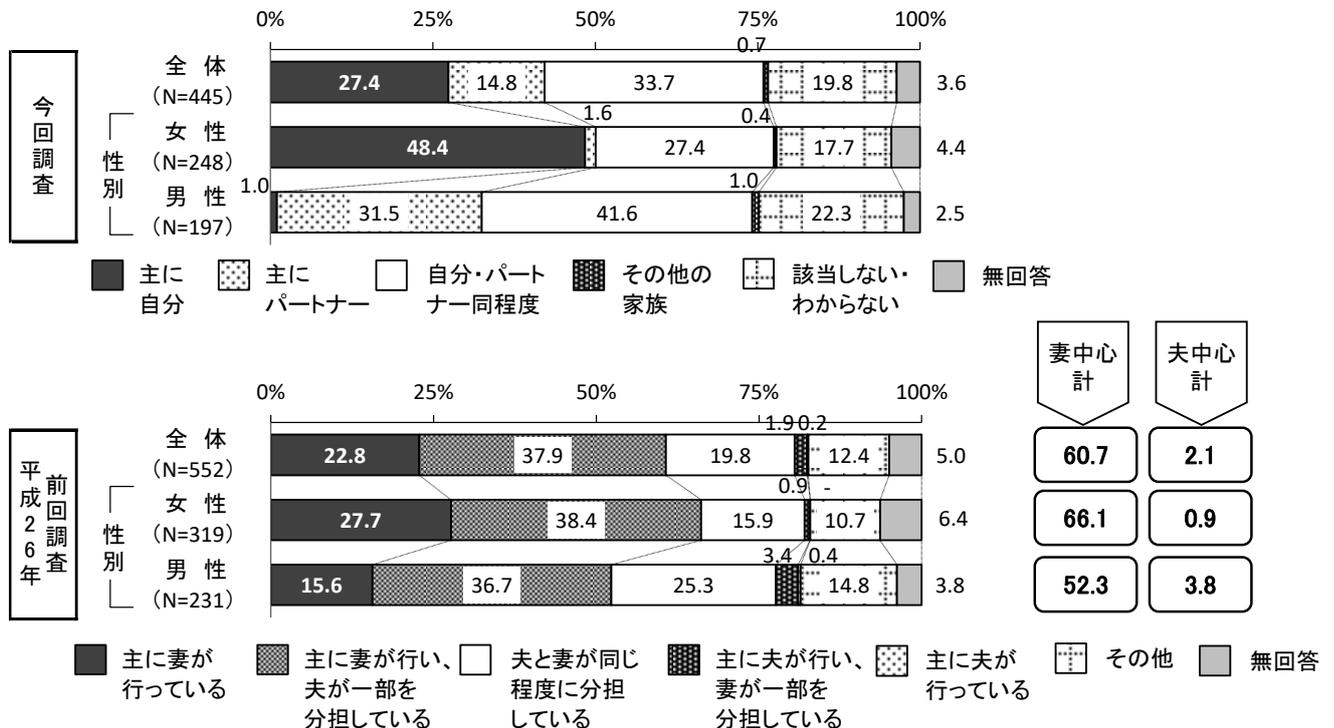
図表3-6 日々の家計を管理する〔全体、年齢別、性別役割分担意識別〕

(%)

		標本数	主に自分	主にパートナー	自分・パートナー同程度	その他の家族	同感しない・わが家からしない	無回答
全体		445 100.0	201 45.2	152 34.2	79 17.8	1 0.2	5 1.1	7 1.6
年齢別	女性:20代以下	12	66.7	8.3	16.7	-	8.3	-
	女性:30代	51	66.7	5.9	27.5	-	-	-
	女性:40代	44	70.5	20.5	6.8	-	-	2.3
	女性:50代	65	67.7	4.6	20.0	1.5	3.1	3.1
	女性:60代	52	67.3	13.5	13.5	-	1.9	3.8
	女性:70代以上	24	66.7	20.8	12.5	-	-	-
	男性:20代以下	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	34	8.8	70.6	17.6	-	-	2.9
	男性:40代	32	25.0	50.0	25.0	-	-	-
	男性:50代	37	16.2	67.6	13.5	-	-	2.7
	男性:60代	57	21.1	54.4	24.6	-	-	-
	男性:70代以上	37	10.8	75.7	10.8	-	2.7	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-
性別役割分担意識別	女性:同感する	82	75.6	13.4	11.0	-	-	-
	女性:同感しない	159	62.9	10.7	20.1	0.6	2.5	3.1
	男性:同感する	65	12.3	72.3	15.4	-	-	-
	男性:同感しない	125	18.4	57.6	21.6	-	0.8	1.6
		無回答	14	57.1	35.7	7.1	-	-

(エ) 育児、子どものしつけをする

図表3-7 育児、子どものしつけをする〔全体、性別〕（前回調査比較）



「育児、子どものしつけをする」については、女性は「主に自分」が48.4%で最も高いが、男性は「主にパートナー」が31.5%で、「自分・パートナー同程度」(41.6%)の方が10.1ポイント高くなっている。女性の「自分・パートナー同程度」は27.4%であり、男性とは開きがある。これらより、男性はパートナーと同程度に分担していると思っているが、女性は自分の方が多く分担していると感じているといった認識のずれが生じているとみられる。

前回調査との比較では、自分とパートナーが同程度に分担しているとする割合は、男女ともに今回調査の方が約12~16ポイントと大幅に高くなっている。

年齢別にみると、男性は30代と40代、50代で「自分・パートナー同程度」が4割を超えており高いが、女性では3割程度であり、男女の認識の隔たりがみられる。

性別役割分担意識別にみると、女性では分担意識に『同感する』場合に「主に自分」の割合が高くなっている。

子どもがいる人の一番下の子どもの年齢別にみると、女性はいずれの子どもがいる場合でも「主に自分」の割合が高いが、男性は未就学児では「主にパートナー」が51.6%と高いものの小学生以上になると「自分・パートナー同程度」の割合の方が高くなっており、男女の認識の隔たりがみられる。

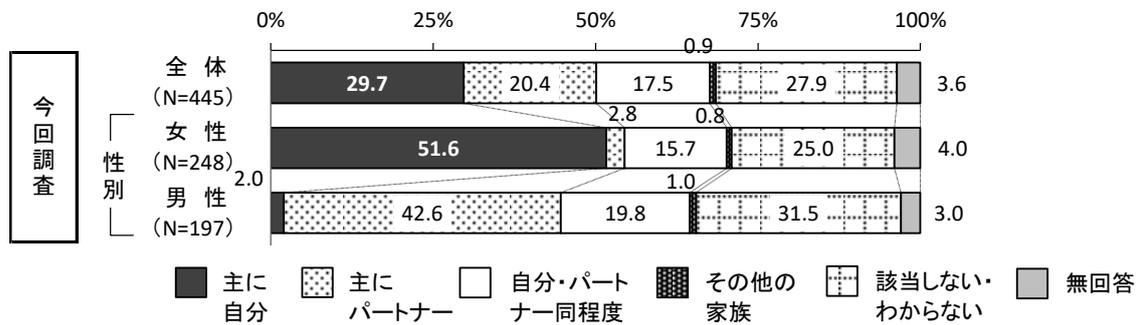
図表3-8 育児、子どものしつけをする

[全体、年齢別、性別役割分担意識別、一番下の子どもの年齢別]

		標本数	主に自分	主にパートナー	自分・パートナー同程度	その他の家族	該当しない・わからない	無回答
全体		445 100.0	122 27.4	66 14.8	150 33.7	3 0.7	88 19.8	16 3.6
年齢別	女性:20代以下	12	25.0	-	25.0	-	50.0	-
	女性:30代	51	54.9	-	31.4	-	13.7	-
	女性:40代	44	52.3	2.3	31.8	-	9.1	4.5
	女性:50代	65	55.4	-	32.3	-	9.2	3.1
	女性:60代	52	42.3	3.8	19.2	-	28.8	5.8
	女性:70代以上	24	33.3	4.2	16.7	4.2	25.0	16.7
	男性:20代以下	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	34	-	38.2	50.0	-	8.8	2.9
	男性:40代	32	-	40.6	43.8	3.1	12.5	-
	男性:50代	37	5.4	32.4	48.6	-	10.8	2.7
	男性:60代	57	-	28.1	36.8	1.8	29.8	3.5
男性:70代以上	37	-	21.6	32.4	-	43.2	2.7	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	
性別役割分担意識別	女性:同感する	82	58.5	-	23.2	-	15.9	2.4
	女性:同感しない	159	44.0	2.5	29.6	0.6	17.6	5.7
	男性:同感する	65	1.5	38.5	40.0	-	18.5	1.5
	男性:同感しない	125	0.8	28.0	44.0	1.6	22.4	3.2
	無回答	14	14.3	14.3	21.4	-	50.0	-
一番下の子どもの年齢別	女性:未就学児	50	58.0	-	40.0	-	2.0	-
	女性:小学生・中学生	32	68.8	-	28.1	-	-	3.1
	女性:高校生以上の生徒・学生	33	63.6	3.0	33.3	-	-	-
	女性:社会人・その他	104	44.2	2.9	26.9	1.0	18.3	6.7
	男性:未就学児	31	-	51.6	48.4	-	-	-
	男性:小学生・中学生	35	-	45.7	48.6	2.9	-	2.9
	男性:高校生以上の生徒・学生	13	7.7	23.1	69.2	-	-	-
	男性:社会人・その他	107	0.9	25.2	36.4	0.9	33.6	2.8
	無回答	40	5.0	-	5.0	-	80.0	10.0

(オ) 保育所・幼稚園・学校行事に参加する

図表 3-9 保育所・幼稚園・学校行事に参加する [全体、性別]



「保育所・幼稚園・学校行事に参加する」は、女性は「主に自分」が51.6%で高く、男性は「主にパートナー」が42.6%で高くなっており、多くの家庭で女性の役割となっている。主に男性が担っている家庭は、女性の回答では2.8%、男性の回答では2.0%と極めて低い。「自分・パートナー同程度」(女性15.7%、男性19.8%)は、男女ともに2割弱となっている。

年齢別にみると、女性では20代以下で「主に自分」(8.3%)よりも「自分・パートナー同程度」(25.0%)の方が大幅に高く、30代ではこれら2つの割合が約4割とほぼ同程度になっている。若い世代では、男性も分担している場合が相対的に多いことが伺える。

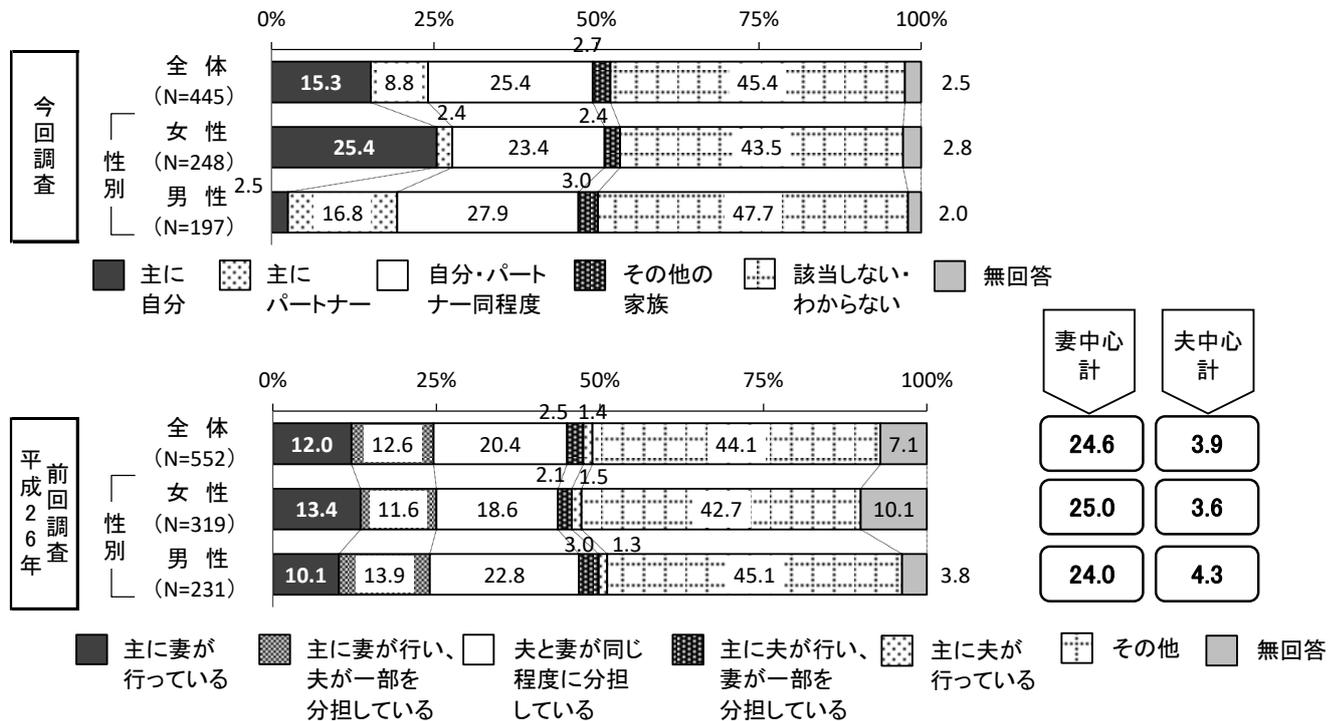
一番下の子どもの年齢別にみると、未就学児がいる女性は「主に自分」が46.0%であるが、「自分・パートナー同程度」も40.0%と男性も分担しているという認識があることが伺える。

図表 3-10 保育所・幼稚園・学校行事に参加する [全体、年齢別、一番下の子どもの年齢別]

		標本数	主に自分	主にパートナー	自分・パートナー同程度	その他の家族	該当しない・わからない	無回答
全体		445	132	91	78	4	124	16
		100.0	29.7	20.4	17.5	0.9	27.9	3.6
年齢別	女性:20代以下	12	8.3	-	25.0	-	66.7	-
	女性:30代	51	39.2	-	37.3	-	23.5	-
	女性:40代	44	61.4	4.5	15.9	-	13.6	4.5
	女性:50代	65	67.7	3.1	10.8	1.5	13.8	3.1
	女性:60代	52	46.2	3.8	5.8	-	38.5	5.8
	女性:70代以上	24	50.0	4.2	-	4.2	29.2	12.5
	男性:20代以下	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	34	-	44.1	32.4	-	20.6	2.9
	男性:40代	32	3.1	59.4	21.9	3.1	12.5	-
	男性:50代	37	2.7	48.6	24.3	-	21.6	2.7
男性:60代	57	3.5	36.8	14.0	1.8	38.6	5.3	
男性:70代以上	37	-	29.7	10.8	-	56.8	2.7	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	
一番下の子どもの年齢別	女性:未就学児	50	46.0	-	40.0	-	14.0	-
	女性:小学生・中学生	32	71.9	-	25.0	-	-	3.1
	女性:高校生以上の生徒・学生	33	72.7	6.1	15.2	-	6.1	-
	女性:社会人・その他	104	55.8	4.8	4.8	1.9	26.9	5.8
	男性:未就学児	31	-	51.6	38.7	-	9.7	-
	男性:小学生・中学生	35	2.9	68.6	22.9	2.9	-	2.9
	男性:高校生以上の生徒・学生	13	-	61.5	38.5	-	-	-
	男性:社会人・その他	107	2.8	33.6	12.1	0.9	46.7	3.7
無回答	40	-	-	5.0	-	85.0	10.0	

(カ) 親の世話（介護）をする

図表3-11 親の世話（介護）をする [全体、性別] (前回調査比較)



「親の世話（介護）をする」については、女性は「主に自分」が25.4%、男性は「主にパートナー」が16.8%となっており、やはり男性よりも女性の役割となっている現状が伺えるが、「自分・パートナー同程度」（女性23.4%、男性27.9%）も男女ともに2割台で比較的高い。

前回調査と比較すると、この項目でも「自分・パートナー同程度」の割合が男女いずれにおいても今回調査の方が約5ポイント高くなっている。

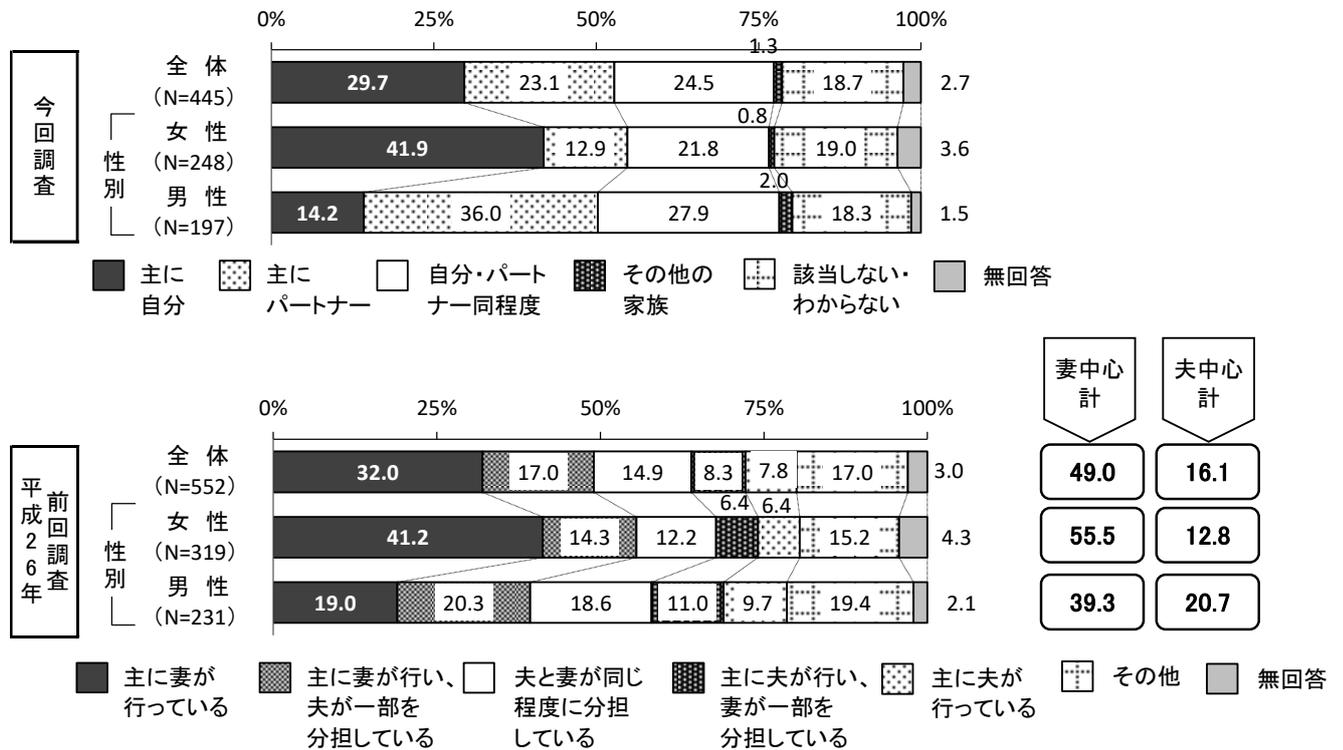
年齢別にみると、女性では年齢が高い層で、「自分・パートナー同程度」よりも「主に自分」の割合の方が高い傾向がみられる。

図表3-12 親の世話（介護）をする [全体、年齢別]

		標本数	主に自分	主にパートナー	自分・パートナー同程度	その他の家族	該当しない・わからない	無回答
全体		445	68	39	113	12	202	11
		100.0	15.3	8.8	25.4	2.7	45.4	2.5
年齢別	女性:20代以下	12	-	-	16.7	-	83.3	-
	女性:30代	51	7.8	-	23.5	2.0	66.7	-
	女性:40代	44	18.2	2.3	13.6	6.8	56.8	2.3
	女性:50代	65	33.8	6.2	29.2	1.5	26.2	3.1
	女性:60代	52	38.5	1.9	26.9	-	28.8	3.8
	女性:70代以上	24	37.5	-	20.8	4.2	29.2	8.3
	男性:20代以下	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	34	-	5.9	14.7	-	76.5	2.9
	男性:40代	32	-	6.3	37.5	9.4	46.9	-
	男性:50代	37	2.7	18.9	40.5	2.7	32.4	2.7
	男性:60代	57	5.3	24.6	29.8	3.5	35.1	1.8
男性:70代以上	37	2.7	21.6	16.2	-	56.8	2.7	
無回答		-	-	-	-	-	-	-

(キ) 自治会などの地域活動を行う

図表 3-13 自治会などの地域活動を行う [全体、性別] (前回調査比較)



「自治会などの地域活動を行う」は、女性は「主に自分」が41.9%で高く、男性は「主にパートナー」が36.0%で高くなっており、これも多くの家庭で女性の役割となっている。女性の「主にパートナー」は12.9%、男性の「主に自分」は14.2%となっており、他の項目と比べると、男性が担っている家庭も比較的多い。「自分・パートナー同程度」(女性21.8%、男性27.9%)は、男女ともに2割台となっている。

前回調査と比較すると、「自分・パートナー同程度」は男女ともに今回調査の方が10ポイント近く高い。

年齢別にみると、女性は40代と50代で「主に自分」が6割台、60代以上でも4割前後、男性は40代以上で「主にパートナー」とする割合が4割前後と高くなっており、これらの年代では女性が担っている家庭が非常に多くなっている。

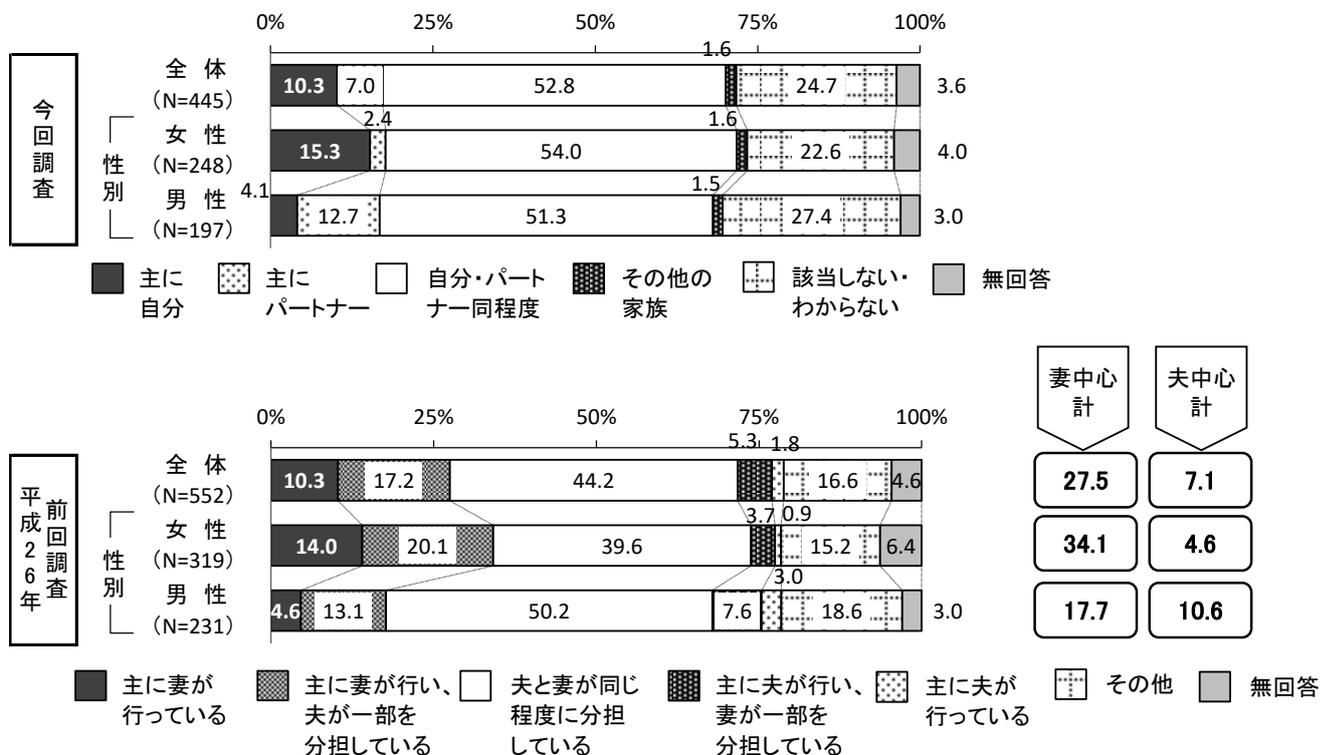
図表3-14 自治会などの地域活動を行う〔全体、年齢別〕

(%)

		標本数	主に自分	主にパートナー	自分・パートナー程度	その他の家族	該当しない・わからない	無回答
全体		445 100.0	132 29.7	103 23.1	109 24.5	6 1.3	83 18.7	12 2.7
年齢別	女性:20代以下	12	-	8.3	16.7	-	75.0	-
	女性:30代	51	11.8	11.8	33.3	-	43.1	-
	女性:40代	44	65.9	9.1	15.9	2.3	4.5	2.3
	女性:50代	65	60.0	12.3	18.5	-	6.2	3.1
	女性:60代	52	40.4	15.4	26.9	-	13.5	3.8
	女性:70代以上	24	37.5	20.8	8.3	4.2	12.5	16.7
	男性:20代以下	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	34	8.8	26.5	26.5	-	35.3	2.9
	男性:40代	32	9.4	37.5	25.0	6.3	21.9	-
	男性:50代	37	21.6	35.1	27.0	2.7	10.8	2.7
	男性:60代	57	14.0	38.6	29.8	1.8	14.0	1.8
	男性:70代以上	37	16.2	40.5	29.7	-	13.5	-
無回答		-	-	-	-	-	-	-

(ク) 子どもの教育方針や進学目標を決める

図表3-15 子どもの教育方針や進学目標を決める [全体、性別] (前回調査比較)



「子どもの教育方針や進学目標を決める」は、男女ともに「自分・パートナー同程度」(女性 54.0%、男性 51.3%)が5割強となっており高い。主に女性が担っている家庭(同 15.3%、12.7%)は1割強となっているが、主に男性が担っている家庭(同 2.4%、4.1%)は極めて少ない。

前回調査と比較すると、「自分・パートナー同程度」の割合が男性では今回調査とほぼ同じであるが、女性では今回調査の方が14.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、40代と50代では女性の「主に自分」と男性の「主にパートナー」の割合が2割前後で比較的高くなっており、これらの年代では女性が担っている家庭の割合がやや高くなっている。

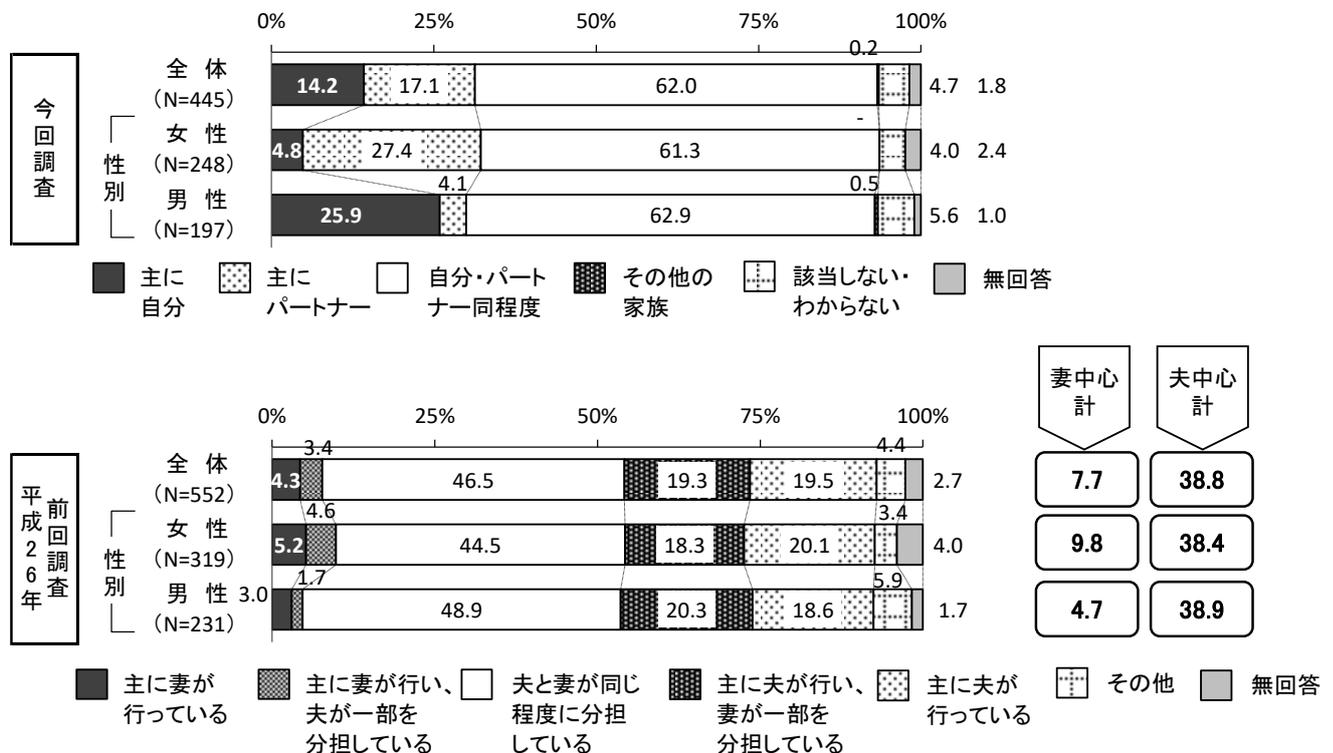
一番下の子どもの年齢別にみると、小学生・中学生、高校生以上の生徒・学生がいる場合、女性は「主に自分」、男性は「主にパートナー」の割合が1割半ばかりから3割近くと比較的高くなっている。

図表3-16 子どもの教育方針や進学目標を決める〔全体、年齢別、一番下の子どもの年齢別〕

			(%)					
		標本数	主に自分	主にパートナー	自分・パートナー程度	その他の家族	該当しない・わが家	無回答
全体		445	46	31	235	7	110	16
		100.0	10.3	7.0	52.8	1.6	24.7	3.6
年齢別	女性:20代以下	12	8.3	-	33.3	-	58.3	-
	女性:30代	51	11.8	3.9	66.7	-	17.6	-
	女性:40代	44	18.2	-	59.1	-	18.2	4.5
	女性:50代	65	20.0	1.5	58.5	3.1	13.8	3.1
	女性:60代	52	13.5	1.9	46.2	1.9	32.7	3.8
	女性:70代以上	24	12.5	8.3	33.3	4.2	25.0	16.7
	男性:20代以下	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	34	-	5.9	82.4	-	8.8	2.9
	男性:40代	32	3.1	25.0	56.3	3.1	12.5	-
	男性:50代	37	2.7	16.2	56.8	2.7	18.9	2.7
	男性:60代	57	3.5	10.5	42.1	1.8	36.8	5.3
	男性:70代以上	37	10.8	8.1	27.0	-	51.4	2.7
		無回答	-	-	-	-	-	-
一番下の子どもの年齢別	女性:未就学児	50	12.0	4.0	74.0	-	10.0	-
	女性:小学生・中学生	32	25.0	-	71.9	-	-	3.1
	女性:高校生以上の生徒・学生	33	21.2	3.0	66.7	3.0	6.1	-
	女性:社会人・その他	104	15.4	2.9	50.0	2.9	23.1	5.8
	男性:未就学児	31	-	9.7	83.9	-	6.5	-
	男性:小学生・中学生	35	-	28.6	65.7	2.9	-	2.9
	男性:高校生以上の生徒・学生	13	7.7	15.4	76.9	-	-	-
	男性:社会人・その他	107	6.5	9.3	36.4	1.9	42.1	3.7
	無回答	40	2.5	-	7.5	-	80.0	10.0

(ケ) 高額の商品や土地、家屋の購入を決める

図表3-17 高額の商品や土地、家屋の購入を決める [全体、性別] (前回調査比較)



「高額の商品や土地、家屋の購入を決める」は、男女ともに「自分・パートナー同程度」(女性61.3%、男性62.9%)が6割強を占めている。主に男性が担っている家庭(同27.4%、25.9%)は3割弱であるのに対して、主に女性が担っている家庭(同4.8%、4.1%)は5%程度であり、重要な決め事は男性の方に決定権がある場合が多いことが伺える。

前回調査と比較すると、主に男性が担っているという家庭の割合が11~13ポイント減少し、「自分・パートナー同程度」の割合が約14~17ポイントと大幅に増加している。

年齢別にみると、男性では年齢が高い層で「主に自分」とする割合が高い。

性別役割分担意識別にみると、男女ともに分担意識に『同感しない』方が「自分・パートナー同程度」の割合が高くなっており、この項目を男性が担うことも分担意識の中に含まれることが示唆される。

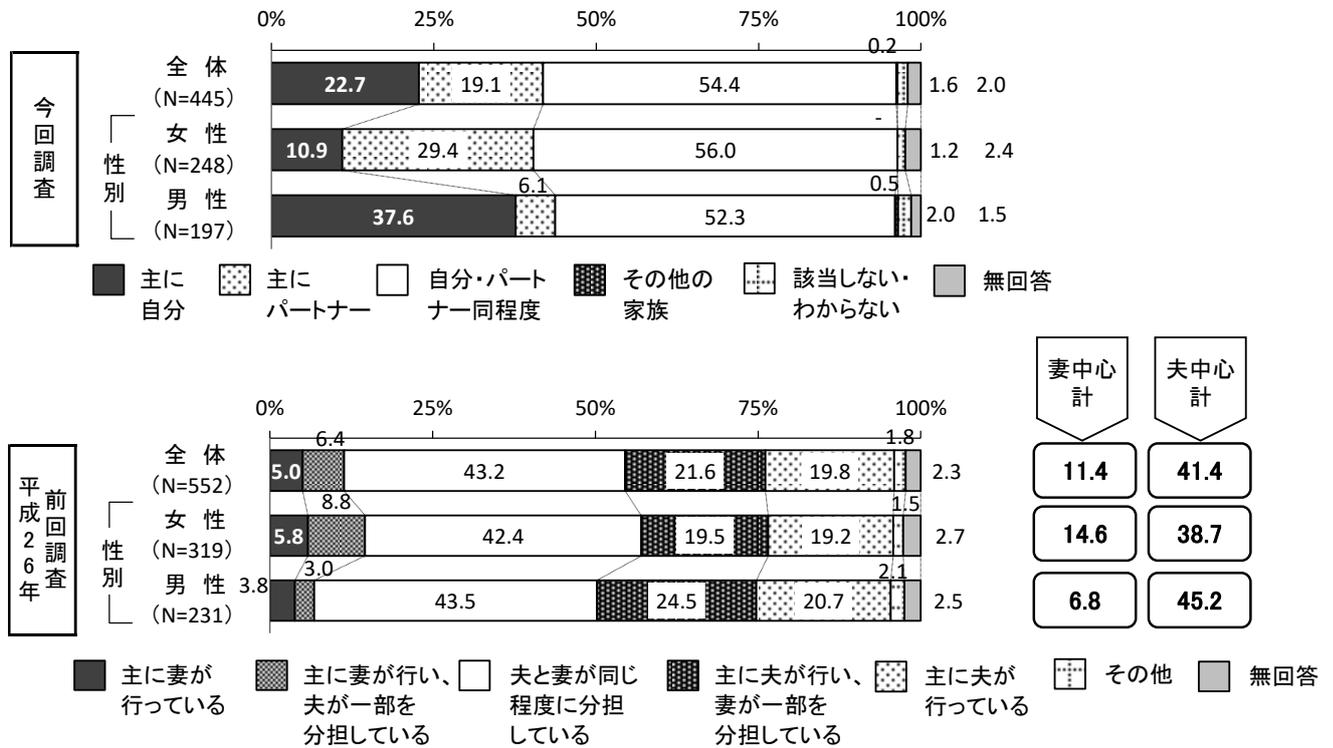
図表3-18 高額の商品や土地、家屋の購入を決める〔全体、年齢別〕

(%)

		標本数	主に自分	主にパートナー	自分・パートナー同程度	その他の家族	該当しない・わからない	無回答
全体		445 100.0	63 14.2	76 17.1	276 62.0	1 0.2	21 4.7	8 1.8
年齢別	女性:20代以下	12	-	33.3	58.3	-	8.3	-
	女性:30代	51	3.9	25.5	60.8	-	9.8	-
	女性:40代	44	2.3	27.3	68.2	-	-	2.3
	女性:50代	65	4.6	23.1	66.2	-	1.5	4.6
	女性:60代	52	9.6	32.7	51.9	-	1.9	3.8
	女性:70代以上	24	4.2	29.2	58.3	-	8.3	-
	男性:20代以下	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	34	8.8	-	85.3	-	2.9	2.9
	男性:40代	32	25.0	-	65.6	3.1	6.3	-
	男性:50代	37	29.7	8.1	59.5	-	-	2.7
	男性:60代	57	28.1	8.8	57.9	-	5.3	-
	男性:70代以上	37	35.1	-	51.4	-	13.5	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-
性別役割分担意識別	女性:同感する	82	3.7	37.8	57.3	-	1.2	-
	女性:同感しない	159	4.4	22.0	64.2	-	5.7	3.8
	男性:同感する	65	43.1	3.1	49.2	-	4.6	-
	男性:同感しない	125	17.6	4.8	68.8	0.8	6.4	1.6
		無回答	14	21.4	14.3	64.3	-	-

(コ) 家庭の問題について最終的な決定をする

図表3-19 家庭の問題について最終的な決定をする [全体、性別] (前回調査比較)



「家庭の問題について最終的な決定をする」は、男女ともに「自分・パートナー同程度」(女性 56.0%、男性 52.3%) が5割強を占めている。主に男性が担っている家庭(同 29.4%、37.6%)は3割前後であるのに対して、主に女性が担っている家庭(同 10.9%、6.1%)は1割程度であり、この項目でも男性の方に決定権がある場合が多いことが伺える。

前回調査と比較すると、この項目も主に男性が担っているという家庭の割合が男性で約8~9ポイント減少し、「自分・パートナー同程度」の割合が約9~14ポイント増加している。

年齢別にみると、男性では年齢が高い層で「主に自分」とする割合が高い傾向がみられ、女性では年齢が高い層で「主に自分」と「主にパートナー」のどちらも高い傾向がみられる。

性別役割分担意識別にみると、分担意識に『同感する』場合に女性は「主にパートナー」、男性は「主に自分」の割合が高くなる傾向がみられる。

図表3-20 家庭の問題について最終的な決定をする〔全体、年齢別、性別役割分担意識別〕

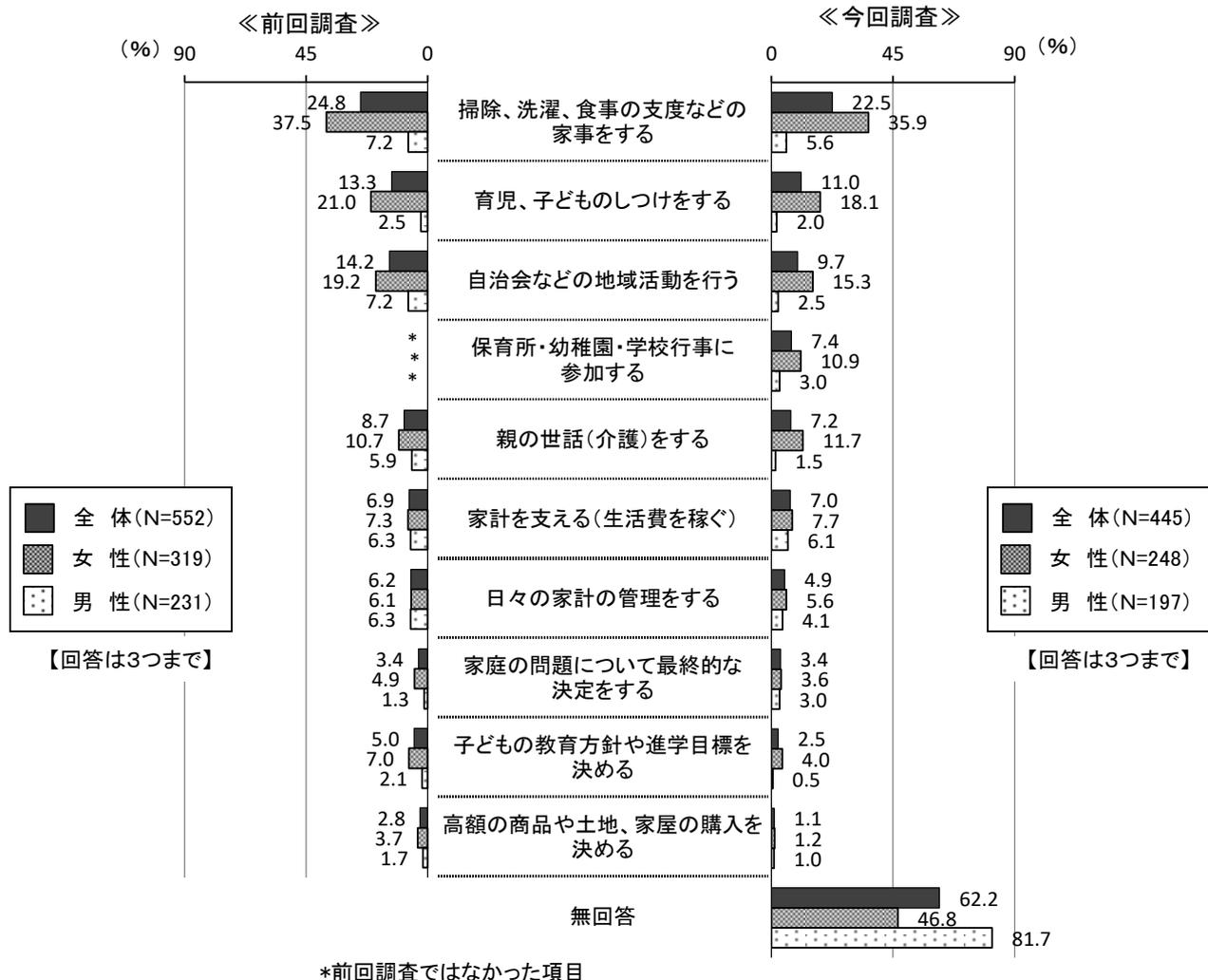
(%)

		標本数	主に自分	主にパートナー	自分と同程度パートナー	その他の家族	わからない・該当しない	無回答
全体		445 100.0	101 22.7	85 19.1	242 54.4	1 0.2	7 1.6	9 2.0
年齢別	女性:20代以下	12	8.3	16.7	75.0	-	-	-
	女性:30代	51	3.9	31.4	62.7	-	2.0	-
	女性:40代	44	13.6	27.3	56.8	-	-	2.3
	女性:50代	65	12.3	24.6	58.5	-	1.5	3.1
	女性:60代	52	11.5	32.7	51.9	-	-	3.8
	女性:70代以上	24	16.7	41.7	33.3	-	4.2	4.2
	男性:20代以下	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	34	29.4	-	67.6	-	-	2.9
	男性:40代	32	34.4	6.3	53.1	3.1	3.1	-
	男性:50代	37	21.6	8.1	67.6	-	-	2.7
	男性:60代	57	43.9	10.5	42.1	-	1.8	1.8
	男性:70代以上	37	54.1	2.7	37.8	-	5.4	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	
性別役割分担意識別	女性:同感する	82	11.0	32.9	54.9	-	-	1.2
	女性:同感しない	159	10.1	27.0	57.9	-	1.9	3.1
	男性:同感する	65	50.8	7.7	40.0	-	1.5	-
	男性:同感しない	125	31.2	5.6	57.6	0.8	2.4	2.4
		無回答	14	28.6	21.4	50.0	-	-

2. パートナー（配偶者や恋人）にもっとしてほしいこと

付問5-1. 上の（ア）から（コ）のうち、パートナー（配偶者や恋人）に「もっとしてほしい」と思う項目があれば、下の欄にご記入ください。（記入は3つまで）

図表3-21 パートナー（配偶者や恋人）にもっとしてほしいこと〔全体、性別〕（前回調査比較）



パートナー（配偶者や恋人）に「もっとしてほしい」と思う項目を複数回答でたずねたところ、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」が22.5%で最も高く、次いで、「育児、子どものしつけをする」が11.0%、「自治会などの地域活動を行う」が9.7%となっている。

性別にみると、すべての項目で女性の方が高い割合となっており、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」（女性35.9%、男性5.6%）は女性の方が30.3ポイントも高くなっているなど、全体的に男女の隔たりが大きい。男性では、約8割が無回答となっている。

前回調査との比較では、今回調査の方が女性の割合が若干低くなっている項目が多い。

年齢別にみると、女性の30代から50代では「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」が4割を超えており高くなっている。また30代と40代では「育児、子どものしつけをする」も約3割と高い。女性の50代では「親の世話（介護）をする」も23.1%と高く、40代と50代で「自治会などの地域活動を行う」も2割を超えている。

図表3-22 パートナー（配偶者や恋人）にもっとしてほしいこと〔全体、年齢別〕

(%)

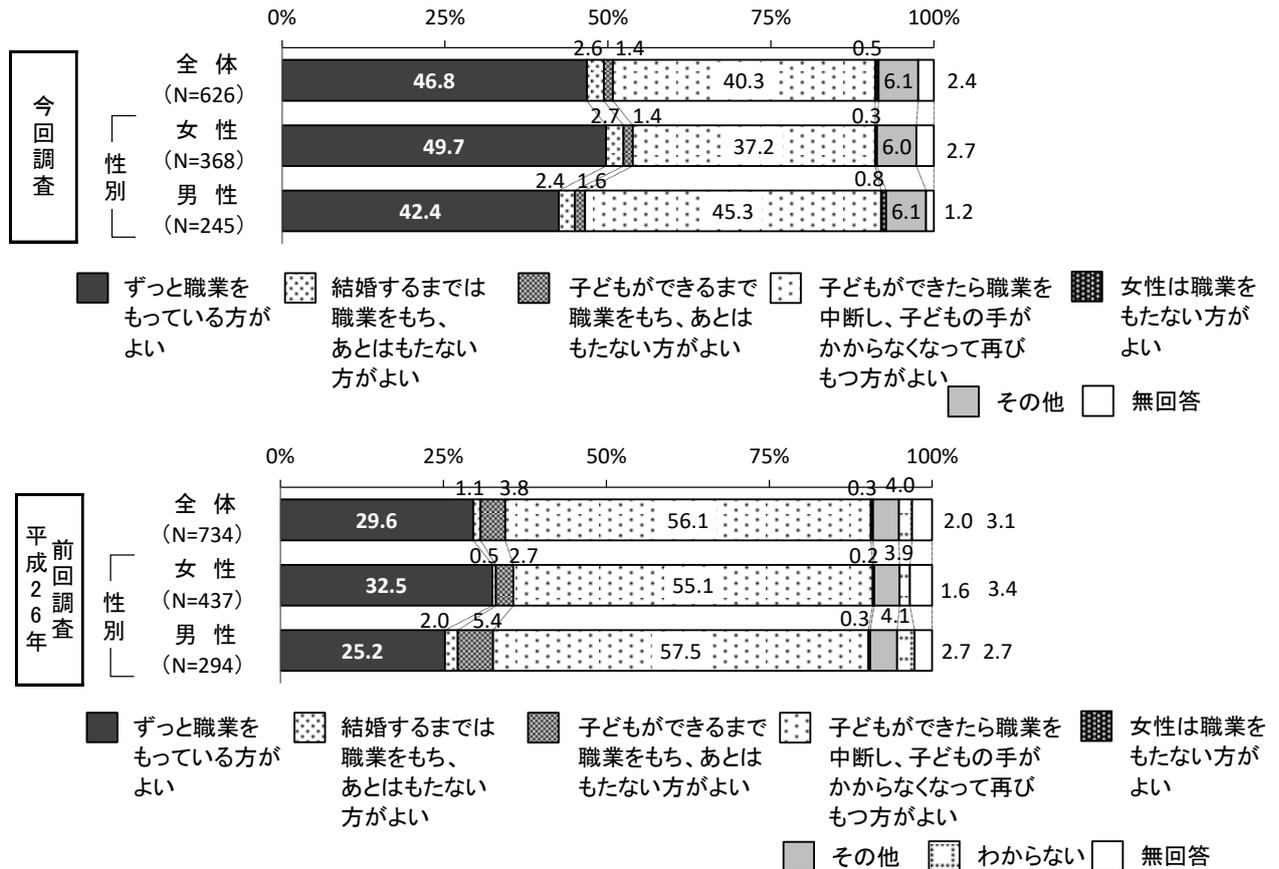
	標本数	費家を稼ぐ	支度などの家事をする	掃除、洗濯、食事の支度	日々の家計の管理をする	育児、子どものしつけをする	保育所に幼稚園・学校行事に参加する	親の世話（介護）をする	自治会などの地域活動を行う	子どもの教育方針や進路を決める	高額の商品や土地、家屋の購入を決める	最終的な問題をついて	無回答
全体	445 100.0	31 7.0	100 22.5	22 4.9	49 11.0	33 7.4	32 7.2	43 9.7	11 2.5	5 1.1	15 3.4	277 62.2	
年齢別	女性:20代以下	12	16.7	33.3	8.3	16.7	8.3	-	-	-	-	8.3	50.0
	女性:30代	51	9.8	43.1	3.9	31.4	9.8	2.0	9.8	3.9	5.9	2.0	39.2
	女性:40代	44	11.4	43.2	4.5	27.3	15.9	13.6	27.3	6.8	-	2.3	31.8
	女性:50代	65	9.2	43.1	7.7	16.9	10.8	23.1	24.6	4.6	-	4.6	38.5
	女性:60代	52	1.9	19.2	5.8	5.8	7.7	13.5	7.7	3.8	-	3.8	65.4
	女性:70代以上	24	-	25.0	4.2	4.2	12.5	-	4.2	-	-	4.2	70.8
	男性:20代以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	34	5.9	5.9	2.9	-	2.9	-	2.9	-	-	-	85.3
	男性:40代	32	12.5	3.1	-	-	3.1	-	-	-	-	-	87.5
	男性:50代	37	5.4	8.1	5.4	5.4	2.7	-	2.7	-	-	-	83.8
男性:60代	57	3.5	5.3	7.0	-	3.5	3.5	5.3	-	-	5.3	73.7	
男性:70代以上	37	5.4	5.4	2.7	5.4	2.7	2.7	-	2.7	5.4	8.1	83.8	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

第4章 職業や仕事について

1. 女性が職業をもつことについて

問6. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。
(〇は1つだけ)

図表4-1 女性が職業をもつことについて [全体、性別] (前回調査比較)



女性が職業をもつことについての考えをたずねたところ、「ずっと職業をもっている方がよい」が46.8%で最も高く、次いで、「子どもができたなら職業を中断し、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい」が40.3%となっており、この二つで9割近くを占めている。女性がキャリアを継続するべきとの考え方と、子どもが小さいうちは、母親は仕事をせずに育児に専念した方がよいといった考え方が拮抗している。

性別にみると、「ずっと職業をもっている方がよい」が女性(49.7%)では5割を占めており、男性よりも7.3ポイント高くなっている。男性は「ずっと職業をもっている方がよい」(42.4%)よりも「子どもができたなら職業を中断し、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい」(45.3%)の方が2.9ポイント高くなっている。

前回調査と比較すると、「子どもができたなら職業を中断し、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい」が15.8ポイント減少し、「ずっと職業をもっている方がよい」が17.2ポイント増加している。この設問では、この5年間の市民の意識の変化が顕著にみられる。

年齢別にみると、男女ともに60代と70代以上で「子どもができたなら職業を中断し、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい」の割合が他の年代よりも高くなっている。

性別役割分担意識別にみると、男女ともに分担意識に『同感する』場合には「子どもができたなら職業を中断し、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい」が7割を超えて高くなっている。

図表4-2 女性が職業をもつことについて〔全体、年齢別、性別役割分担意識別〕

(%)

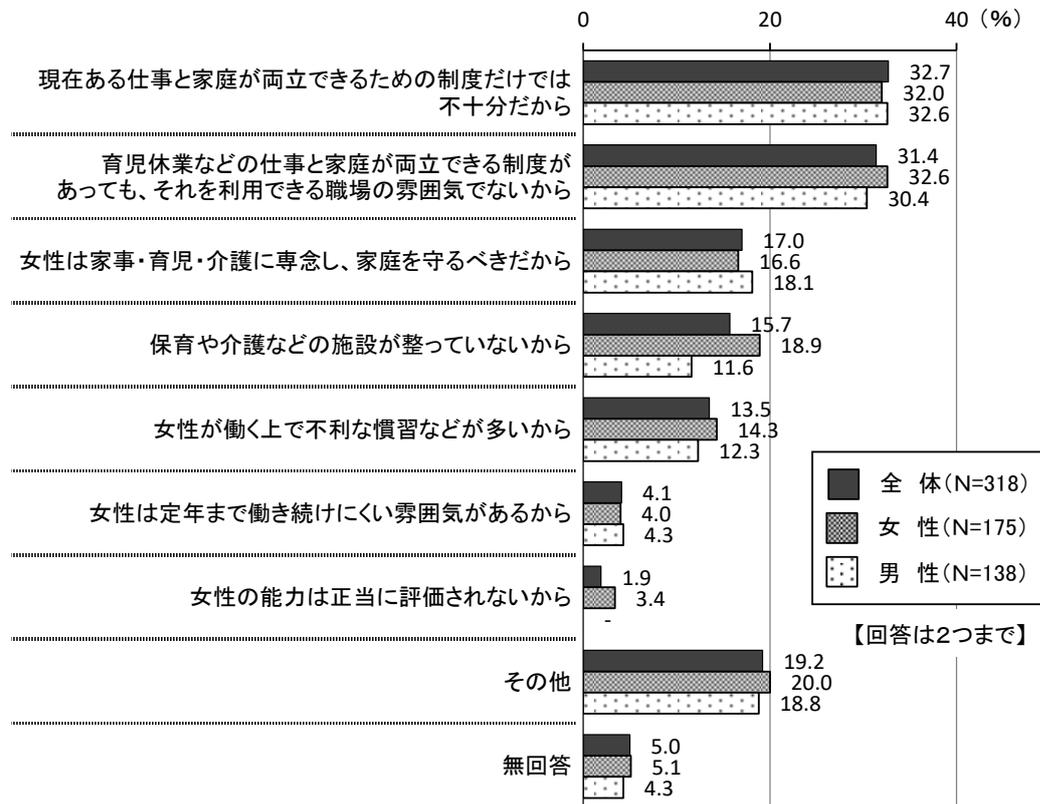
		標本数	方 が よ い	よ ち 結 婚 い あ す と は ま で は な い 方 が も と つ て い る	方 を も つ た ら よ い	子 ど も が あ ら な い と も つ て い る	方 か ら あ ら な い と も つ て い る	中 断 し も つ て い る	子 ど も が あ ら な い と も つ て い る	が よ い は 職 業 を も た な い 方	そ の 他	無 回 答
全 体		626 100	293 46.8	16 2.6	9 1.4	252 40.3	3 0.5	38 6.1	15 2.4			
年 齢 別	女性:20代以下	54	48.1	1.9	1.9	33.3	-	14.8	-			
	女性:30代	60	55.0	1.7	1.7	33.3	1.7	6.7	-			
	女性:40代	53	64.2	-	-	22.6	-	9.4	3.8			
	女性:50代	81	53.1	3.7	-	35.8	-	6.2	1.2			
	女性:60代	77	42.9	2.6	1.3	48.1	-	-	5.2			
	女性:70代以上	43	32.6	7.0	4.7	48.8	-	-	7.0			
	男性:20代以下	20	35.0	5.0	5.0	40.0	-	15.0	-			
	男性:30代	43	44.2	-	-	44.2	-	11.6	-			
	男性:40代	35	34.3	5.7	-	40.0	5.7	14.3	-			
	男性:50代	42	52.4	2.4	-	42.9	-	-	2.4			
	男性:60代	63	46.0	1.6	3.2	46.0	-	3.2	-			
男性:70代以上	42	35.7	2.4	2.4	54.8	-	-	4.8				
無回答	13	46.2	-	-	30.8	-	7.7	15.4				
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	82	39.0	9.8	3.7	74.4	1.2	6.1	7.3			
	女性:同感しない	159	94.3	1.3	1.3	44.7	-	9.4	2.5			
	男性:同感する	65	30.8	7.7	3.1	73.8	1.5	6.2	3.1			
	男性:同感しない	125	64.0	0.8	0.8	48.0	0.8	8.8	-			
	無回答	14	78.6	-	7.1	85.7	-	21.4	21.4			

2. 女性が職業をずっともたない方がいい理由

【問6で「2」～「6」のいずれかに答えた方におたずねします。】

付問6-1. あなたが、そう思うのはどのような理由からですか。(〇は2つまで)

図表4-3 女性が職業をずっともたない方がいい理由 [全体、性別]



女性が職業を継続しない方がいいと考える理由をたずねたところ、「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」(32.7%)と「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」(31.4%)が約3割と高くなっている。「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」(17.0%)も2割弱と比較的高い。

性別にみると、全体的に男女の差は小さいが、「保育や介護などの施設が整っていないから」は女性(18.9%)の方が7.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」は、男女ともに20代以下と30代、50代で他の年代よりも高くなっている。「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」も女性の30代と男性の20代以下という若い年代で約3割から4割と比較的高くなっている。

図表4-4 女性が職業をずっともたない方がいい理由 [全体、年齢別]

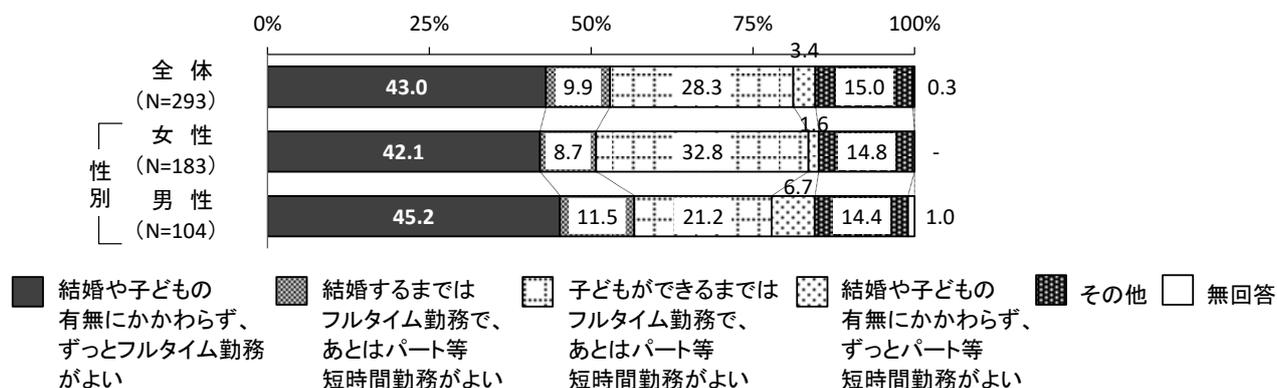
		(%)									
		標本数	し女性 は家庭 を守る べきだ から	困女性 気は定 年まで 働き続 けにくい 秀	か女性 の能力 は正当 に評価 されない	多女性 が働く 上で不 利な慣 習などが	用で育 児休業 などの 仕事と 家庭が 両立 できる 制度が あっても 、それが 両立 できない 職場の 雰囲気 でない から	た現在 ある制 度だけ では家 庭が両 立でき ない	ない保 育や介 護など の施設 が整っ ていない から	その他	無回答
全体		318 100	54 17.0	13 4.1	6 1.9	43 13.5	100 31.4	104 32.7	50 15.7	61 19.2	16 5.0
年齢別	女性:20代以下	28	17.9	3.6	-	10.7	42.9	39.3	28.6	14.3	3.6
	女性:30代	27	29.6	7.4	3.7	14.8	25.9	37.0	14.8	14.8	3.7
	女性:40代	17	5.9	5.9	-	11.8	17.6	17.6	5.9	52.9	-
	女性:50代	37	13.5	2.7	2.7	8.1	35.1	35.1	16.2	29.7	8.1
	女性:60代	40	12.5	5.0	5.0	25.0	40.0	27.5	17.5	12.5	2.5
	女性:70代以上	26	19.2	-	7.7	11.5	23.1	30.8	26.9	7.7	11.5
	男性:20代以下	13	38.5	-	-	-	7.7	38.5	7.7	15.4	7.7
	男性:30代	24	4.2	-	-	8.3	45.8	37.5	12.5	29.2	8.3
	男性:40代	23	13.0	8.7	-	13.0	30.4	30.4	8.7	21.7	-
	男性:50代	19	10.5	10.5	-	21.1	21.1	42.1	5.3	10.5	-
	男性:60代	34	14.7	5.9	-	11.8	32.4	29.4	17.6	20.6	2.9
	男性:70代以上	25	36.0	-	-	16.0	32.0	24.0	12.0	12.0	8.0
無回答		5	-	-	-	20.0	20.0	60.0	20.0	-	20.0

3. 女性が職業をずっともっている場合の働き方

【問6で「1. ずっと職業をもっている方がよい」と答えた方におたずねします。】

付問6-2. ずっと職業をもっている場合、どのような働き方がよいと思いますか。

図表4-5 女性が職業をずっともっている場合の働き方 [全体、性別]



女性が職業を継続する方がよいと考える場合に、どのような働き方が望ましいかをたずねたところ、「結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとフルタイム勤務がよい」が43.0%で最も高く、次いで「子どもができるまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい」が28.3%となっている。

性別にみると、「子どもができるまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい」は、女性では32.8%となっており男性よりも11.6ポイント高い。

年齢別にみると、「結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとフルタイム勤務がよい」は男女ともに60代で最も高く、20代以下で最も低くなっている。

図表4-6 女性が職業をずっともっている場合の働き方〔全体、年齢別〕

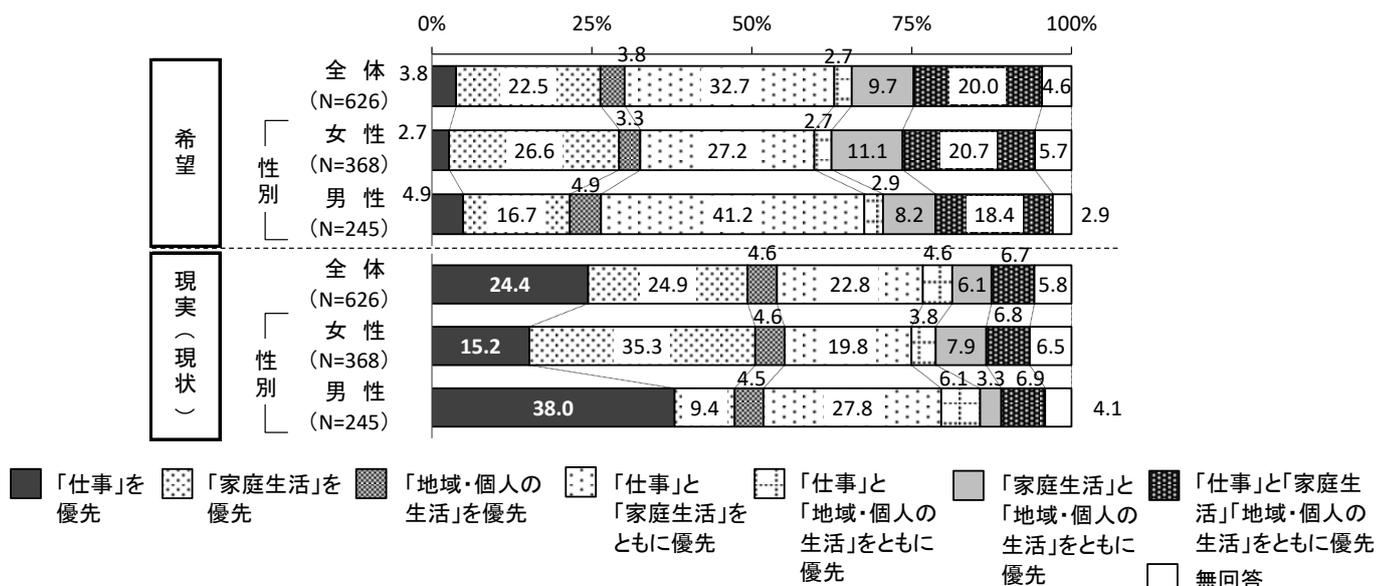
(%)

		標本数	勤わ結 務ら婚 がずや よ、子 いずど もとの フル無 タにか ムか	時勤結 間務婚 勤です 務、る があと よいは いはは パフル ール トタ タイ 等イ 短ム	トタ子 等イど 短ムも 間勤が 務、る があと よいは いはは パフル ール	時わ結 間ら婚 勤ずや 務、子 がずど よ、も いはの パ有 フル無 トにか 等に 短か	その他	無回答
全体		293 100.0	126 43.0	29 9.9	83 28.3	10 3.4	44 15.0	1 0.3
年齢別	女性:20代以下	26	30.8	15.4	38.5	3.8	11.5	-
	女性:30代	33	39.4	12.1	27.3	3.0	18.2	-
	女性:40代	34	35.3	11.8	32.4	-	20.6	-
	女性:50代	43	44.2	2.3	34.9	-	18.6	-
	女性:60代	33	54.5	-	36.4	-	9.1	-
	女性:70代以上	14	50.0	21.4	21.4	7.1	-	-
	男性:20代以下	7	14.3	57.1	28.6	-	-	-
	男性:30代	19	42.1	5.3	36.8	-	10.5	5.3
	男性:40代	12	41.7	16.7	-	8.3	33.3	-
	男性:50代	22	40.9	9.1	13.6	4.5	31.8	-
	男性:60代	29	62.1	3.4	20.7	6.9	6.9	-
男性:70代以上	15	40.0	13.3	26.7	20.0	-	-	
無回答	6	33.3	16.7	16.7	-	33.3	-	

4. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

問7. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）」の優先度についておたずねします。次の（ア）、（イ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

図表4-7 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 [全体、性別]



生活における優先度についてたずねたところ、希望としては『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が32.7%で最も高く、次いで『家庭生活』を優先」が22.5%、「『仕事』と『家庭生活』『地域・個人の生活』をともに優先」が20.0%となっている。

性別にみると、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」は男性（41.2%）の方が14ポイント高く、「『家庭生活』を優先」は女性（26.6%）の方が9.9ポイント高くなっている。

次に現状についてたずねたところ、「『仕事』を優先」（24.4%）、「『家庭生活』を優先」（24.9%）、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（22.8%）の3つがいずれも2割台で拮抗している。希望と比べると、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が9.9ポイント低く、「『仕事』を優先」が20.6ポイント高くなっている。

性別にみると、男女の差が大きく、男性は「『仕事』を優先」（38.0%）、女性は「『家庭生活』を優先」（35.3%）がそれぞれ3割台で高くなっている。

生活における優先度の希望を年齢別にみると、男女ともに『家庭生活』を優先は年齢が高い層で割合が高くなる傾向がみられる。男性では、20代以下で『仕事』と『家庭生活』をともに優先が55.0%と特に高くなっている。

生活における優先度の現状を年齢別にみると、男性の30代と40代では『仕事』を優先が4割半ばから約5割を占めているが、これを希望している人はほとんどいないことから、希望と現実の乖離が顕著である。また、女性の30代と40代では『家庭生活』を優先が4割前後を占めているが、こちらも希望とは大きく乖離している。

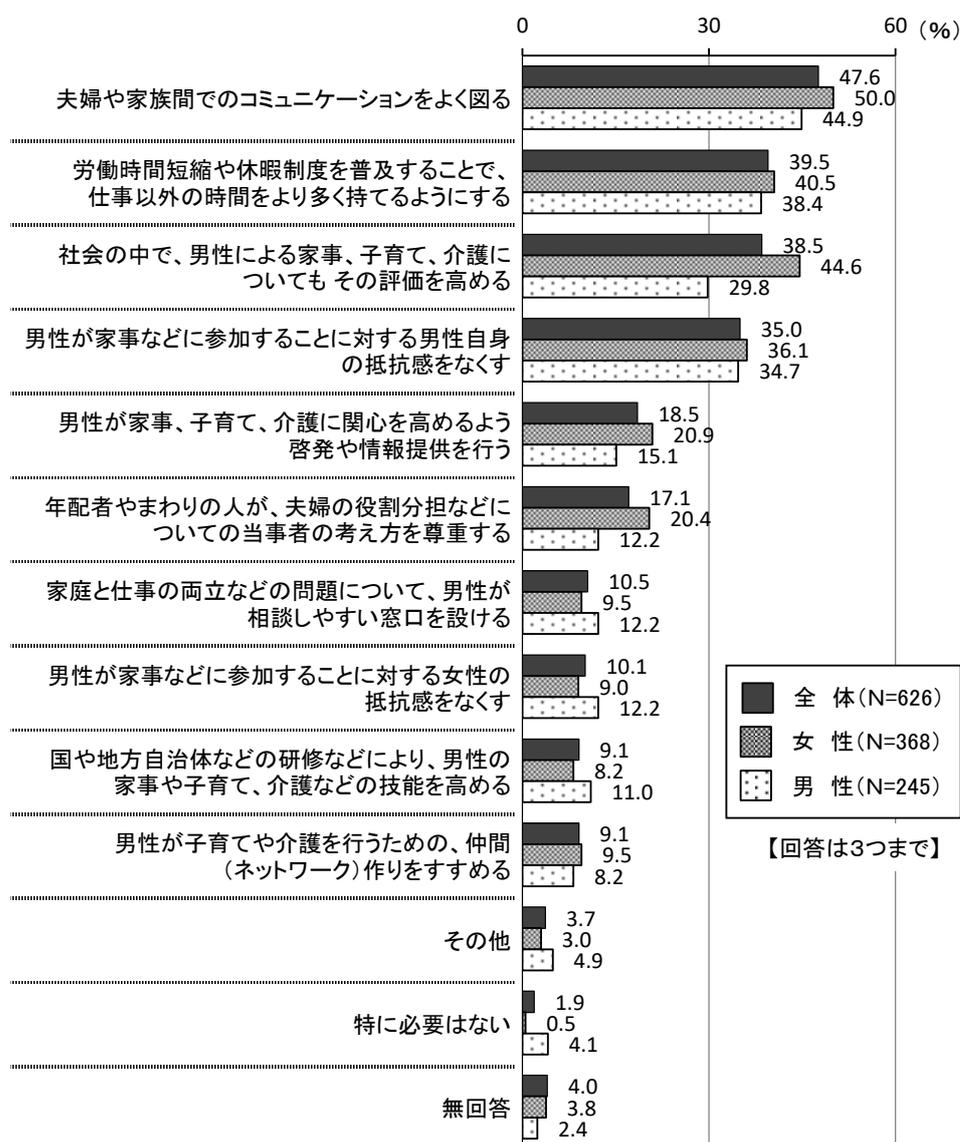
図表4-8 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度〔全体、年齢別〕

		標本数	希望							無回答
			「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を優先	「個人生活」と「地域」を優先	「地域・家庭生活」と「生活」を優先	「仕事」と「地域・家庭生活」を優先	
全体		626 100.0	24 3.8	141 22.5	24 3.8	205 32.7	17 2.7	61 9.7	125 20.0	29 4.6
年齢別	女性:20代以下	54	5.6	20.4	9.3	22.2	5.6	9.3	24.1	3.7
	女性:30代	60	3.3	25.0	5.0	30.0	1.7	15.0	16.7	3.3
	女性:40代	53	-	24.5	-	35.8	5.7	7.5	24.5	1.9
	女性:50代	81	3.7	25.9	-	32.1	-	6.2	30.9	1.2
	女性:60代	77	2.6	27.3	2.6	22.1	2.6	15.6	15.6	11.7
	女性:70代以上	43	-	39.5	4.7	18.6	2.3	14.0	7.0	14.0
	男性:20代以下	20	-	10.0	-	55.0	10.0	10.0	15.0	-
	男性:30代	43	-	18.6	9.3	37.2	-	11.6	20.9	2.3
	男性:40代	35	2.9	14.3	5.7	48.6	2.9	8.6	14.3	2.9
	男性:50代	42	7.1	11.9	2.4	50.0	2.4	2.4	21.4	2.4
	男性:60代	63	7.9	19.0	3.2	39.7	1.6	4.8	22.2	1.6
男性:70代以上	42	7.1	21.4	7.1	26.2	4.8	14.3	11.9	7.1	
無回答	13	15.4	15.4	-	30.8	-	-	30.8	7.7	
			現実(現状)							
		標本数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を優先	「個人生活」と「地域」を優先	「地域・家庭生活」と「生活」を優先	「仕事」と「地域・家庭生活」を優先	無回答
全体		626 100.0	153 24.4	156 24.9	29 4.6	143 22.8	29 4.6	38 6.1	42 6.7	36 5.8
年齢別	女性:20代以下	54	20.4	20.4	16.7	18.5	9.3	1.9	7.4	5.6
	女性:30代	60	15.0	46.7	-	15.0	1.7	8.3	10.0	3.3
	女性:40代	53	13.2	39.6	1.9	28.3	7.5	3.8	3.8	1.9
	女性:50代	81	25.9	28.4	1.2	22.2	3.7	8.6	8.6	1.2
	女性:60代	77	9.1	28.6	5.2	24.7	1.3	15.6	5.2	10.4
	女性:70代以上	43	2.3	58.1	4.7	4.7	-	4.7	4.7	20.9
	男性:20代以下	20	30.0	15.0	10.0	10.0	20.0	-	10.0	5.0
	男性:30代	43	53.5	4.7	-	32.6	7.0	-	-	2.3
	男性:40代	35	45.7	5.7	2.9	25.7	2.9	2.9	8.6	5.7
	男性:50代	42	42.9	2.4	-	38.1	4.8	-	7.1	4.8
	男性:60代	63	33.3	12.7	1.6	31.7	6.3	3.2	11.1	-
男性:70代以上	42	21.4	16.7	16.7	16.7	2.4	11.9	4.8	9.5	
無回答	13	30.8	23.1	7.7	15.4	-	7.7	-	15.4	

5. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

問8. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図表4-9 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと
[全体、性別]



今後、男性が家事や育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは何かを複数回答でたずねたところ、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」(47.6%)が最も高く、およそ半数の人がこの項目をあげている。「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」(39.5%)と「社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める」(38.5%)、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(35.0%)もそれぞれ4割弱となっており、多くの人が必要と考えている。

性別にみると、女性の方が高い割合となっている項目が多いが、特に「社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める」は女性（44.6%）の方が14.8ポイントと大幅に高くなっている。

年齢別にみると、女性では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」の割合は、年代が高い層で割合が高い傾向がみられ、高齢の夫婦においてコミュニケーションが不足していることが多い現状が伺える。また、女性では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が年齢が低い層において高いという傾向が顕著である。

図表4-10 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

[全体、年齢別]

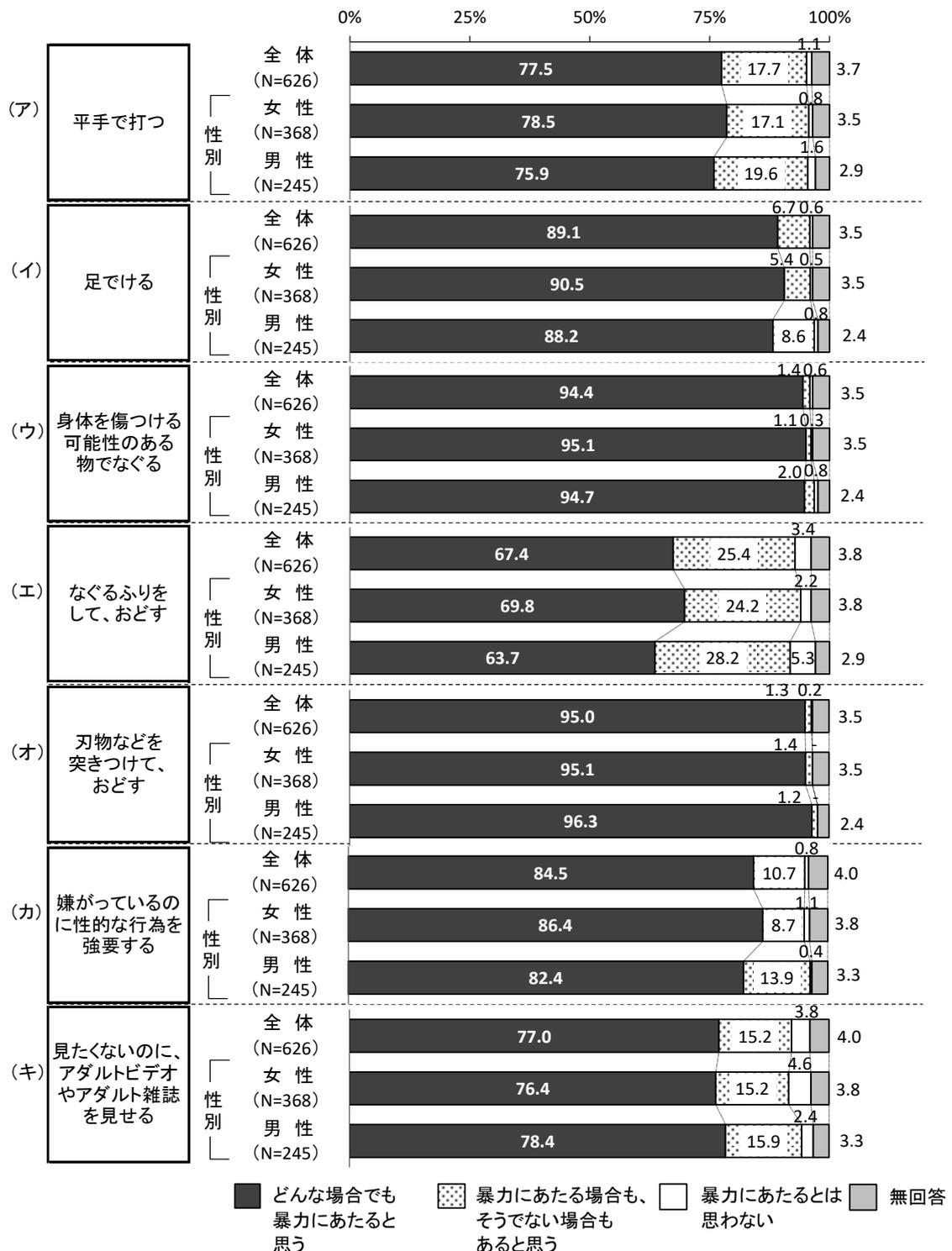
		(%)															
		男性が家事など自身に抵抗感をなくすこと	男性が家事などの抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る	役割や負担などについて、夫婦の考え方を尊重する	子育て、介護についても家事、その評価を高める	社会の中で、男性による家事、より多く持つこと、以外に時間を普及	労働時間短縮や休暇制度を普及	心が高めるよう啓発や情報提供	男性が家事、子育て、介護に関するスキルを高める	国や地方自治体などの研修など	の、仲間（ネットワーキング）作り	口を設ける、男性が相談しやすい窓	家庭と仕事の両立などの問題に	その他	特に必要はない	無回答
全体	626 100.0	219 35.0	63 10.1	298 47.6	107 17.1	241 38.5	247 39.5	116 18.5	57 9.1	57 9.1	66 10.5	23 3.7	12 1.9	25 4.0			
年齢別	女性:20代以下	54	42.6	9.3	46.3	22.2	29.6	59.3	14.8	5.6	13.0	11.1	5.6	-	-	-	
	女性:30代	60	31.7	8.3	45.0	18.3	53.3	43.3	21.7	10.0	3.3	3.3	6.7	-	3.3	-	
	女性:40代	53	37.7	11.3	43.4	13.2	50.9	47.2	24.5	3.8	7.5	5.7	5.7	-	3.8	-	
	女性:50代	81	43.2	4.9	46.9	30.9	46.9	37.0	22.2	7.4	11.1	4.9	1.2	1.2	2.5	-	
	女性:60代	77	37.7	10.4	57.1	19.5	51.9	27.3	19.5	9.1	7.8	16.9	-	-	5.2	-	
	女性:70代以上	43	16.3	11.6	62.8	11.6	25.6	34.9	23.3	14.0	16.3	16.3	-	2.3	9.3	-	
	男性:20代以下	20	55.0	25.0	55.0	10.0	15.0	45.0	20.0	-	10.0	30.0	5.0	-	-	-	
	男性:30代	43	25.6	14.0	46.5	16.3	44.2	51.2	11.6	4.7	7.0	9.3	9.3	7.0	-	-	
	男性:40代	35	25.7	17.1	40.0	14.3	42.9	34.3	14.3	8.6	11.4	8.6	8.6	2.9	2.9	-	
	男性:50代	42	35.7	9.5	42.9	4.8	21.4	50.0	16.7	4.8	7.1	7.1	4.8	4.8	2.4	-	
男性:60代	63	39.7	6.3	42.9	14.3	30.2	31.7	14.3	15.9	9.5	15.9	1.6	-	1.6	-		
男性:70代以上	42	33.3	11.9	47.6	11.9	19.0	23.8	16.7	23.8	4.8	9.5	2.4	9.5	7.1	-		
無回答	13	7.7	-	30.8	15.4	30.8	30.8	15.4	-	15.4	7.7	-	-	38.5	-		

第5章 パートナー（配偶者や恋人）からの暴力について

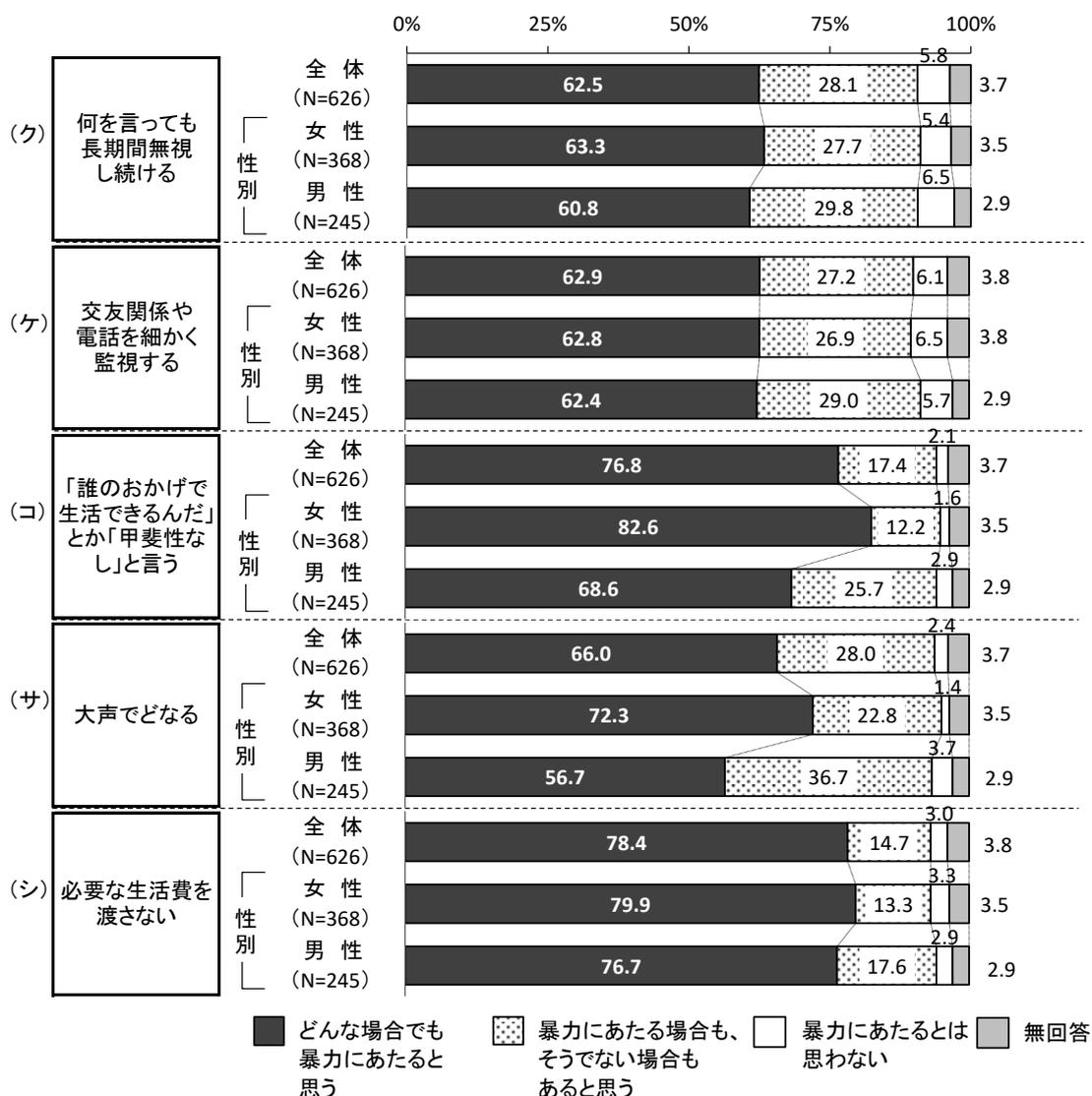
1. 暴力だと思うもの

問9. あなたは、次にあげるようなことがパートナー（配偶者や恋人）間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。次の（ア）から（シ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

図表5-1（1） 暴力だと思うもの〔全体、性別〕



図表5-1(2) 暴力だと思うもの [全体、性別]



様々な行為について、それが配偶者や恋人の間で行われた場合に暴力だと思うかどうかたずねたところ、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は「刃物などを突きつけて、おどす」が95.0%で最も高く、次いで「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」が94.4%、「足でける」が89.1%、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」が84.5%の順となっている。これら以外の項目は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が8割を下回っており、特に「何を言っても長期間無視し続ける」(62.5%)や「交友関係や電話を細かく監視する」(62.9%)など、精神的に傷つける行為が暴力であるとの認識が低い傾向がみられる。

性別にみると、全体的に男女の差は小さいが、『誰のおかげで生活できるんだ』『甲斐性なし』などと言う(女性82.6%、男性68.6%)と「大声でどなる」(同72.3%、56.7%)は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が女性の方が約14~16ポイント高くなっており、男女の認識に隔たりがある。

年齢別にみると、ほとんどの項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が70代以上で低くなっており、特に「なぐるふりをして、おどす」でその傾向が顕著である。

図表5-2(1) 暴力だと思うもの [全体、年齢別]

		(%)															
		標本数	(ア)平手で打つ					(イ)足でける					(ウ)身体を傷つける可能性のある物でなぐる				
			あど んな 場合 でも 暴力 に あ た る と 思 う	そ う で な い 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	無 回 答	あど んな 場合 でも 暴力 に あ た る と 思 う	そ う で な い 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	無 回 答	あど んな 場合 でも 暴力 に あ た る と 思 う	そ う で な い 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	無 回 答
全 体		626 100.0	485 77.5	111 17.7	7 1.1	23 3.7	558 89.1	42 6.7	4 0.6	22 3.5	591 94.4	9 1.4	4 0.6	22 3.5			
年 齢 別	女性:20代以下	54	75.9	24.1	-	-	88.9	11.1	-	-	98.1	1.9	-	-			
	女性:30代	60	85.0	10.0	3.3	1.7	95.0	3.3	-	1.7	96.7	1.7	-	1.7			
	女性:40代	53	75.5	22.6	-	1.9	92.5	3.8	1.9	1.9	96.2	-	1.9	1.9			
	女性:50代	81	85.2	14.8	-	-	93.8	6.2	-	-	100.0	-	-	-			
	女性:60代	77	81.8	11.7	1.3	5.2	89.6	3.9	1.3	5.2	92.2	2.6	-	5.2			
	女性:70代以上	43	58.1	25.6	-	16.3	79.1	4.7	-	16.3	83.7	-	-	16.3			
	男性:20代以下	20	75.0	25.0	-	-	90.0	10.0	-	-	95.0	5.0	-	-			
	男性:30代	43	74.4	25.6	-	-	93.0	7.0	-	-	95.3	4.7	-	-			
	男性:40代	35	71.4	22.9	5.7	-	74.3	20.0	5.7	-	94.3	5.7	-	-			
	男性:50代	42	78.6	14.3	2.4	4.8	95.2	2.4	-	2.4	97.6	-	-	2.4			
	男性:60代	63	84.1	12.7	-	3.2	92.1	4.8	-	3.2	96.8	-	-	3.2			
男性:70代以上	42	66.7	23.8	2.4	7.1	81.0	11.9	-	7.1	88.1	-	4.8	7.1				
無回答	13	76.9	-	-	-	23.1	69.2	7.7	-	23.1	69.2	-	7.7	23.1			
		標本数	(エ)なぐるふりをして、おどす					(オ)刃物などを突きつけて、おどす					(カ)嫌がっているのに性的な行為を強要する				
			あど んな 場合 でも 暴力 に あ た る と 思 う	そ う で な い 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	無 回 答	あど んな 場合 でも 暴力 に あ た る と 思 う	そ う で な い 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	無 回 答	あど んな 場合 でも 暴力 に あ た る と 思 う	そ う で な い 場 合 も あ る	暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	無 回 答
全 体		626 100.0	422 67.4	159 25.4	21 3.4	24 3.8	595 95.0	8 1.3	1 0.2	22 3.5	529 84.5	67 10.7	5 0.8	25 4.0			
年 齢 別	女性:20代以下	54	81.5	18.5	-	-	100.0	-	-	-	98.1	1.9	-	-			
	女性:30代	60	78.3	16.7	3.3	1.7	98.3	-	-	1.7	81.7	15.0	1.7	1.7			
	女性:40代	53	75.5	22.6	-	1.9	96.2	1.9	-	1.9	96.2	-	1.9	1.9			
	女性:50代	81	72.8	25.9	1.2	-	100.0	-	-	-	88.9	9.9	1.2	-			
	女性:60代	77	64.9	26.0	3.9	5.2	90.9	3.9	-	5.2	83.1	9.1	1.3	6.5			
	女性:70代以上	43	39.5	37.2	4.7	18.6	81.4	2.3	-	16.3	67.4	16.3	-	16.3			
	男性:20代以下	20	60.0	30.0	10.0	-	95.0	5.0	-	-	85.0	15.0	-	-			
	男性:30代	43	81.4	14.0	4.7	-	97.7	2.3	-	-	90.7	9.3	-	-			
	男性:40代	35	74.3	20.0	5.7	-	100.0	-	-	-	80.0	17.1	2.9	-			
	男性:50代	42	61.9	31.0	4.8	2.4	95.2	2.4	-	2.4	88.1	9.5	-	2.4			
	男性:60代	63	68.3	28.6	-	3.2	96.8	-	-	3.2	84.1	12.7	-	3.2			
男性:70代以上	42	33.3	45.2	11.9	9.5	92.9	-	-	7.1	66.7	21.4	-	11.9				
無回答	13	69.2	7.7	-	-	23.1	69.2	-	7.7	23.1	69.2	7.7	-	23.1			

Ⅱ 調査結果 第5章 パートナー（配偶者や恋人）からの暴力について

図表5-2 (2) 暴力だと思うもの〔全体、年齢別〕

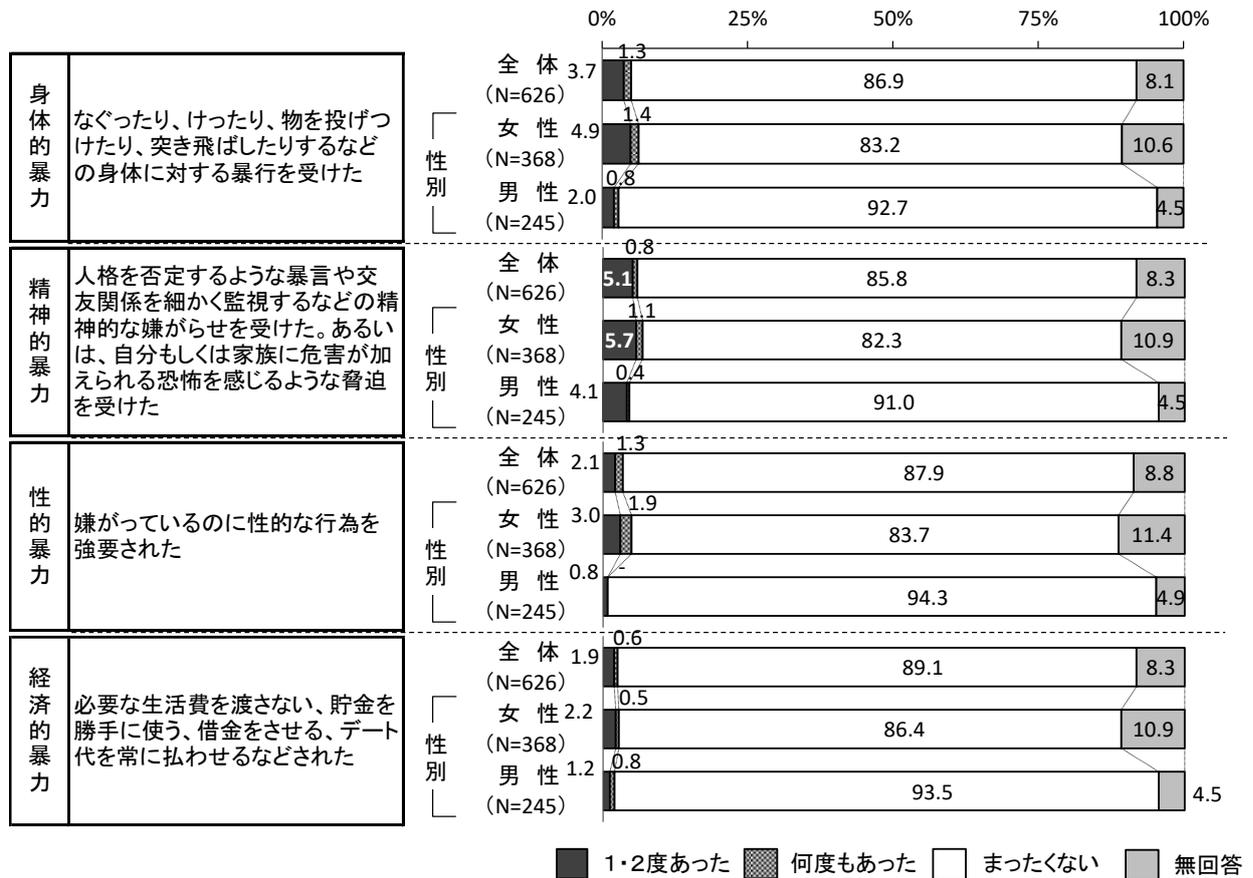
(%)

	標本数	(キ)見たくないのに、アダルトビデオやアダルト雑誌を見せる				(ク)何を言っても長期間無視し続ける				(ケ)交友関係や電話を細かく監視する				
		あど たんな ると思 う場合 でも暴 力に	とそ もうで ないあ たる場 合もあ る、	暴力 にあた るとは 思わ	無回 答	あど たんな ると思 う場合 でも暴 力に	とそ もうで ないあ たる場 合もあ る、	暴力 にあた るとは 思わ	無回 答	あど たんな ると思 う場合 でも暴 力に	とそ もうで ないあ たる場 合もあ る、	暴力 にあた るとは 思わ	無回 答	
全体	626 100.0	482 77.0	95 15.2	24 3.8	25 4.0	391 62.5	176 28.1	36 5.8	23 3.7	394 62.9	170 27.2	38 6.1	24 3.8	
年齢別	女性:20代以下	54	92.6	7.4	-	-	57.4	35.2	7.4	-	61.1	31.5	7.4	-
	女性:30代	60	66.7	23.3	8.3	1.7	66.7	28.3	3.3	1.7	61.7	28.3	8.3	1.7
	女性:40代	53	88.7	3.8	5.7	1.9	69.8	22.6	5.7	1.9	66.0	26.4	5.7	1.9
	女性:50代	81	80.2	18.5	1.2	-	66.7	28.4	4.9	-	60.5	30.9	8.6	-
	女性:60代	77	68.8	16.9	7.8	6.5	63.6	27.3	3.9	5.2	66.2	24.7	3.9	5.2
	女性:70代以上	43	60.5	18.6	4.7	16.3	51.2	23.3	9.3	16.3	60.5	16.3	4.7	18.6
	男性:20代以下	20	80.0	20.0	-	-	50.0	40.0	10.0	-	55.0	30.0	15.0	-
	男性:30代	43	86.0	7.0	7.0	-	62.8	30.2	7.0	-	67.4	25.6	7.0	-
	男性:40代	35	77.1	20.0	2.9	-	74.3	20.0	5.7	-	74.3	22.9	2.9	-
	男性:50代	42	81.0	16.7	-	2.4	54.8	40.5	2.4	2.4	54.8	40.5	2.4	2.4
	男性:60代	63	82.5	11.1	1.6	4.8	68.3	23.8	4.8	3.2	66.7	27.0	3.2	3.2
	男性:70代以上	42	61.9	26.2	2.4	9.5	47.6	31.0	11.9	9.5	52.4	28.6	9.5	9.5
無回答	13	69.2	-	7.7	23.1	69.2	7.7	-	23.1	76.9	-	-	23.1	
	標本数	(コ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」と言う				(サ)大声でどなる				(シ)必要な生活費を渡さない				
		あど たんな ると思 う場合 でも暴 力に	とそ もうで ないあ たる場 合もあ る、	暴力 にあた るとは 思わ	無回 答	あど たんな ると思 う場合 でも暴 力に	とそ もうで ないあ たる場 合もあ る、	暴力 にあた るとは 思わ	無回 答	あど たんな ると思 う場合 でも暴 力に	とそ もうで ないあ たる場 合もあ る、	暴力 にあた るとは 思わ	無回 答	
全体	626 100.0	481 76.8	109 17.4	13 2.1	23 3.7	413 66.0	175 28.0	15 2.4	23 3.7	491 78.4	92 14.7	19 3.0	24 3.8	
年齢別	女性:20代以下	54	90.7	7.4	1.9	-	72.2	27.8	-	-	79.6	18.5	1.9	-
	女性:30代	60	85.0	13.3	-	1.7	71.7	25.0	1.7	1.7	76.7	20.0	1.7	1.7
	女性:40代	53	88.7	9.4	-	1.9	79.2	18.9	-	1.9	84.9	9.4	3.8	1.9
	女性:50代	81	86.4	12.3	1.2	-	77.8	22.2	-	-	85.2	12.3	2.5	-
	女性:60代	77	74.0	18.2	2.6	5.2	71.4	20.8	2.6	5.2	81.8	7.8	5.2	5.2
	女性:70代以上	43	69.8	9.3	4.7	16.3	55.8	23.3	4.7	16.3	65.1	14.0	4.7	16.3
	男性:20代以下	20	65.0	30.0	5.0	-	55.0	30.0	15.0	-	50.0	35.0	15.0	-
	男性:30代	43	79.1	18.6	2.3	-	53.5	41.9	4.7	-	81.4	14.0	4.7	-
	男性:40代	35	71.4	25.7	2.9	-	57.1	42.9	-	-	80.0	20.0	-	-
	男性:50代	42	59.5	35.7	2.4	2.4	59.5	35.7	2.4	2.4	78.6	16.7	2.4	2.4
	男性:60代	63	74.6	20.6	1.6	3.2	68.3	27.0	1.6	3.2	85.7	9.5	1.6	3.2
	男性:70代以上	42	57.1	28.6	4.8	9.5	40.5	45.2	4.8	9.5	66.7	23.8	-	9.5
無回答	13	69.2	7.7	-	23.1	61.5	7.7	7.7	23.1	69.2	-	-	30.8	

2. パートナー（配偶者や恋人）からの暴力の有無

問 10. この3年間くらいのうちに、あなたはパートナー（配偶者や恋人）から次のようなことをされたことがありますか。次の（ア）から（エ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

図表5-3 パートナー（配偶者や恋人）からの暴力の有無 [全体、性別]

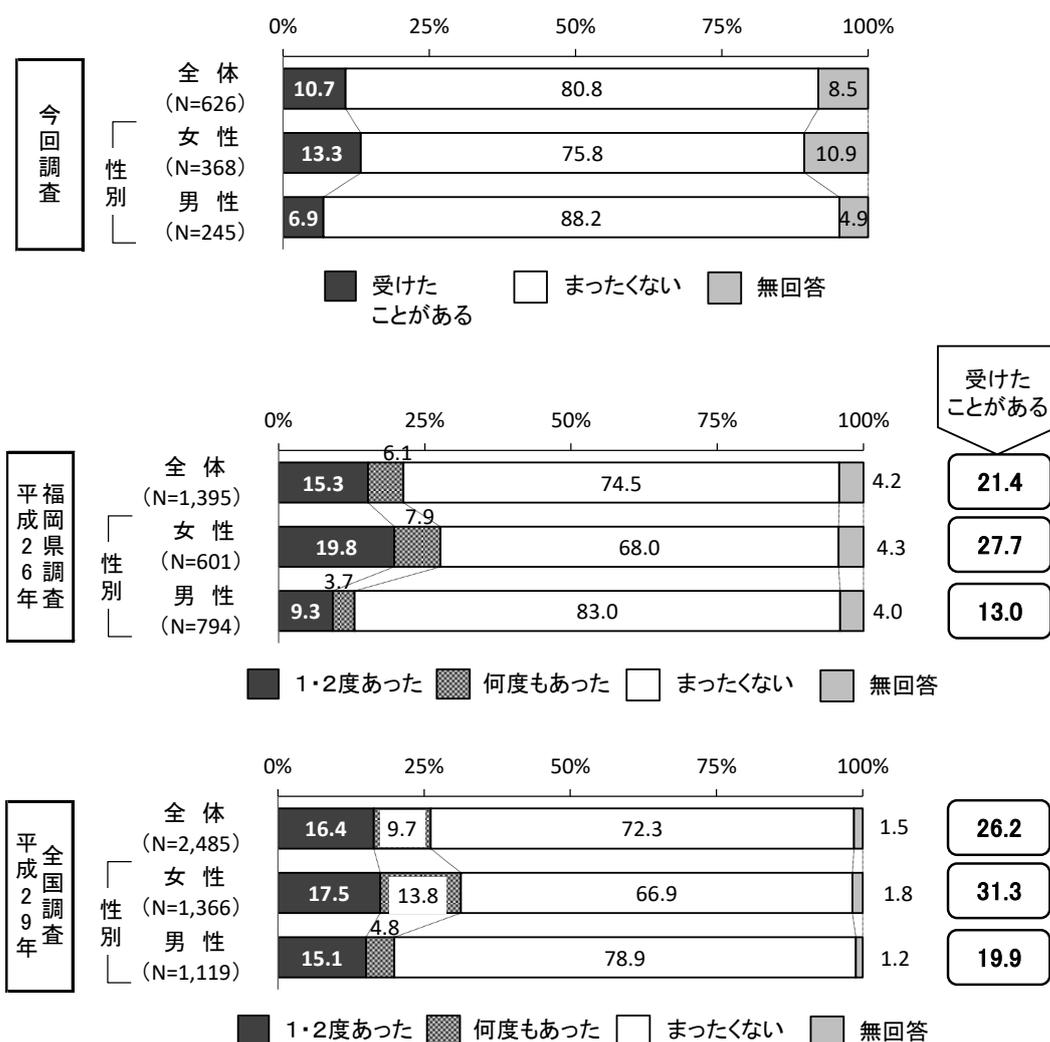


この3年間でのパートナーからのDV被害の経験についてたずねたところ、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力のいずれか一つでも『受けたことがある』割合は10.7%となっている。暴力の種類ごとにみると、精神的暴力の被害経験が最も高く5.9%、身体的暴力が5.0%、性的暴力が3.4%、経済的暴力が2.5%となっている。

性別にみると、被害経験の割合はいずれの暴力も女性の方が高い割合となっているが、特に身体的暴力と性的暴力で男女の差が大きい。

Ⅱ 調査結果 第5章 パートナー（配偶者や恋人）からの暴力について

図表5-4 パートナー（配偶者や恋人）からの暴力の有無〔全体、性別〕（福岡県・全国調査比較）



福岡県調査と平成29年12月に実施された内閣府「男女間における暴力に関する調査」（全国調査）ではここ3年間に限定しないたずね方をしているので、参考にとどめておく。

年齢別にみると、被害経験の割合は年齢によってばらつきが大きいですが、若い年齢から中高年層まで幅広い年齢で生じている問題であることがわかる。特に、女性は50代（22.2%）、男性は40代（14.3%）で高い割合となっており、女性は身体的暴力と精神的暴力、男性は身体的暴力の被害が多い。

図表5-5 パートナー（配偶者や恋人）からの暴力の有無〔全体、年齢別〕

		(%)			
		標本数	が受けたこと	いまったくない	無回答
全体		626 100.0	67 10.7	506 80.8	53 8.5
年齢別	女性:20代以下	54	5.6	79.6	14.8
	女性:30代	60	15.0	80.0	5.0
	女性:40代	53	5.7	86.8	7.5
	女性:50代	81	22.2	74.1	3.7
	女性:60代	77	15.6	68.8	15.6
	女性:70代以上	43	9.3	67.4	23.3
	男性:20代以下	20	5.0	90.0	5.0
	男性:30代	43	4.7	90.7	4.7
	男性:40代	35	14.3	82.9	2.9
	男性:50代	42	2.4	90.5	7.1
	男性:60代	63	9.5	88.9	1.6
	男性:70代以上	42	4.8	85.7	9.5
	無回答	13	7.7	84.6	7.7

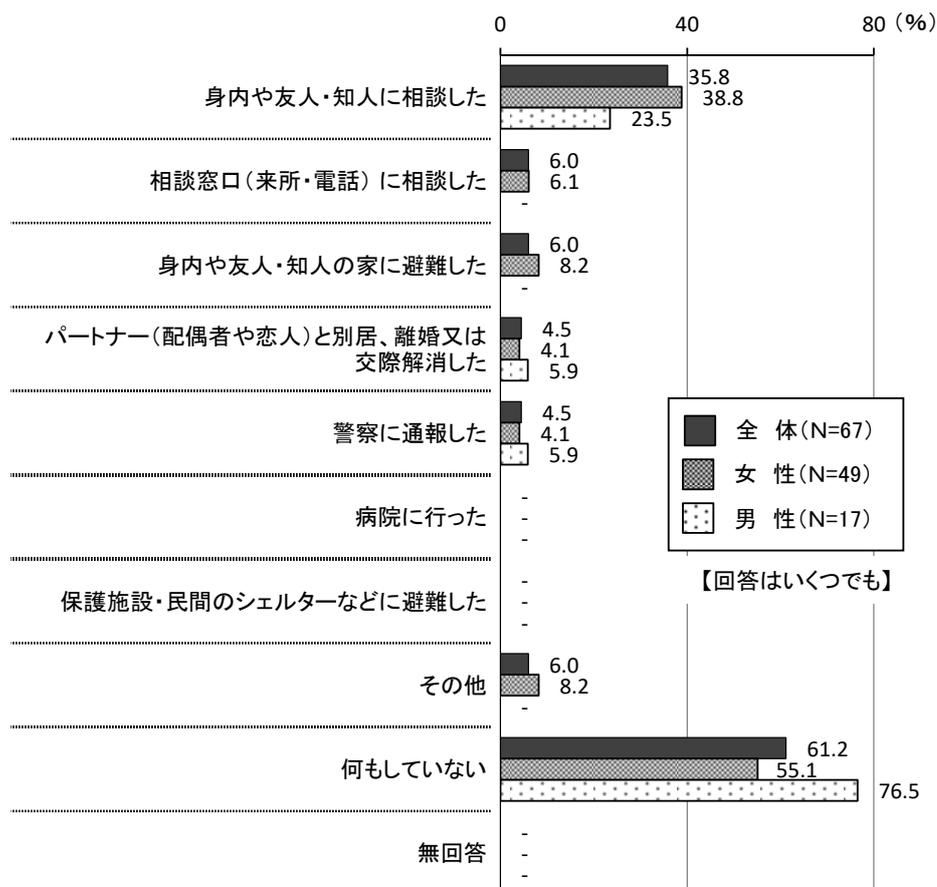
(%)

		標本数	身体的暴力				精神的暴力				性的暴力				経済的暴力			
			あ・た	あ	なま	無												
全体		626 100.0	23 3.7	8 1.3	544 86.9	51 8.1	32 5.1	5 0.8	537 85.8	52 8.3	13 2.1	8 1.3	550 87.9	55 8.8	12 1.9	4 0.6	558 89.1	52 8.3
年齢別	女性:20代以下	54	1.9	-	83.3	14.8	5.6	-	79.6	14.8	1.9	-	83.3	14.8	-	-	85.2	14.8
	女性:30代	60	6.7	-	88.3	5.0	5.0	-	90.0	5.0	1.7	-	93.3	5.0	3.3	-	91.7	5.0
	女性:40代	53	-	1.9	92.5	5.7	1.9	-	90.6	7.5	-	1.9	90.6	7.5	1.9	-	90.6	7.5
	女性:50代	81	8.6	2.5	85.2	3.7	9.9	2.5	84.0	3.7	6.2	3.7	84.0	6.2	3.7	1.2	91.4	3.7
	女性:60代	77	5.2	1.3	77.9	15.6	5.2	1.3	77.9	15.6	3.9	2.6	77.9	15.6	-	1.3	83.1	15.6
	女性:70代以上	43	4.7	2.3	69.8	23.3	4.7	2.3	69.8	23.3	2.3	2.3	72.1	23.3	4.7	-	72.1	23.3
	男性:20代以下	20	-	-	95.0	5.0	-	-	95.0	5.0	-	-	95.0	5.0	5.0	-	90.0	5.0
	男性:30代	43	-	-	95.3	4.7	4.7	-	90.7	4.7	-	-	95.3	4.7	-	-	95.3	4.7
	男性:40代	35	8.6	5.7	82.9	2.9	2.9	2.9	91.4	2.9	2.9	-	94.3	2.9	2.9	2.9	91.4	2.9
	男性:50代	42	-	-	95.2	4.8	2.4	-	92.9	4.8	-	-	92.9	7.1	-	-	95.2	4.8
	男性:60代	63	1.6	-	96.8	1.6	6.3	-	92.1	1.6	1.6	-	96.8	1.6	1.6	-	96.8	1.6
	男性:70代以上	42	2.4	-	88.1	9.5	4.8	-	85.7	9.5	-	-	90.5	9.5	-	2.4	88.1	9.5
	無回答	13	-	-	7.7	84.6	7.7	-	84.6	7.7	-	-	7.7	84.6	7.7	-	84.6	7.7

3. 暴力を受けた後の対応

【問10で（ア）から（エ）のうち、ひとつでも「1. 1・2度あった」「2. 何度もあった」と答えた方におたずねします。】
 付問10-1. そのような行為を受けて、その後どのように対応しましたか。
 （〇はいくつでも）

図表5-6 暴力を受けた後の対応 [全体、性別]



暴力の被害経験がある人に、その後の対応をたずねたところ、「何もしていない」が最も高く61.2%を占めている。何かしらの対応をした人の中では、「身内や友人・知人に相談した」が35.8%で最も高く、次いで「相談窓口（来所・電話）に相談した」と「身内や友人・知人の家に避難した」が6.0%となっている。

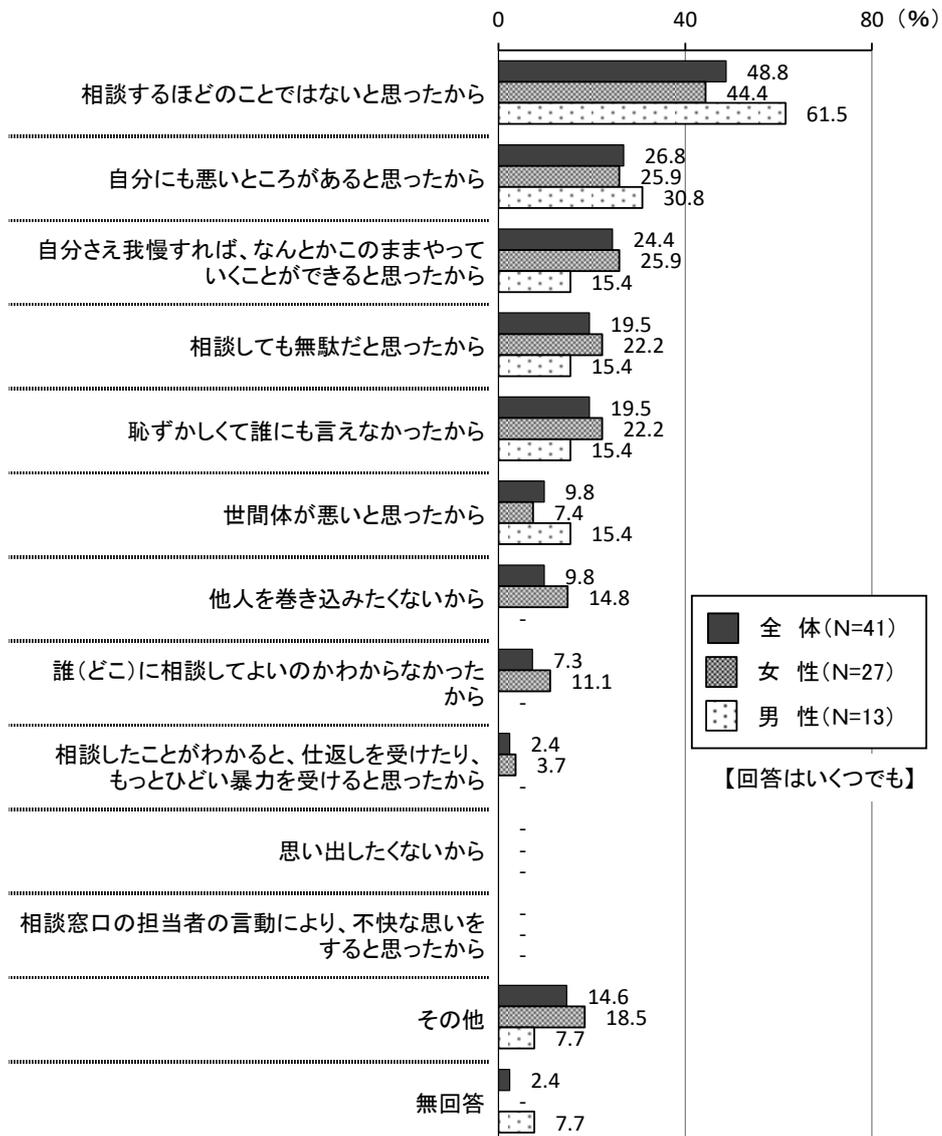
性別にみると、男女で対応の方法が異なっており、男性では「相談窓口（来所・電話）に相談した」や「身内や友人・知人の家に避難した」はゼロで、「パートナー（配偶者や恋人）と別居、離婚又は交際解消した」と「警察に通報した」が女性よりもやや高くなっている。「何もしていない」は女性55.1%、男性76.5%となっている。

4. 対応で「何もしていない」理由

【付問10-1で「9. 何もしていない」と答えた方におたずねします。】

付問10-2. あなたが、何もしなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

図表5-7 対応で「何もしていない」理由 [全体、性別]



暴力の被害を受けたときに「何もしていない」理由としては、「相談するほどのことではないと思ったから」（48.8%）が約半数を占めている。次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」（26.8%）、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていくことができると思ったから」（24.4%）、「相談しても無駄だと思ったから」（19.5%）、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」（19.5%）がいずれも2割前後となっている。

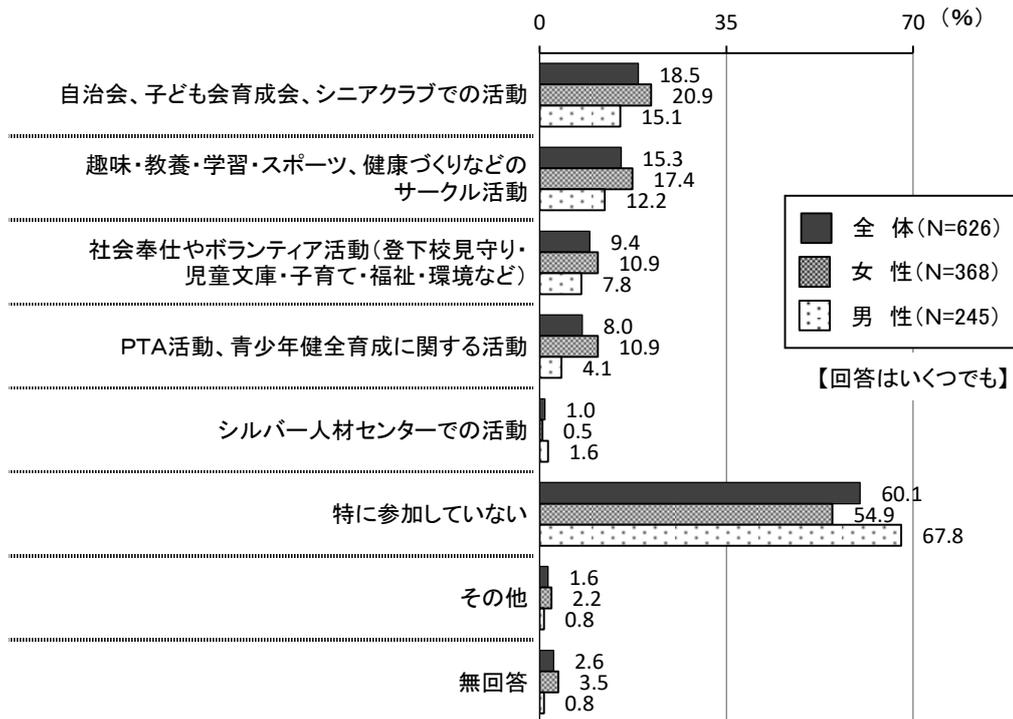
性別にみると、「相談するほどのことではないと思ったから」は男性では61.5%を占めており、女性よりも17.1ポイント高い。一方で、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていくことができると思ったから」は女性（25.9%）の方が10.5ポイント高いなど、全体的に男女の差が大きい項目が多い。

第6章 地域活動について

1. 地域社会で参加している実践活動

問 11. あなたは地域社会において、今どのような実践活動に参加していますか。
(〇はいくつでも)

図表 6-1 地域社会で参加している実践活動 [全体、性別]



現在参加している地域活動についてたずねたところ、「特に参加していない」が約6割を占めている。参加している活動としては「自治会、子ども会育成会、シニアクラブでの活動」(18.5%)と「趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動」(15.3%)がともに2割弱で比較的高い割合となっている。

性別にみると、「シルバー人材センターでの活動」を除くその他の活動は、女性の方が参加している割合が約3～7ポイント高くなっており、「特に参加していない」は男性が12.9ポイント高くなっている。地域での実践活動については、女性の方が参加率は高い。

年齢別にみると、女性の40代で「PTA活動、青少年健全育成に関する活動」が39.6%と高いが目立っている。一方で男性の40代では、この割合は8.6%に過ぎず、男女の差が極めて大きい。女性の70代以上では「趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動」が41.9%と高くなっている。男女とも20代以下では「特に参加していない」が約9割を占めている。

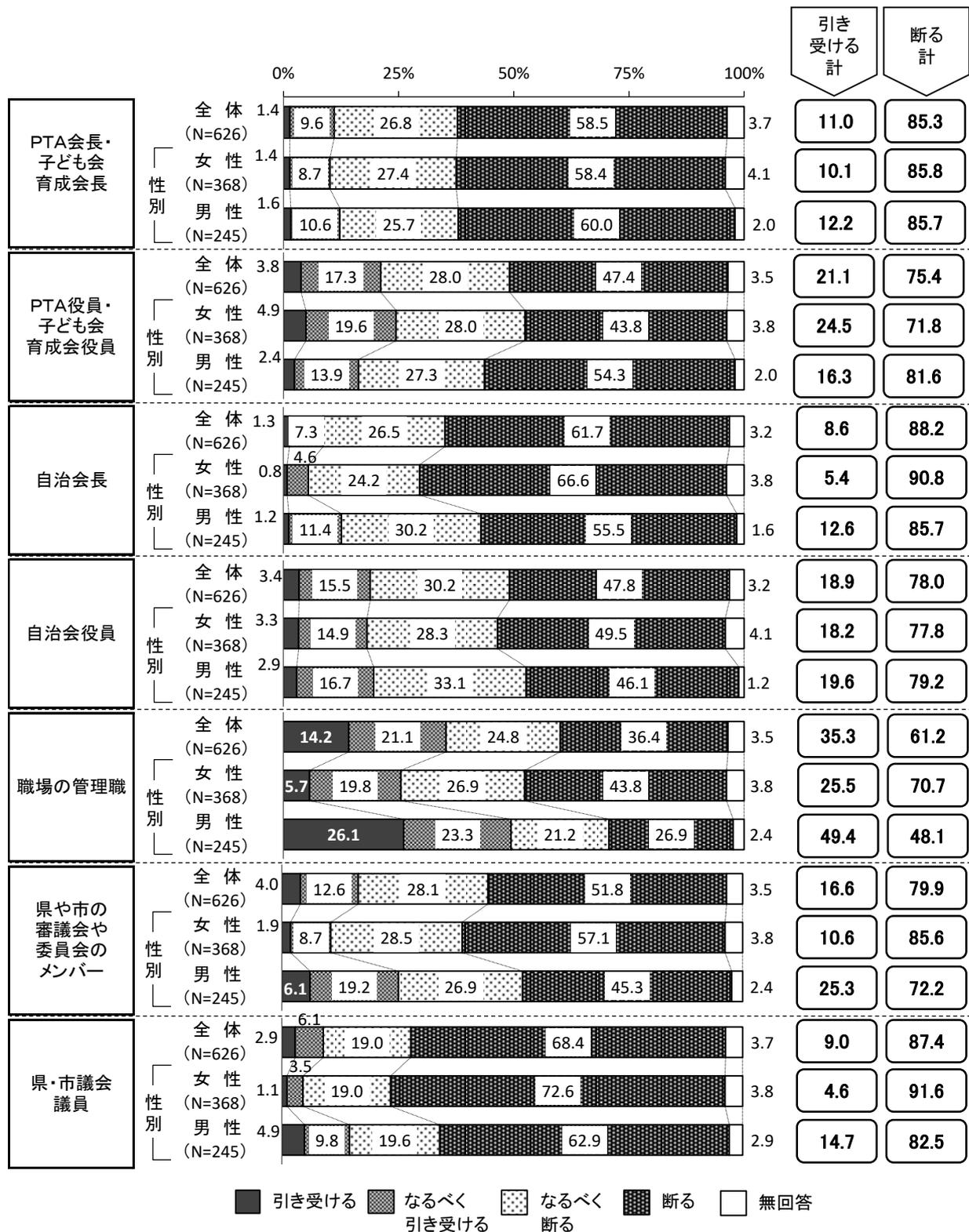
図表6-2 地域社会で参加している実践活動 [全体、年齢別]

		(%)								
		標本数	自治会、クラブ、子ども会、PTA活動、青少年健全育成、シ	PTA活動、青少年健全育成	趣味・教養・学習などのサークル活動	社会奉仕やボランティア・環境など	シルバー人材センターでの活動	特に参加していない	その他	無回答
全体		626 100.0	116 18.5	50 8.0	96 15.3	59 9.4	6 1.0	376 60.1	10 1.6	16 2.6
年齢別	女性:20代以下	54	1.9	1.9	1.9	3.7	-	92.6	-	-
	女性:30代	60	28.3	13.3	11.7	15.0	-	51.7	1.7	1.7
	女性:40代	53	28.3	39.6	11.3	3.8	-	37.7	1.9	3.8
	女性:50代	81	25.9	8.6	17.3	11.1	-	56.8	3.7	1.2
	女性:60代	77	19.5	3.9	23.4	14.3	-	55.8	1.3	2.6
	女性:70代以上	43	18.6	-	41.9	16.3	4.7	27.9	4.7	16.3
	男性:20代以下	20	-	-	10.0	-	-	90.0	-	-
	男性:30代	43	16.3	9.3	11.6	14.0	-	65.1	-	-
	男性:40代	35	20.0	8.6	11.4	8.6	-	57.1	-	2.9
	男性:50代	42	19.0	4.8	9.5	7.1	-	66.7	-	-
	男性:60代	63	9.5	1.6	12.7	4.8	3.2	71.4	3.2	-
男性:70代以上	42	21.4	-	16.7	9.5	4.8	64.3	-	2.4	
無回答		13	15.4	-	15.4	-	-	61.5	-	7.7

2. 役職、公職への就任や立候補への依頼への対応

問 12. 仮にあなたが、次の（ア）から（キ）のような役職、公職への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。（〇はそれぞれ1つだけ）

図表 6-3 役職、公職への就任や立候補への依頼への対応 [全体、性別]



様々な役職や公職に就任や立候補を依頼された場合の対応として、「引き受ける」と「なるべく引き受ける」を合わせた『引き受ける』の割合が最も高いのは「職場の管理職」で35.3%、次いで「PTA役員・子ども会育成会役員」が21.1%、「自治会役員」が18.9%の順となっている。一方で、「自治会長」や「県・市議会議員」は『引き受ける』が1割に満たない。

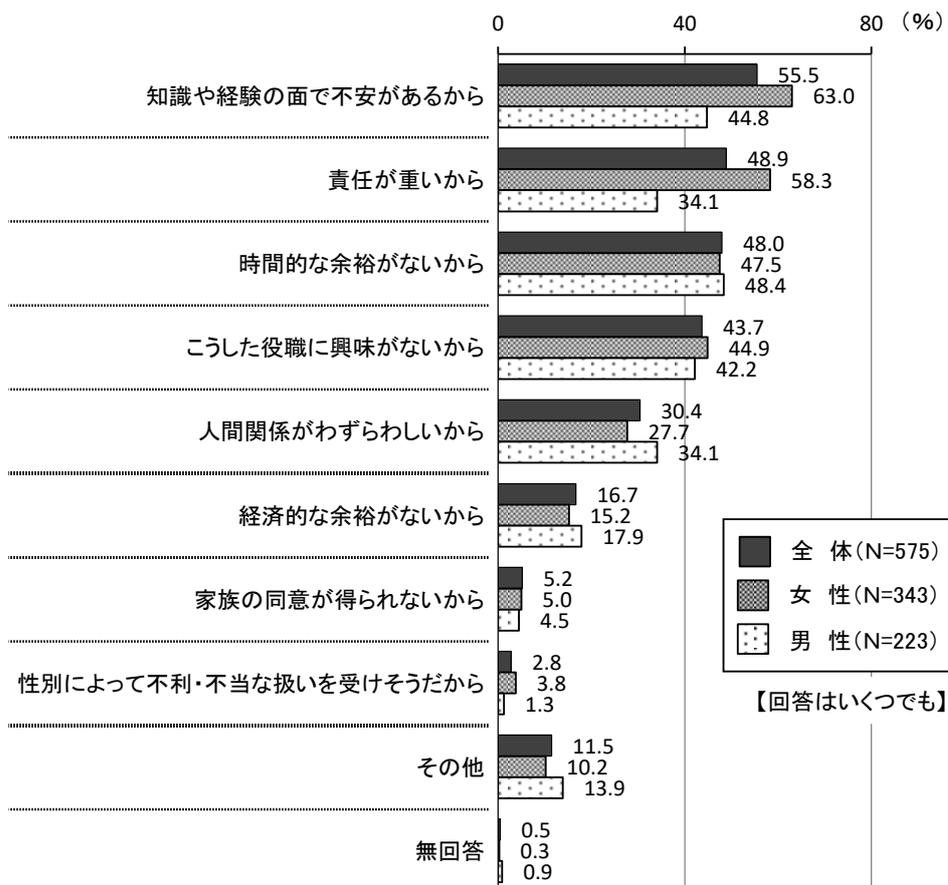
性別にみると、『引き受ける』の割合が男性の方が高い項目が多く、特に「職場の管理職」は男性が49.4%に対して女性は25.5%となっており、23.9ポイントの差がある。「県や市の審議会や委員会のメンバー」（女性10.6%、男性25.3%）や「県・市議会議員」（同4.6%、14.7%）も男性の方が10ポイント以上高い。一方で「PTA役員・子ども会育成会役員」（同24.5%、16.3%）は女性の方が8.2ポイント高くなっている。

3. 役職、公職への就任や立候補への依頼を断る理由

【問 12 で (ア) から (キ) のうち、ひとつでも「3. なるべく断る」、「4. 絶対に断る」と答えた方におたずねします。】

付問 12-1. 引き受けないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

図表 6-4 役職、公職への就任や立候補への依頼を断る理由 [全体、性別]



役職や公職への就任や立候補を『断る』理由としては、「知識や経験の面で不安があるから」(55.5%)と「責任が重いから」(48.9%)、「時間的な余裕がないから」(48.0%)が、いずれも5割前後で高くなっている。

性別にみると、「知識や経験の面で不安があるから」(女性 63.0%、男性 44.8%)と「責任が重いから」(同 58.3%、34.1%)はともに女性の方が20ポイント程度高くなっている。男性では「人間関係がわずらわしいから」(34.1%)が女性(27.7%)よりも6.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男女ともに40代以下で「時間的な余裕がないから」が5割以上の高い割合となっている。女性の20代以下では「こうした役職に興味がないから」が58.8%と約6割を占めている。

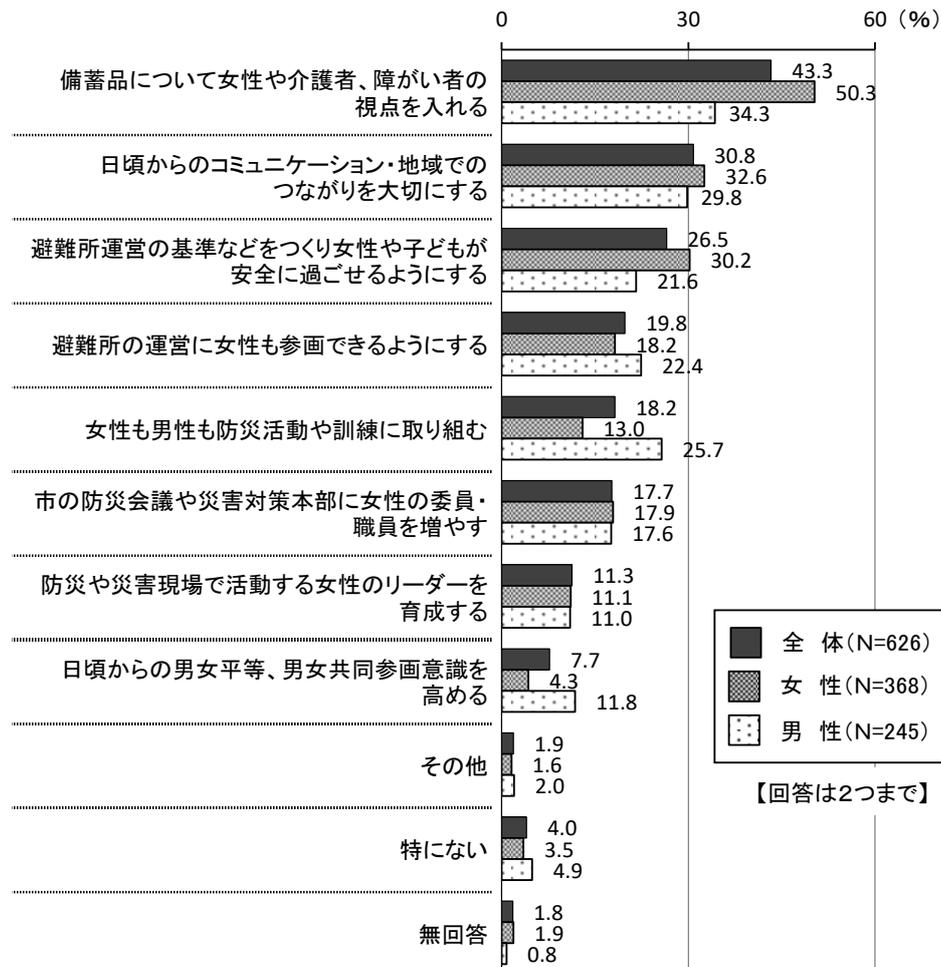
図表6-5 役職、公職への就任や立候補への依頼を断る理由 [全体、年齢別]

												(%)
		標本数	責任が重いから	不知安識がやある経験から面	い時間から余裕がな	い経済から余裕がな	れ家族の同意が得ら	わ人間関係がわらずら	受利性・別に不当な扱を	味こうがなした役職に興	その他	無回答
全体		575 100.0	281 48.9	319 55.5	276 48.0	96 16.7	30 5.2	175 30.4	16 2.8	251 43.7	66 11.5	3 0.5
年齢別	女性:20代以下	51	49.0	56.9	56.9	13.7	5.9	35.3	5.9	58.8	5.9	-
	女性:30代	55	63.6	69.1	63.6	23.6	3.6	32.7	5.5	50.9	3.6	-
	女性:40代	51	56.9	68.6	58.8	9.8	5.9	21.6	5.9	39.2	11.8	-
	女性:50代	77	64.9	66.2	45.5	14.3	1.3	29.9	2.6	50.6	2.6	-
	女性:60代	72	59.7	58.3	36.1	15.3	6.9	25.0	1.4	37.5	18.1	-
	女性:70代以上	37	48.6	56.8	21.6	13.5	8.1	18.9	2.7	27.0	24.3	2.7
	男性:20代以下	18	44.4	50.0	55.6	11.1	5.6	33.3	-	44.4	5.6	-
	男性:30代	38	34.2	50.0	68.4	28.9	-	26.3	7.9	39.5	13.2	-
	男性:40代	34	32.4	41.2	73.5	35.3	5.9	26.5	-	29.4	14.7	-
	男性:50代	39	38.5	53.8	48.7	7.7	5.1	28.2	-	43.6	10.3	-
	男性:60代	57	38.6	45.6	29.8	14.0	1.8	45.6	-	54.4	8.8	1.8
	男性:70代以上	37	18.9	29.7	29.7	10.8	10.8	37.8	-	35.1	29.7	2.7
無回答		9	55.6	33.3	55.6	44.4	33.3	44.4	-	33.3	-	-

4. 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点

問 13. 平成 28 年の熊本地震や、平成 29 年の九州北部豪雨など、九州でも多くの自然災害が発生していますが、日頃の防災や震災対応に男女共同参画の視点が活かされていないことが課題になっています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

図表 6-6 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 [全体、性別]



災害への備えとして男女共同参画の視点で必要だと思うことをたずねたところ、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が 43.3% で最も高く、次いで「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」が 30.8%、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」が 26.5% となっている。

性別にみると、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」は女性が 50.3% と高いのに対して男性は 34.3% となっており 16 ポイントの差がある。「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」は男性 (25.7%) の方が 12.7 ポイント高くなっているなど、男女で差がある項目が多くみられ、災害への備えとして必要なことの認識に男女でやや隔たりがある。

年齢別にみると、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」は40代以下の女性で6割前後と高い割合になっており、介護や育児を担っている人が多い世代から特に重視されている。

図表6-7 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 [全体、年齢別]

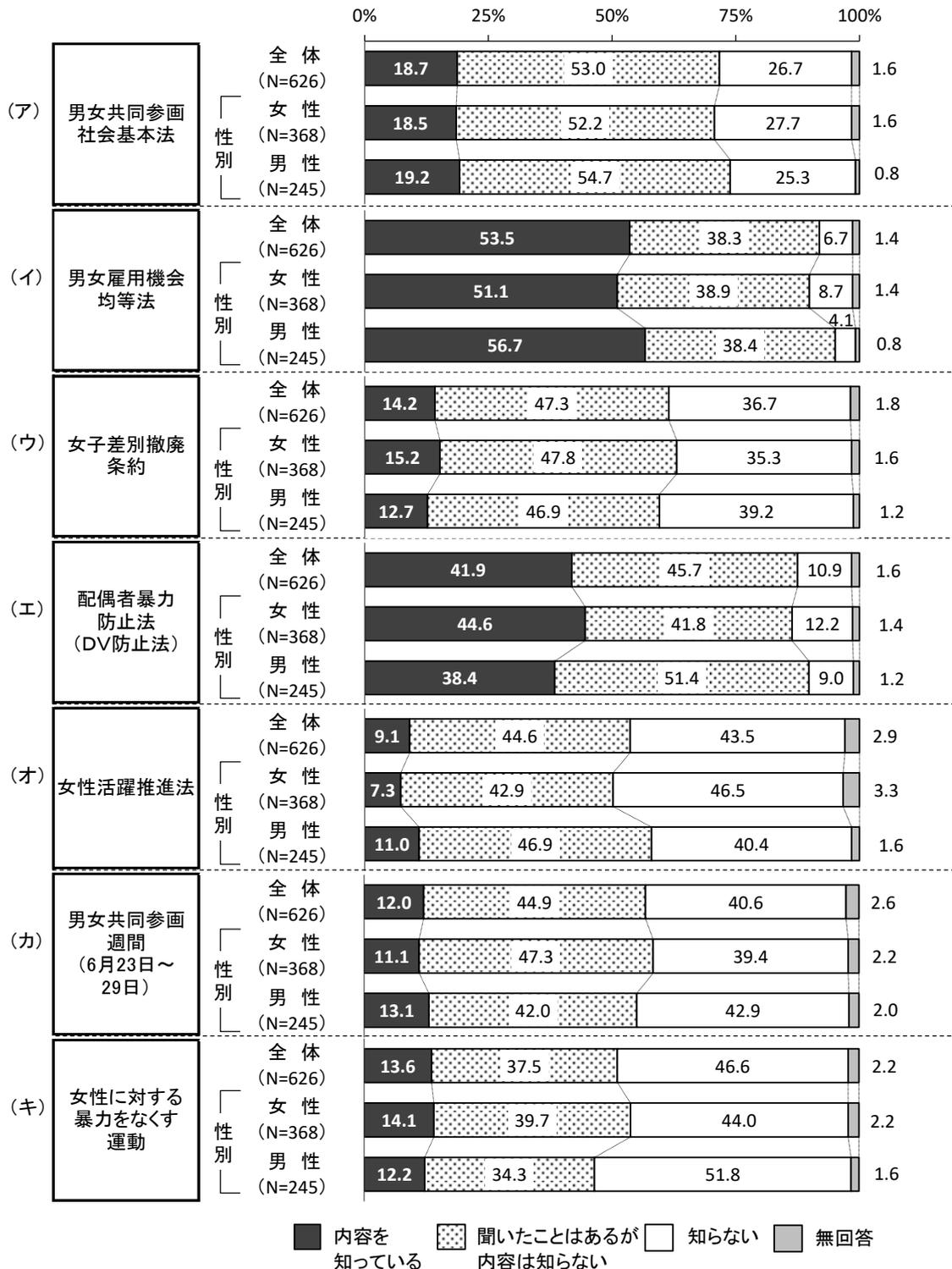
		標本数	を本市の防災会議や災害委員・職対員策	画避難所(避難所)の運営に女性も参加	訓女性にも取り組む	入者蓄る、障がい者女性の視点を介	全つ避に過り女運営の基など安	する女災の災害現場で活動成	りシヨ頃からの地域でのユニケ	女日共同参画の男女平等、男	その他	特にな	無回答
			増やす	できるよう	にも取組む	れ者蓄る、障がい者女性の視点を介	全つ避に過り女運営の基など安	する女災の災害現場で活動成	りシヨ頃からの地域でのユニケ	女日共同参画の男女平等、男	その他	特にな	無回答
全体		626 100.0	111 17.7	124 19.8	114 18.2	271 43.3	166 26.5	71 11.3	193 30.8	48 7.7	12 1.9	25 4.0	11 1.8
年齢別	女性:20代以下	54	24.1	13.0	18.5	55.6	29.6	13.0	22.2	5.6	-	1.9	-
	女性:30代	60	18.3	20.0	8.3	65.0	23.3	11.7	25.0	1.7	3.3	5.0	1.7
	女性:40代	53	22.6	22.6	7.5	56.6	43.4	7.5	17.0	3.8	1.9	1.9	1.9
	女性:50代	81	16.0	17.3	8.6	49.4	32.1	16.0	38.3	4.9	2.5	2.5	-
	女性:60代	77	13.0	20.8	19.5	40.3	28.6	9.1	41.6	6.5	1.3	6.5	1.3
	女性:70代以上	43	16.3	14.0	16.3	34.9	23.3	7.0	48.8	2.3	-	2.3	9.3
	男性:20代以下	20	20.0	20.0	35.0	30.0	30.0	10.0	20.0	20.0	5.0	-	-
	男性:30代	43	18.6	14.0	25.6	39.5	23.3	14.0	25.6	16.3	4.7	4.7	-
	男性:40代	35	17.1	22.9	25.7	34.3	25.7	5.7	34.3	8.6	2.9	5.7	-
	男性:50代	42	26.2	23.8	26.2	45.2	26.2	9.5	16.7	4.8	-	2.4	-
男性:60代	63	17.5	30.2	22.2	33.3	15.9	15.9	33.3	11.1	1.6	4.8	-	
男性:70代以上	42	7.1	19.0	26.2	21.4	16.7	7.1	42.9	14.3	-	9.5	4.8	
無回答		13	15.4	15.4	23.1	15.4	15.4	23.1	-	23.1	7.7	-	15.4

第7章 男女共同参画に関する施策について

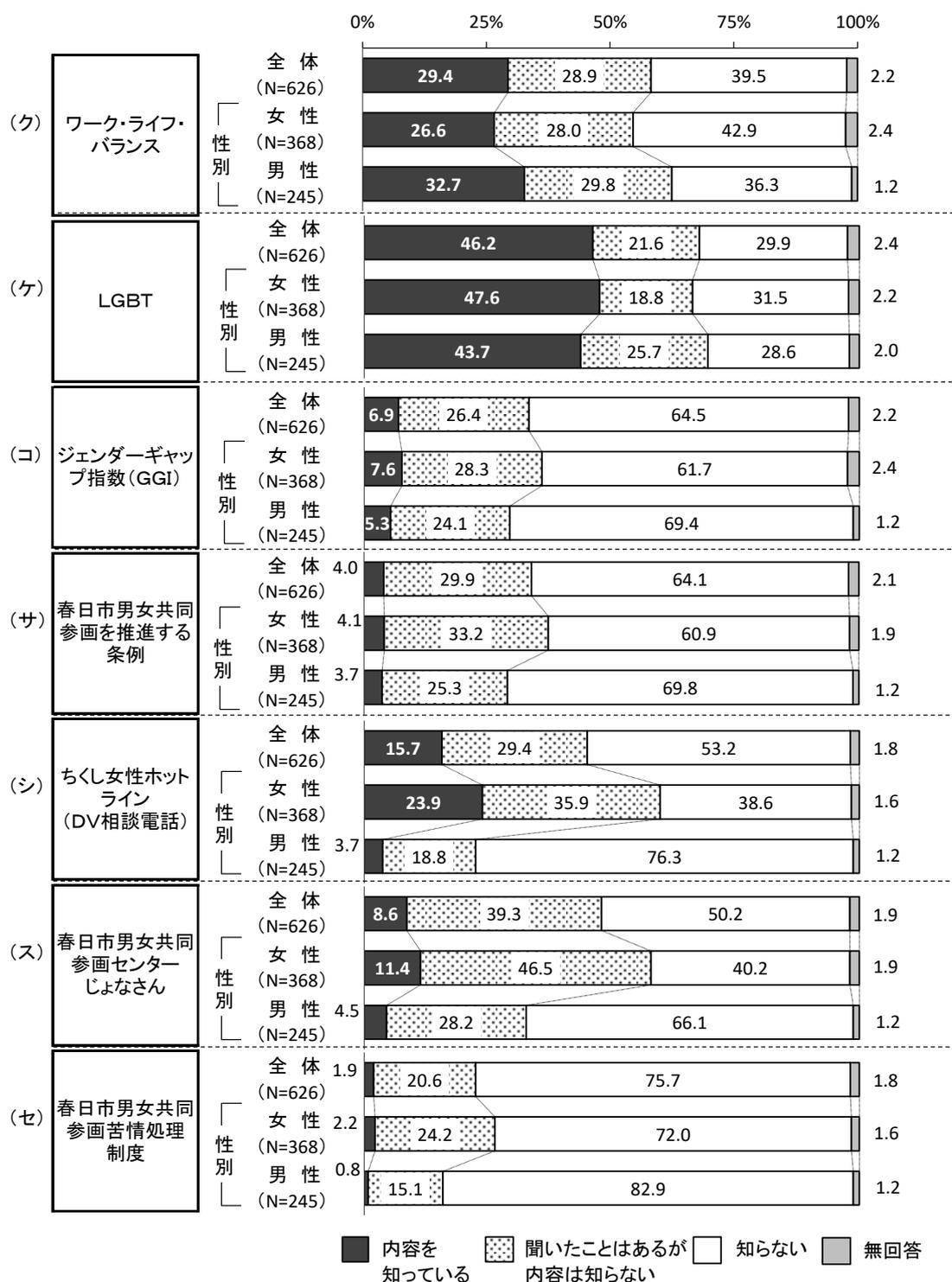
1. 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知

問 14. あなたは、次にあげる（ア）から（セ）の言葉について、どの程度知っていますか。（○はそれぞれ1つだけ）

図表 7-1 (1) 男女共同参画に関する法令・事業、制度、言葉の認知 [全体、性別]



図表7-1 (2) 男女共同参画に関する法令・事業、制度、言葉の認知 [全体、性別]



男女共同参画に関する法令や制度、用語についてたずねたところ、認知度が比較的高いのは「男女雇用機会均等法」(53.5%)、「LGBT」(46.2%)、「配偶者暴力防止法(DV防止法)」(41.9%)の3つで、4割以上の方が「内容を知っている」としている。次いで認知度が高いのが「ワーク・ライフ・バランス」(29.4%)で3割の方が「内容を知っている」としている。その他の項目に関しては、内容まで知っている人は2割以下であり、春日市の施策である「春日市男女共同参画を推進する条例」(4.0%)や「春日市男女共同参画センターじよなさん」(8.6%)、「春日市男女共同参画苦情処理制度」(1.9%)を内容まで知っている人は1割に満たない。

性別にみると、「ちくし女性ホットライン（DV相談電話）」は男女の認知度の差が大きく、女性では23.9%が「内容を知っている」としている。男性の認知度が高いのは「ワーク・ライフ・バランス」で、男性の32.7%が「内容を知っている」としており女性より6.1ポイント高い。

年齢別にみると、「男女共同参画社会基本法」や「LGBT」など、20代以下の若い年齢の認知度が高い項目が多くなっており、男女共同参画が教育にも取り入れられるようになってきていることの成果と考えられる。一方で、「春日市男女共同参画を推進する条例」や「春日市男女共同参画センターじよなさん」といった市の施策に関する項目は若い年齢の認知度が低くなっているが、これは広報をみている人が少ないといった理由が考えられる。

図表7-2（1）男女共同参画に関する法令・事業、制度、言葉の認知〔全体、年齢別〕

(%)

		標本数	(ア)男女共同参画社会基本法					(イ)男女雇用機会均等法					(ウ)女子差別撤廃条約				
			い る 内 容 を 知 っ て	知 ら な い 内 容 は	あ ら な い 内 容 は	聞 か な い 内 容 は	知 ら な い	無 回 答	い る 内 容 を 知 っ て	知 ら な い 内 容 は	あ ら な い 内 容 は	聞 か な い 内 容 は	知 ら な い	無 回 答	い る 内 容 を 知 っ て	知 ら な い 内 容 は	あ ら な い 内 容 は
全 体		626 100.0	117 18.7	332 53.0	167 26.7	10 1.6	335 53.5	240 38.3	42 6.7	9 1.4	89 14.2	296 47.3	230 36.7	11 1.8			
年 齢 別	女性:20代以下	54	50.0	42.6	7.4	-	61.1	31.5	7.4	-	35.2	40.7	24.1	-			
	女性:30代	60	11.7	53.3	35.0	-	60.0	36.7	3.3	-	18.3	53.3	28.3	-			
	女性:40代	53	9.4	41.5	47.2	1.9	60.4	26.4	11.3	1.9	9.4	35.8	52.8	1.9			
	女性:50代	81	13.6	59.3	27.2	-	49.4	42.0	8.6	-	7.4	53.1	39.5	-			
	女性:60代	77	14.3	61.0	24.7	-	40.3	54.5	5.2	-	13.0	55.8	31.2	-			
	女性:70代以上	43	16.3	46.5	25.6	11.6	37.2	32.6	20.9	9.3	11.6	39.5	37.2	11.6			
	男性:20代以下	20	35.0	55.0	10.0	-	65.0	30.0	5.0	-	15.0	55.0	30.0	-			
	男性:30代	43	23.3	53.5	23.3	-	62.8	37.2	-	-	25.6	39.5	34.9	-			
	男性:40代	35	22.9	40.0	37.1	-	54.3	34.3	11.4	-	8.6	45.7	45.7	-			
	男性:50代	42	4.8	66.7	26.2	2.4	57.1	38.1	2.4	2.4	14.3	45.2	38.1	2.4			
	男性:60代	63	23.8	49.2	27.0	-	60.3	38.1	1.6	-	7.9	50.8	39.7	1.6			
	男性:70代以上	42	11.9	64.3	21.4	2.4	42.9	47.6	7.1	2.4	7.1	47.6	42.9	2.4			
	無回答	13	15.4	46.2	23.1	15.4	61.5	23.1	-	15.4	15.4	38.5	30.8	15.4			
			(エ)配偶者暴力防止法 (DV防止法)					(オ)女性活躍推進法					(カ)男女共同参画週間 (6月23日~29日)				
			い る 内 容 を 知 っ て	知 ら な い 内 容 は	あ ら な い 内 容 は	聞 か な い 内 容 は	知 ら な い	無 回 答	い る 内 容 を 知 っ て	知 ら な い 内 容 は	あ ら な い 内 容 は	聞 か な い 内 容 は	知 ら な い	無 回 答			
全 体		626 100.0	262 41.9	286 45.7	68 10.9	10 1.6	57 9.1	279 44.6	272 43.5	18 2.9	75 12.0	281 44.9	254 40.6	16 2.6			
年 齢 別	女性:20代以下	54	37.0	40.7	22.2	-	14.8	31.5	53.7	-	16.7	44.4	38.9	-			
	女性:30代	60	43.3	51.7	5.0	-	5.0	51.7	43.3	-	11.7	55.0	33.3	-			
	女性:40代	53	37.7	52.8	7.5	1.9	7.5	37.7	52.8	1.9	11.3	47.2	39.6	1.9			
	女性:50代	81	46.9	44.4	8.6	-	6.2	46.9	45.7	1.2	9.9	53.1	37.0	-			
	女性:60代	77	55.8	31.2	13.0	-	5.2	42.9	49.4	2.6	7.8	40.3	49.4	2.6			
	女性:70代以上	43	39.5	30.2	20.9	9.3	7.0	44.2	30.2	18.6	11.6	41.9	34.9	11.6			
	男性:20代以下	20	35.0	50.0	15.0	-	10.0	55.0	30.0	5.0	20.0	50.0	30.0	-			
	男性:30代	43	44.2	46.5	9.3	-	16.3	51.2	32.6	-	11.6	46.5	41.9	-			
	男性:40代	35	34.3	54.3	11.4	-	2.9	45.7	51.4	-	11.4	45.7	40.0	2.9			
	男性:50代	42	38.1	57.1	2.4	2.4	9.5	42.9	45.2	2.4	16.7	33.3	47.6	2.4			
	男性:60代	63	38.1	50.8	9.5	1.6	12.7	47.6	38.1	1.6	15.9	34.9	46.0	3.2			
	男性:70代以上	42	38.1	50.0	9.5	2.4	11.9	42.9	42.9	2.4	4.8	50.0	42.9	2.4			
	無回答	13	30.8	46.2	7.7	15.4	23.1	46.2	15.4	15.4	15.4	30.8	30.8	23.1			

Ⅱ 調査結果 第7章 男女共同参画に関する施策について

図表7-2 (2) 男女共同参画に関する法令・事業、制度、言葉の認知〔全体、年齢別〕

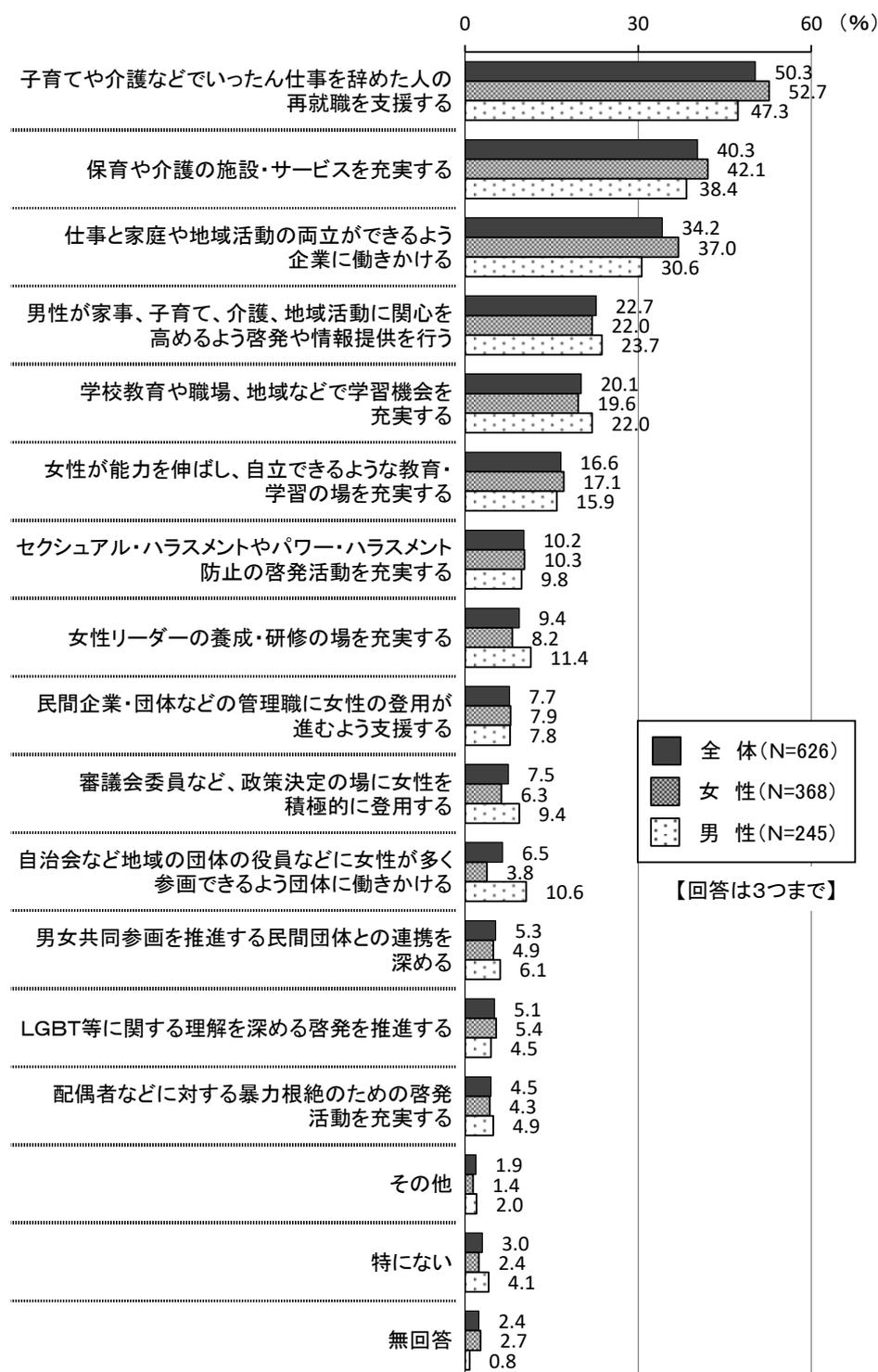
(%)

		標本数	(キ)女性に対する暴力をなくす運動					(ク)ワーク・ライフ・バランス					(ケ)LGBT							
			内容を 知って いる	知ら ない	あ ら ない 内容 は	聞 いた こと は	知 ら ない	無 回 答	内容を 知って いる	知ら ない	あ ら ない 内容 は	聞 いた こと は	知 ら ない	無 回 答	内容を 知って いる	知ら ない	あ ら ない 内容 は	聞 いた こと は	知 ら ない	無 回 答
全体		626 100.0	85 13.6	235 37.5	292 46.6	14 2.2	184 29.4	181 28.9	247 39.5	14 2.2	289 46.2	135 21.6	187 29.9	15 2.4						
年齢別	女性:20代以下	54	16.7	37.0	46.3	-	48.1	25.9	25.9	-	75.9	7.4	16.7	-						
	女性:30代	60	11.7	36.7	51.7	-	35.0	20.0	45.0	-	65.0	10.0	25.0	-						
	女性:40代	53	13.2	32.1	52.8	1.9	32.1	22.6	43.4	1.9	50.9	17.0	30.2	1.9						
	女性:50代	81	12.3	44.4	42.0	1.2	23.5	35.8	40.7	-	40.7	28.4	30.9	-						
	女性:60代	77	14.3	45.5	39.0	1.3	13.0	32.5	53.2	1.3	28.6	29.9	39.0	2.6						
	女性:70代以上	43	18.6	37.2	32.6	11.6	11.6	25.6	46.5	16.3	30.2	9.3	48.8	11.6						
	男性:20代以下	20	10.0	30.0	55.0	5.0	50.0	30.0	20.0	-	50.0	20.0	30.0	-						
	男性:30代	43	16.3	34.9	48.8	-	51.2	25.6	23.3	-	53.5	27.9	18.6	-						
	男性:40代	35	5.7	48.6	45.7	-	45.7	28.6	25.7	-	57.1	22.9	20.0	-						
	男性:50代	42	11.9	26.2	59.5	2.4	38.1	19.0	40.5	2.4	40.5	31.0	26.2	2.4						
男性:60代	63	12.7	30.2	55.6	1.6	19.0	36.5	42.9	1.6	44.4	22.2	31.7	1.6							
男性:70代以上	42	14.3	38.1	45.2	2.4	9.5	35.7	52.4	2.4	21.4	28.6	42.9	7.1							
無回答	13	23.1	38.5	23.1	15.4	46.2	38.5	-	15.4	53.8	23.1	7.7	15.4							
			(コ)ジェンダーギャップ指数(GGI)					(サ)春日市男女共同参画を推進する条例					(シ)ちくし女性ホットライン(DV相談電話)							
			内容を 知って いる	知ら ない	あ ら ない 内容 は	聞 いた こと は	知 ら ない	無 回 答	内容を 知って いる	知ら ない	あ ら ない 内容 は	聞 いた こと は	知 ら ない	無 回 答	内容を 知って いる	知ら ない	あ ら ない 内容 は	聞 いた こと は	知 ら ない	無 回 答
全体		626 100.0	43 6.9	165 26.4	404 64.5	14 2.2	25 4.0	187 29.9	401 64.1	13 2.1	98 15.7	184 29.4	333 53.2	11 1.8						
年齢別	女性:20代以下	54	22.2	27.8	50.0	-	5.6	16.7	77.8	-	16.7	27.8	55.6	-						
	女性:30代	60	5.0	25.0	70.0	-	1.7	21.7	76.7	-	33.3	30.0	36.7	-						
	女性:40代	53	1.9	34.0	62.3	1.9	1.9	35.8	60.4	1.9	35.8	39.6	22.6	1.9						
	女性:50代	81	8.6	34.6	56.8	-	6.2	43.2	50.6	-	21.0	46.9	30.9	1.2						
	女性:60代	77	5.2	24.7	67.5	2.6	2.6	33.8	62.3	1.3	16.9	39.0	42.9	1.3						
	女性:70代以上	43	2.3	20.9	62.8	14.0	7.0	46.5	34.9	11.6	23.3	23.3	46.5	7.0						
	男性:20代以下	20	10.0	30.0	60.0	-	-	25.0	75.0	-	-	40.0	60.0	-						
	男性:30代	43	7.0	30.2	62.8	-	2.3	20.9	76.7	-	4.7	18.6	76.7	-						
	男性:40代	35	5.7	22.9	71.4	-	2.9	20.0	77.1	-	2.9	17.1	80.0	-						
	男性:50代	42	2.4	26.2	69.0	2.4	4.8	19.0	73.8	2.4	2.4	16.7	78.6	2.4						
男性:60代	63	6.3	22.2	69.8	1.6	1.6	23.8	73.0	1.6	4.8	14.3	79.4	1.6							
男性:70代以上	42	2.4	16.7	78.6	2.4	9.5	42.9	45.2	2.4	4.8	19.0	73.8	2.4							
無回答	13	15.4	15.4	53.8	15.4	7.7	23.1	46.2	23.1	7.7	46.2	30.8	15.4							
			(ス)春日市男女共同参画センターじよなさん					(セ)春日市男女共同参画苦情処理制度												
			内容を 知って いる	内 容 は 知 ら ない こと は あ る が	知 ら ない	無 回 答	内容を 知って いる	内 容 は 知 ら ない こと は あ る が	知 ら ない	無 回 答	内容を 知って いる	内 容 は 知 ら ない こと は あ る が	知 ら ない	無 回 答						
全体		626 100.0	54 8.6	246 39.3	314 50.2	12 1.9	12 1.9	129 20.6	474 75.7	11 1.8										
年齢別	女性:20代以下	54	9.3	31.5	59.3	-	-	14.8	85.2	-										
	女性:30代	60	10.0	43.3	46.7	-	-	18.3	81.7	-										
	女性:40代	53	11.3	62.3	24.5	1.9	-	28.3	69.8	1.9										
	女性:50代	81	12.3	56.8	29.6	1.2	3.7	21.0	75.3	-										
	女性:60代	77	9.1	48.1	42.9	-	3.9	31.2	64.9	-										
	女性:70代以上	43	18.6	27.9	41.9	11.6	4.7	32.6	51.2	11.6										
	男性:20代以下	20	-	10.0	90.0	-	-	15.0	85.0	-										
	男性:30代	43	7.0	25.6	67.4	-	-	11.6	88.4	-										
	男性:40代	35	2.9	31.4	65.7	-	-	5.7	94.3	-										
	男性:50代	42	4.8	23.8	69.0	2.4	-	14.3	83.3	2.4										
男性:60代	63	3.2	30.2	65.1	1.6	1.6	15.9	81.0	1.6											
男性:70代以上	42	7.1	38.1	52.4	2.4	2.4	26.2	69.0	2.4											
無回答	13	7.7	46.2	30.8	15.4	15.4	23.1	46.2	15.4											

2. 男女共同参画社会を実現するために力をいれるべきところ

問 15. 春日市では、女性も男性も共にいきいきと活躍し、誰もが輝く活力ある社会を目指しています。この実現のために、今後、特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

図表 7-3 男女共同参画社会を実現するために力をいれるべきところ [全体、性別]



男女共同参画社会を実現するために力を入れるべきと思うことをたずねたところ、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(50.3%)を約5割の人があげている。次いで「保育や介護の施設・サービスを充実する」(40.3%)が約4割となっており、育児と介護に関連する施策の充実を望んでいる人が多いことを示す結果となっている。「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」(34.2%)や「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う」(22.7%)など、ワーク・ライフ・バランスにかかわる項目も比較的高い割合となっている。

性別にみると、全体的に男女の差はそれほど大きくはないが、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(女性52.7%、男性47.3%)や「保育や介護の施設・サービスを充実する」(同42.1%、38.4%)、「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」(同37.0%、30.6)は女性の方が高い割合となっており、育児や介護に困難を感じている女性が多いことが伺える。

調査結果のまとめ

はじめに

本調査は、「第3次春日市男女共同参画プラン」に基づき実施されてきた春日市の取り組みについてその成果を検証し、また現状を把握することで次のプランの策定に反映させることを目的として実施した。春日市においては、これまでも同様の調査を継続しており、直近では平成26年に実施している。よって、前回の調査と比較することで、この5年間の市民の意識の変化を把握し、さらに国や福岡県による同様の調査との比較も行うことで、春日市の現状を多角的に検証することとした。

ここでは、総括として各章の結果の要点を整理し、男女共同参画社会の実現に向けての今後の課題を提案する。

第1章 男女平等に関する意識について

「男は仕事、女は家庭」という考え方、いわゆる固定的性別役割分担意識に対して6割強が『同感しない』と回答しており、固定的・因習的な考え方にとらわれない人の方が多くなっている。この設問は、男女共同参画の進捗状況を検証するための主要な指標でもあり、国や県の調査でも同様の質問が行われているが、それらの結果と比較した場合に、本調査の方が『同感しない』割合は高くなっている。従って、全国、あるいは県全体と比較した場合に、春日市の現状は比較的良好と言える。ただし、年代別にみると、年齢が高い層においては『同感する』人が4割前後と少なくない。今後、男女が平等・公平な意識をさらに浸透させていくためには、高齢層に向けた効果的な啓発を模索し、世代間ギャップを解消していくことが必要である。

様々な分野における平等感をたずねた設問では、「学校教育の場」など「平等である」と感じている人が比較的多い分野もあるものの、「社会全体」では約7割の人が『男性優遇』と感じているように、全体として男性優遇の状況にあることを示す結果となっている。特に、「社会通念・慣習・しきたりなど」や「政治の場」、「職場」、「家庭生活」の順で『男性優遇』とする割合が高くなっている。これらの分野において、具体的にどのような不平等が生じているのか把握した上で、対策を講じていく必要があるだろう。また、「家庭生活」をはじめすべての分野で女性よりも男性の方が「平等である」とする割合が高くなっている。女性が不利に扱われている、あるいは女性の方が多くの負担を強いられているといった現状となっている事柄に関して、そのことを認識していない男性が多いことがうかがえる結果であり、男性に対する一層の啓発が必要と考えられる。

第2章 子どもの育て方・教育について

子どもの育て方について、固定的な性別役割分担意識にとらわれていないかを検証するために、女の子も経済的自立ができるように、男の子も生活的自立ができるようにという考え方への賛否を問うた。その結果、「性別に関わらず、同等に仕事を持ち、経済的に自立できるよう育てる」と「性別に関わらず、炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけるよう育てる」はともに9割弱の人が『賛成』しており、男女ともに経済的と生活的、両面での自立を促すべきと考えている人が多いことが示された。しかしながら、「幼い時から男女の区別をしないで同じよう

に育てる」という考え方については、『賛成』が7割弱にとどまり、さらに「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」という考え方に約5割が『賛成』している。こうした結果から、育児や教育において女らしさ・男らしさを意識するべきという考え方も、未だ払拭されていないといわざるを得ない。このことにより、子どもたちの個性が否定されたり、進路が制約されたりすることがないように、取り組みを強化する必要がある。学校教育の場で力を入れるべきだと思うことをたずねた設問でも、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が約7割で最も多い回答となっている。これは、学校教育の場において自分自身あるいは自分の子どもの個性や人権が尊重されなかった経験を有する人が多いことを反映していると言えるだろう。教員向けの研修なども、今後の重点を置くべき課題と考えられる。

第3章 家庭生活について

家庭内での役割分担の現状をたずねた設問では、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」は約7割の家庭で男性が担っており、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」は約8割の家庭で女性が担っている。即ち、いまだ多くの家庭において、固定的な性別役割分担意識に沿った状況となっている。この現状に対して多くの女性が不満や不公平感を抱いていることが本調査の結果から伺える。例えば、パートナー（配偶者や恋人）に「もっとしてほしい」と思う事柄をたずねた設問では、女性の4割近くが「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」をあげている。また、第2章の男女の地位の平等感をたずねる設問では、女性の約6割が「家庭生活」に対して『男性優遇』と回答している。平成28年（2016年）の社会生活基本調査では、女性は家事や育児、介護といった家事関連時間が男性よりも長く、余暇活動や睡眠などの時間が短いという結果もあり、この課題に関しては、男性に対する啓発を強化する必要がある。

前回調査との比較という観点では、「育児、子どものしつけをする」は「自分・パートナーが同程度」の割合が増加しており、男性の参画を踏まえた子育て支援策が必要である。また家事や介護、重要な意思決定などの項目でも「自分・パートナー同程度」の割合が増加している。これは、これまでの春日市の取り組みの成果として評価できる変化であり、今後もこの傾向が継続することが望まれる。

第4章 職業や仕事について

女性が職業をもつことについては、「ずっと職業をもっている方がよい」という就労継続を望ましいとする人と、「子どもができれば職業を中断し、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい」という、いわゆる「M字型就労」を望ましいとする人に二分されるという結果になっている。一方で、「結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい」など、専業主婦を望ましいと考える人は僅かである。「M字型就労」の支持は、固定的性別役割分担意識に『同感する』人で高い。「男は仕事、女は家庭」と考える人は、子どもが小さいうちは女性は子育てに専念したほうがよいという固定観念にとらわれていることがうかがえる。このような固定観念が女性の社会での活躍推進をけん制することについて理解が進むような啓発が必要である。

前回調査との比較でみた場合、この設問は特に5年間での市民の意識の変化が大きく、就労継続を望ましいとする人が2割近く増加しているが、これは国の動向が大きく影響していると考えられる。平成28年にいわゆる女性活躍推進法が施行されたことで、社会で活躍する女性がメデ

ィア等で紹介される機会が増加し、「女性の活躍」というフレーズも定着した。こうしたことが、市民の意識に変化をもたらしたと考えられるが、一過性の現象に終わらぬように継続的な取り組みが望まれる。

女性が職業を継続しない方がよいと考える人に、その理由をたずねた設問では、「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」という回答が多くなっている。従って、「M字型就労」を望ましいと回答した人の中には、子育ては女性という固定観念にとらわれているわけではなく、現実的な困難によって就労継続を諦めるしかない、という考えで回答した人もいることを意味している。制度の不備によりどのような困難が生じているのか精査し、対策を進める必要がある。

第5章 パートナー（配偶者や恋人）からの暴力について

様々な暴力行為について、配偶者や恋人の間で行われた場合に暴力だと思うかどうかたずねた設問では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が、身体的暴力に該当する項目では比較的高いものの、束縛やネグレクトなど精神的暴力に該当する項目や経済的暴力に該当する項目では7割前後と低くなっている。DV・デートDVに関して、十分な認識が浸透しているとは言えない結果である。

実際の被害経験については、この3年間に女性の13.3%、男性の6.9%が何らかの暴力を受けている。年代別にみると、この問題が幅広い年代で生じていることを示す結果となっている。デートDVについては、中高の学校教育の中で予防啓発が行われることも多くなっているが、中高年層に対してどのように啓発を行うかが今後の課題となるだろう。

暴力被害を受けた人のうち、約6割はどこにも相談などをしていないと回答している。その理由として、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていくことができると思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから」などがあげられている。こうした理由を踏まえれば、相談窓口の存在や、相談することの意義について一層の周知をすることで、DV被害者が問題を解決しやすくなる可能性がある。

第6章 地域活動について

現在参加している地域活動については、「自治会、子ども会育成会、シニアクラブでの活動」や「趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動」が比較的多くなっているが、約6割の人は「特に参加していない」となっている。どの活動においても女性の方が高い割合となっているが、この結果からは、男女それぞれが抱える課題が垣間見える。女性においては、家庭内の役割の負担が大きい現状に加えて、地域活動がさらなる負担となっている可能性がある。男性の場合は、単身世帯が増加している現状の中で、地域活動への不参加が孤立状態になるリスクをもたらす。地域活動が男女いずれにとっても有意義なものとなるよう、市民のニーズを汲み取りながら積極的な働きかけが望まれる。

近年では、防災に男女共同参画の視点が必要であることが指摘されているが、市民の考えとして、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」に次いで「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」をあげる人が多くなっている。防災や防犯といっ

た観点からも、地域活動を通じて繋がりを形成することを促す取り組みが必要とされている。

役職や公職に就任や立候補を依頼された場合の対応として『引き受ける』とする割合は、多くの項目で男性の方が高くなっている。女性が『断る』理由としてあげているのは、「知識や経験の面で不安があるから」や「責任が重いから」が多くなっている。女性の役職者を増やし、女性の視点や意見が男性と同等に反映される社会にするためには、教育の場において男性と同等にリーダーを経験する機会を得られるようにする、職場での昇進や登用において性別による差別をなくす、など様々な働きかけを行い、女性が段階的に責任ある立場を経験できるような環境を整える必要がある。

第7章 男女共同参画に関する施策について

男女共同参画に関連する法令や制度、用語についての認知度を問う設問では、全体的に年代による差が大きいことが特徴的な結果となっている。「LGBT」や「ジェンダーギャップ指数」「男女共同参画社会基本法」など教育の場で扱われることが多くなっている用語や比較的新しい法令などは若い世代の認知度が高い。一方で、「春日市男女共同参画を推進する条例」や「春日市男女共同参画センターじょなさん」といった市の施策については、中高年層の方が認知度は高い。こうした結果は、年代により接するメディアが異なることに一因があると考えられる。従って、今後は、年代が高い層が目にすることが多い広報誌で、中高年層の認知度が低いトピックを積極的に扱い、一方で、若い世代で認知度が低いトピックについては、インターネット・SNSなどを活用した広報を検討するといったことが求められる。

最後に、市民が春日市に力を入れて取り組むよう望んでいることとしては「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」や「保育や介護の施設・サービスを充実する」「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」をあげている人が多くなっている。いずれの項目も、女性が仕事と家庭を両立できるよう社会環境を整備することを望む内容であり、これらの項目が上位にあげられていることは、取りも直さず仕事と家庭の両立に困難を感じている女性が多いことを表している。これらの事柄は、男女共同参画および女性の活躍推進において中心的な課題でもあり、すでに様々な取り組みが行われてはいるが、今なお残っている問題を精査し、困難に直面する人をなくす施策が求められている。

男女平等に関する意識について

問1. 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなたは、この考え方にどの程度同感しますか。
(○は1つだけ)

1. 同感する
2. ある程度同感する
3. あまり同感しない
4. 同感しない

問2. 次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
次の(ア)から(ク)のそれぞれについて、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。
(○はそれぞれ1つだけ)

※項目ごとに横に見てお答えください		男性の方が優遇 <small>ゆうぐう</small> されている	どちらかといえば男性の方が優遇 <small>ゆうぐう</small> されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇 <small>ゆうぐう</small> されている	女性の方が優遇 <small>ゆうぐう</small> されている	わからない
(ア) 家庭生活で	⇒	1	2	3	4	5	6
(イ) 職場で	⇒	1	2	3	4	5	6
(ウ) 学校教育の場で	⇒	1	2	3	4	5	6
(エ) 政治の場で	⇒	1	2	3	4	5	6
(オ) 法律や制度のうえで	⇒	1	2	3	4	5	6
(カ) 社会通念、慣習、しきたりなどで	⇒	1	2	3	4	5	6
(キ) 地域活動・社会活動の場で	⇒	1	2	3	4	5	6
(ク) 社会全体で	⇒	1	2	3	4	5	6

子どもの育て方・教育について

問3. あなたは、子どもの育て方についてどのような考え方をお持ちですか。次の（ア）から（エ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
（ア）性別に関わらず、同等に仕事を持ち、経済的に自立できるよう育てる ⇒	1	2	3	4	5
（イ）性別に関わらず、炊事・掃除・洗濯などの生活に必要な技術を身につけるよう育てる ⇒	1	2	3	4	5
（ウ）幼い時から男女の区別をしないで同じように育てる ⇒	1	2	3	4	5
（エ）女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる ⇒	1	2	3	4	5

問4. これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（○は3つまで）

1. 一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと
2. 発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること
3. 家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと
4. 生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を活かせるよう配慮すること
5. PTAなどと連携して、男女平等な教育の理解と協力を深めること
6. 働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと
7. 管理職（校長や教頭）に女性を増やすこと
8. 教職員に対する男女平等に関する研修を行うこと
9. その他（具体的に

家庭生活について

【現在パートナー（配偶者や恋人）と同居している方におたずねします。】

問5. あなたの家庭では、次のことを、主にどなたが行っていますか。次の（ア）から（コ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

また、パートナー（配偶者や恋人）がいない方、または、パートナー（配偶者や恋人）と同居していない方は、問6へ進んでください。

※項目ごとに横に見てお答えください	主に自分	主にパートナー	自分・パートナー 同程度	その他の家族	該当しない・ わからない
（ア）家計を支える（生活費を稼ぐ） ⇒	1	2	3	4	5
（イ）掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする ⇒	1	2	3	4	5
（ウ）日々の家計を管理をする ⇒	1	2	3	4	5
（エ）育児、子どものしつけをする ⇒	1	2	3	4	5
（オ）保育所・幼稚園・学校行事に参加する ⇒	1	2	3	4	5
（カ）親の世話（介護）をする ⇒	1	2	3	4	5
（キ）自治会などの地域活動を行う ⇒	1	2	3	4	5
（ク）子どもの教育方針や進学目標を決める ⇒	1	2	3	4	5
（ケ）高額の商品や土地、家屋の購入を決める ⇒	1	2	3	4	5
（コ）家庭の問題について最終的な決定をする ⇒	1	2	3	4	5



付問5-1. 上の（ア）から（コ）のうち、パートナー（配偶者や恋人）に「もっとしてほしい」と思う項目があれば、下の欄にご記入ください。（記入は3つまで）

--	--	--

職業や仕事について

問6. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えますか。(○は1つだけ)

1. ずっと職業をもっている方がよい
2. 結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい
3. 子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい
4. 子どもができたら職業を中断し、子どもの手がかからなくなって再びもつ方がよい
5. 女性は職業をもたない方がよい
6. その他（具体的に)

→【問6で「2」～「6」のいずれかに答えた方におたずねします。】

付問6-1. あなたが、そう思うのはどのような理由からですか。(○は2つまで)

1. 女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから
2. 女性は定年まで働き続けにくい雰囲気があるから
3. 女性の能力は正當に評価されないから
4. 女性が働く上で不利な慣習などが多いから
5. 育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから
6. 現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから
7. 保育や介護などの施設が整ってないから
8. その他（具体的に)

【問6で「1. ずっと職業をもっている方がよい」と答えた方におたずねします。】

付問6-2. ずっと職業をもっている場合、どのような働き方がよいと思いますか。(○は1つだけ)

1. 結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとフルタイム勤務がよい
2. 結婚するまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい
3. 子どもができるまではフルタイム勤務で、あとはパート等短時間勤務がよい
4. 結婚や子どもの有無にかかわらず、ずっとパート等短時間勤務がよい
5. その他（具体的に)

問7. 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）」の優先度についておたずねします。次の（ア）、（イ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見て お答えください	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先
（ア）あなたの希望 ⇒	1	2	3	4	5	6	7
（イ）あなたの現実（現状） ⇒	1	2	3	4	5	6	7

問8. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する
5. 社会の中で、男性による家事、子育て、介護についてもその評価を高める
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
7. 男性が家事、子育て、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
8. 国や地方自治体などの研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高める
9. 男性が子育てや介護を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめる
10. 家庭と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける
11. その他（具体的に _____）
12. 特に必要はない

パートナー（配偶者や恋人）からの暴力について

問9. あなたは、次にあげるようなことがパートナー（配偶者や恋人）間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。次の（ア）から（シ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください		どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない
（ア）平手で打つ	⇒	1	2	3
（イ）足でける	⇒	1	2	3
（ウ）身体を傷つける可能性のある物でなぐる	⇒	1	2	3
（エ）なぐるふりをして、おどす	⇒	1	2	3
（オ）刃物などを突きつけて、おどす	⇒	1	2	3
（カ）嫌がっているのに性的な行為を強要する	⇒	1	2	3
（キ）見たくないのに、アダルトビデオやアダルト雑誌を見せる	⇒	1	2	3
（ク）何を言っても長期間無視し続ける	⇒	1	2	3
（ケ）交友関係や電話を細かく監視する	⇒	1	2	3
（コ）「誰のおかげで生活できるんだ」「 ^{かいしょう} 甲斐性なし」などと言う	⇒	1	2	3
（サ）大声でどなる	⇒	1	2	3
（シ）必要な生活費を渡さない	⇒	1	2	3

問 10. この3年間くらいのうちに、あなたはパートナー（配偶者や恋人）から次のようなことをされたことがありますか。次の（ア）から（エ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください		1・2度あった	何度もあった	まったくない
(ア)	なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた ⇒	1	2	3
(イ)	人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた。あるいは、自分もしくは家族に危害が加えられる恐怖を感じるような脅迫を受けた ⇒	1	2	3
(ウ)	嫌がっているのに性的な行為を強要された ⇒	1	2	3
(エ)	必要な生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、借金をさせる、デート代を常に払わせるなどされた ⇒	1	2	3

↓
【問10で（ア）から（エ）のうち、ひとつでも「1・2度あった」「何度もあった」と答えた方におたずねします。】

付問10-1. そのような行為を受けて、その後どのように対応しましたか。（○はいくつでも）

<p>1. 身内や友人・知人に相談した</p> <p>2. 相談窓口（来所・電話）に相談した</p> <p>3. 身内や友人・知人の家に避難した</p> <p>4. 保護施設・民間のシェルターなどに避難した</p> <p>5. パートナー（配偶者や恋人）と別居、離婚又は交際解消した</p> <p>6. 病院に行った</p> <p>7. 警察に通報した</p> <p>8. その他（具体的に _____ ）</p> <p>9. 何もしていない → 次ページの付問10-2へお進みください。</p>
--

【付問 10-1 で「何もしていない」と答えた方におたずねします。】

付問 10-2. あなたが、何もしなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

1. 相談するほどのことではないと思ったから
2. 誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
5. 世間体が悪いと思ったから
6. 他人を巻き込みたくないから
7. 自分にも悪いところがあると思ったから
8. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていくことができると思ったから
9. 思い出したくないから
10. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
11. 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから
12. その他（具体的に)

地域活動について

問 11. あなたは地域社会において、今どのような実践活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

1. 自治会、子ども会育成会、シニアクラブでの活動
2. P T A 活動、青少年健全育成に関する活動
3. 趣味・教養・学習・スポーツ、健康づくりなどのサークル活動
4. 社会奉仕やボランティア活動（登下校見守り・児童文庫・子育て・福祉・環境など）
5. シルバー人材センターでの活動
6. 特に参加していない
7. その他（具体的に)

問 12. 仮にあなたが、次の（ア）から（キ）のような役職、公職への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください		引き受ける	なるべく引き受ける	なるべく断る	断る
（ア） P T A会長・子ども会育成会長	⇒	1	2	3	4
（イ） P T A役員・子ども会育成会役員	⇒	1	2	3	4
（ウ） 自治会長	⇒	1	2	3	4
（エ） 自治会役員	⇒	1	2	3	4
（オ） 職場の管理職	⇒	1	2	3	4
（カ） 県や市の審議会や委員会のメンバー	⇒	1	2	3	4
（キ） 県・市議会議員	⇒	1	2	3	4



【問 12 で（ア）から（キ）のうち、ひとつでも「なるべく断る」、「断る」と答えた方におたずねします。】
付問 12-1. 引き受けないのはどのような理由からですか。（○はいくつでも）

1. 責任が重いから
2. 知識や経験の面で不安があるから
3. 時間的な余裕がないから
4. 経済的な余裕がないから
5. 家族の同意が得られないから
6. 人間関係がわずらわしいから
7. 性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから
8. こうした役職に興味がないから
9. その他（具体的に

)

問 13. 平成 28 年の熊本地震や、平成 29 年の九州北部豪雨など、九州でも多くの自然災害が発生していますが、日頃の防災や震災対応に男女共同参画の視点が活かされていないことが課題※ になっています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 市の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす
2. 避難所の運営に女性も参画できるようにする
3. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
4. 備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる
5. 避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする
6. 防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する
7. 日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする
8. 日頃からの男女平等、男女共同参画意識を高める
9. その他（具体的に)
10. 特にない

※課題例

- ・ 必要な物資（生理用品等）の不足
- ・ 女性への配慮の欠けた避難所運営（更衣室や授乳室がない、下着を配布する担当が男性 等）
- ・ 性別役割分担による役割負担（女性はずっと食事づくりを担当する 等）
- ・ 性暴力被害の発生

男女共同参画に関する施策について

問 14 あなたは、次にあげる（ア）から（セ）の言葉について、どの程度知っていますか。（○はそれぞれ1つだけ）

※項目ごとに横に見てお答えください	内容を知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない
（ア）男女共同参画社会基本法	1	2	3
（イ）男女雇用機会均等法	1	2	3
（ウ）女子差別撤廃条約	1	2	3
（エ）配偶者暴力防止法（DV防止法）	1	2	3
（オ）女性活躍推進法	1	2	3
（カ）男女共同参画週間（6月23日～29日）	1	2	3
（キ）女性に対する暴力をなくす運動	1	2	3
（ク）ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
（ケ）LGBT	1	2	3
（コ）ジェンダーギャップ指数（GGI）	1	2	3
（サ）春日市男女共同参画を推進する条例	1	2	3
（シ）ちくし女性ホットライン（DV相談電話）	1	2	3
（ス）春日市男女共同参画センター じよなさん	1	2	3
（セ）春日市男女共同参画苦情処理制度	1	2	3

問 15. 春日市では、女性も男性も共にいきいきと活躍し、誰もが輝く活力ある社会を目指しています。この実現のために、今後、特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

1. 学校教育や職場、地域などで学習機会を充実する
2. 女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する
3. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
4. 子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
5. 保育や介護の施設・サービスを充実する
6. 仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける
7. 民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する
8. 自治会など地域の団体の役員などに女性が多く参画できるよう団体に働きかける
9. 審議会委員など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
10. 女性リーダーの養成・研修の場を充実する
11. 配偶者などに対する暴力根絶のための啓発活動を充実する
12. セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント防止の啓発活動を充実する
13. 男女共同参画を推進する民間団体との連携を深める
14. LGBT等に関する理解を深める啓発を推進する
15. その他（具体的に _____)
16. 特にない

問 16. 男女共同参画に関して、春日市へのご意見・ご希望などありましたら、自由にご記入ください。

あなたやあなたの家族について

F 1. あなたの性別をご記入ください。

--

F 2. あなたの年齢をお知らせください。(○は1つだけ)

- | | |
|----------|----------|
| 1. 20代以下 | 4. 50代 |
| 2. 30代 | 5. 60代 |
| 3. 40代 | 6. 70代以上 |

F 3. あなたは結婚されていますか (法律婚・事実婚を問いません)。(○は1つだけ)

- | |
|----------------------|
| 1. パートナーがいる (共働きである) |
| 2. パートナーがいる (共働きでない) |
| 3. パートナーはいない (離別) |
| 4. パートナーはいない (死別) |
| 5. 結婚していない |

F 4. あなたにお子さんはいますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

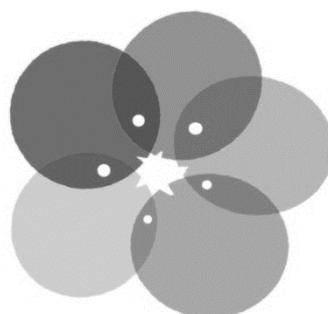
↓
【F 4で「お子さんがいる」と回答した方におたずねします。】
付問 一番下のお子さんの年齢は次のどれにあたりますか。

- | | |
|------------|----------------|
| 1. 未就学児 | 3. 高校生以上の生徒・学生 |
| 2. 小学生・中学生 | 4. 社会人・その他 |

F 5. あなたの職業をお知らせください。※出産休暇、育児休業中の方も働いているものとみなします。
(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. 会社員 | 6. 学生 |
| 2. 公務員 | 7. 専業主婦・主夫 |
| 3. 自営業 | 8. 無職 |
| 4. 家族従事者 ※ | 9. その他 |
| 5. パート・アルバイト・派遣社員 | |

※家族従業者……個人事業主の家族で、その事業を手伝っている方



みんなで春をつくろう

調査は以上で終了です。

お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

記入もれなどがないか再度ご確認いただき、9月20日（金）までに
同封の返信用封筒（切手不要）にてご返送ください。

男女共同参画に関する用語

○男女共同参画社会

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的および文化的利益を享受することができ、かつ、ともに責任を担うべき社会をいいます（男女共同参画社会基本法第2条第1号）。

○配偶者暴力防止法（DV防止法）

平成13年に制定された、配偶者からの暴力に係る通報、相談、保護、自立支援等の体制を整備し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的とする法律です。

○女性活躍推進法

平成27年に成立した、働くことを希望する女性が、職業生活においてその個性と能力を十分に発揮し、活躍できるよう、国や地方公共団体が必要な施策を策定・実施することに加え、事業主が女性の活躍推進に向けた取り組みを自ら実施することを促すための枠組みについて定めた法律です。

○ワーク・ライフ・バランス

「仕事と生活の調和」と訳され、一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭生活や地域生活などにおいても、人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることをいいます。

○LGBT

Lはレズビアン（女性同性愛者）、Gはゲイ（男性同性愛者）、Bはバイセクシュアル（両性愛者）、Tはトランスジェンダー（生まれたときの生物学的・社会的性別とは一致しない、またはとらわれない生き方を選ぶ人などを表現する包括的な言葉）を表し、性的少数者の総称として使用されることもあります。

○ジェンダーギャップ指数（GGI）

世界経済フォーラムが、各国における男女格差を測る指数として毎年発表しています。経済、教育、健康、政治の4つの分野のデータから作成されており、2018年の日本の順位は149か国中110位でした。

○春日市男女共同参画を推進する条例

平成18年12月に制定された春日市での男女共同参画の推進における基本条例です。男女共同参画を進めていくための基本的な考え方となる基本理念を定め、市や市民のみなさん、事業者などがそれぞれの立場で男女共同参画を進めていくこと、市が実施する基本的な施策などについて定めています。

男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書

発行年 令和2年 3月

発行 春日市市民部 人権男女共同参画課

〒816-0806 福岡県春日市光町1丁目73番地

電話：092(584)1201 FAX:092(584)1181

MAIL: jyonasan@city.kasuga.fukuoka.jp

